

【VI-2-4-2-2 使用済燃料貯蔵ラックの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;"><u>3. 評価部位</u></p> <p>ラックの耐震評価は、「4.1 地震応答解析及び構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる板、シートプレート、ラックベース、ラック取付ボルト及び基礎ボルトについて実施する。なお、ラックの種類としては、貯蔵体数及び配列の異なる100体ラック、110体ラック、120体ラック、130体ラック、132体ラック、143体ラック及び144体ラックがあるが、この中で許容応力に対する裕度が一番小さくなる143体ラックについて記載する。ラックの耐震評価部位については、表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4. 地震応答解析及び構造強度評価</p> <p>4.1 地震応答解析及び構造強度評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ラックは、原子炉建物の燃料プールの底部(EL 30.83m)に置かれた共通ベース上に設置され、ラック取付ボルトにより固定されるものとする。 (2) 地震応答解析時のラックの質量には、使用済燃料の質量とラック自身の質量のほか、ラックに含まれる水の質量及びラック外形の付加質量*を考慮する。 (3) 構造強度評価時のラックの質量は、使用済燃料の質量とラック自身の質量のほか、ラックに含まれる水の質量とする。また、更に精緻に評価するため、排除水質量(水中に設置される機器が排除する水の質量)の減算を考慮する。 (4) 地震力は、ラックに対して水平方向及び鉛直方向から作用させる。 ここで、水平方向地震力は、ラックの長辺方向に作用する場合と短辺方向に作用する場合を考慮する。また、水平方向及び鉛直方向の動的地震力による荷重の組合せには、SRSS法を適用する。 (5) 構造概要図(143体ラック)を図4-1に、全体組立図(143, 144体ラック)を図4-2に示す。 (6) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。 <p>注記*：付加質量とは、機器が流体中で加速度を受けた場合に質量が増加したような効果を模擬した、機器の形状により定まる仮想質量をいう。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p style="text-align: center;"><u>3. 評価部位</u></p> <p>ラックの耐震評価は、「4.1 地震応答解析及び構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる板、シートプレート、ラックベース、ラック取付ボルト及び基礎ボルトについて実施する。なお、ラックの種類としては、貯蔵体数及び配列の異なる100体ラック、110体ラック、120体ラック、130体ラック、132体ラック、143体ラック及び144体ラックがあるが、この中で許容応力に対する裕度が一番小さくなる143体ラックについて記載する。ラックの耐震評価部位については、表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4. 地震応答解析及び構造強度評価</p> <p>4.1 地震応答解析及び構造強度評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ラックは、原子炉建物の燃料プールの底部(EL 30.83m)に置かれた共通ベース上に設置され、ラック取付ボルトにより固定されるものとする。 (2) 地震応答解析時のラックの質量には、使用済燃料の質量とラック自身の質量のほか、ラックに含まれる水の質量及びラック外形の付加質量*を考慮する。 (3) 構造強度評価時のラックの質量は、使用済燃料の質量とラック自身の質量のほか、ラックに含まれる水の質量とする。また、更に精緻に評価するため、排除水質量(水中に設置される機器が排除する水の質量)の減算を考慮する。 (4) 地震力は、ラックに対して水平方向及び鉛直方向から作用させる。 ここで、水平方向地震力は、ラックの長辺方向に作用する場合と短辺方向に作用する場合を考慮する。また、水平方向及び鉛直方向の動的地震力による荷重の組合せには、SRSS法を適用する。 (5) 構造概要図(143体ラック)を図4-1に、全体組立図(143, 144体ラック)を図4-2に示す。 (6) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。 <p>注記*：付加質量とは、機器が流体中で加速度を受けた場合に質量が増加したような効果を模擬した、機器の形状により定まる仮想質量をいう。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

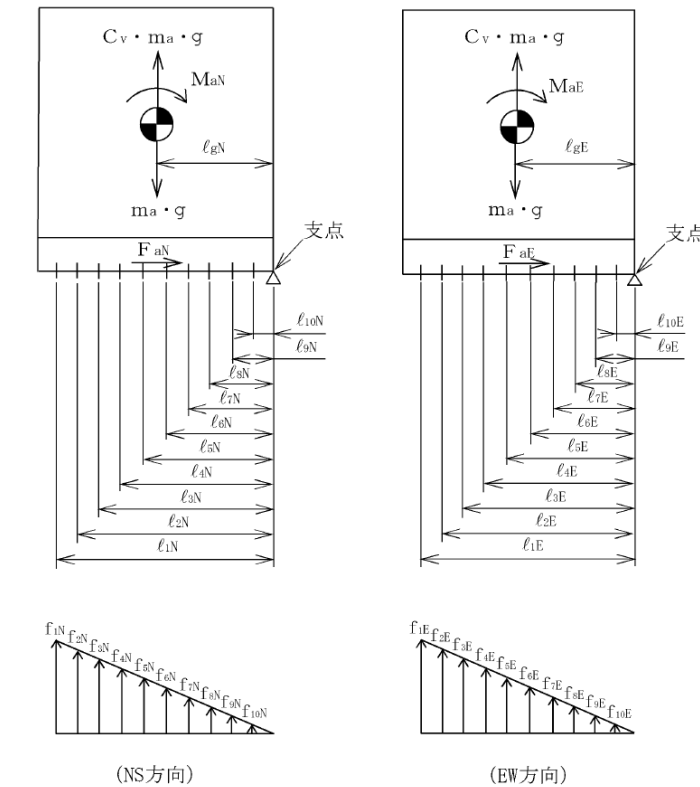
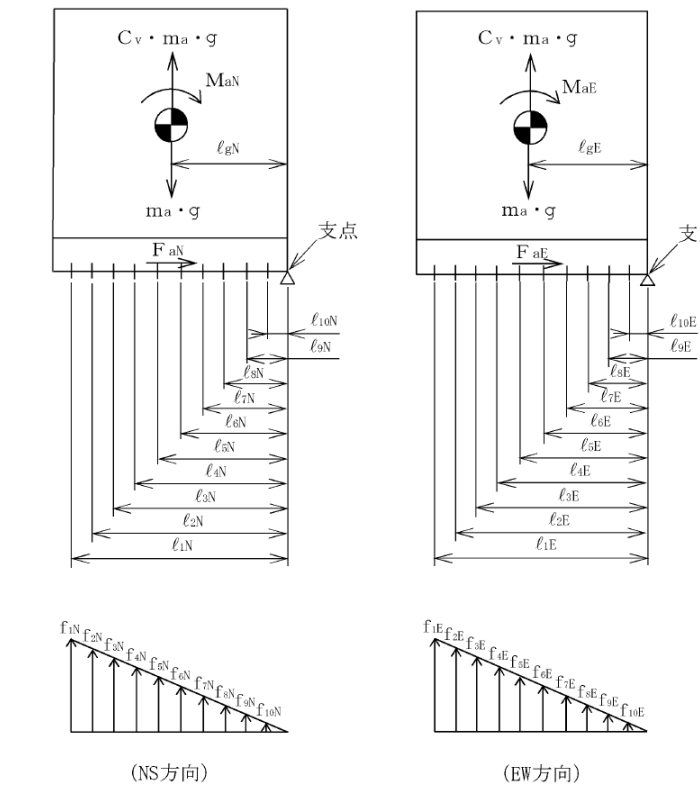
S2 補 VI-2-4-2-2 R1

S2 補 VI-2-4-2-2 R2

【VI-2-4-2-2 使用済燃料貯蔵ラックの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																								
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-2-2 RI</p> <p style="text-align: center;">表 4-1 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>施設区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震重要度分類</th> <th>機器等の区分</th> <th>荷重の組合せ</th> <th>許容応力状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</td> <td rowspan="2">使用済燃料貯蔵設備</td> <td rowspan="2">S</td> <td rowspan="2">—*</td> <td>$D + P_D + M_D + S d \downarrow$</td> <td>ⅢAS</td> </tr> <tr> <td>$D + P_D + M_D + S s$</td> <td>ⅣAS</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力を適用する。</p> <p style="text-align: center;">表 4-2 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>施設区分</th> <th>機器名称</th> <th>設備分類*1</th> <th>機器等の区分</th> <th>荷重の組合せ</th> <th>許容応力状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</td> <td rowspan="2">使用済燃料貯蔵ラック</td> <td rowspan="2">常設耐震/防止 常設/緩和</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td>$D + P_D + M_D + S s$ *3</td> <td>ⅣAS</td> </tr> <tr> <td>$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$</td> <td>VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。 *2：重大事故等その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力を適用する。 *3：「$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。</p>	施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	S	—*	$D + P_D + M_D + S d \downarrow$	ⅢAS	$D + P_D + M_D + S s$	ⅣAS	施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵ラック	常設耐震/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_D + M_D + S s$ *3	ⅣAS	$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$	VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-2-2 R2</p> <p style="text-align: center;">表 4-1 荷重の組合せ及び許容応力状態 (設計基準対象施設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>施設区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震重要度分類</th> <th>機器等の区分</th> <th>荷重の組合せ</th> <th>許容応力状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</td> <td rowspan="2">使用済燃料貯蔵ラック</td> <td rowspan="2">S</td> <td rowspan="2">—*</td> <td>$D + P_D + M_D + S d \downarrow$</td> <td>ⅢAS</td> </tr> <tr> <td>$D + P_D + M_D + S s$</td> <td>ⅣAS</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力を適用する。</p> <p style="text-align: center;">表 4-2 荷重の組合せ及び許容応力状態 (重大事故等対処設備)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>施設区分</th> <th>機器名称</th> <th>設備分類*1</th> <th>機器等の区分</th> <th>荷重の組合せ</th> <th>許容応力状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設</td> <td rowspan="2">使用済燃料貯蔵ラック</td> <td rowspan="2">常設耐震/防止 常設/緩和</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td>$D + P_D + M_D + S s$ *3</td> <td>ⅣAS</td> </tr> <tr> <td>$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$</td> <td>VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備、「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。 *2：重大事故等その他の支持構造物の荷重の組合せ及び許容応力を適用する。 *3：「$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$」の評価に包絡されるため、評価結果の記載を省略する。</p>	施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵ラック	S	—*	$D + P_D + M_D + S d \downarrow$	ⅢAS	$D + P_D + M_D + S s$	ⅣAS	施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態	核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵ラック	常設耐震/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_D + M_D + S s$ *3	ⅣAS	$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$	VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)	<p>記載の適正化</p>
施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態																																																					
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵設備	S	—*	$D + P_D + M_D + S d \downarrow$	ⅢAS																																																					
				$D + P_D + M_D + S s$	ⅣAS																																																					
施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態																																																					
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵ラック	常設耐震/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_D + M_D + S s$ *3	ⅣAS																																																					
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$	VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)																																																					
施設区分	機器名称	耐震重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態																																																					
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵ラック	S	—*	$D + P_D + M_D + S d \downarrow$	ⅢAS																																																					
				$D + P_D + M_D + S s$	ⅣAS																																																					
施設区分	機器名称	設備分類*1	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態																																																					
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設	使用済燃料貯蔵ラック	常設耐震/防止 常設/緩和	—*2	$D + P_D + M_D + S s$ *3	ⅣAS																																																					
				$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S s$	VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)																																																					

【VI-2-4-2-2 使用済燃料貯蔵ラックの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p>4.6.2 ボルトの応力</p> <p>4.6.2.1 ラック取付ボルト</p> <p>図4-3の解析モデルにて、ラックの系全体での荷重を計算機コード「SAP-IV」を使用して算出し、求められた地震時のラックに作用する転倒モーメントM_{ai}及びラックベース底部に作用するせん断力F_{ai}が、ラックに図4-6のように負荷されるものとしてラック取付ボルトの応力を求める。</p> <p>ラック取付ボルトの荷重状態を図4-6に示す。</p>  <p style="text-align: center;">(NS方向) (EW方向)</p> <p style="text-align: center;">図4-6 ラック取付ボルトの荷重状態</p>	<p>4.6.2 ボルトの応力</p> <p>4.6.2.1 ラック取付ボルト</p> <p>図4-3の解析モデルにて、ラックの系全体での荷重を解析コード「SAP-IV」を使用して算出し、求められた地震時のラックに作用する転倒モーメントM_{ai}及びラックベース底部に作用するせん断力F_{ai}が、ラックに図4-6のように負荷されるものとしてラック取付ボルトの応力を求める。</p> <p>ラック取付ボルトの荷重状態を図4-6に示す。</p>  <p style="text-align: center;">(NS方向) (EW方向)</p> <p style="text-align: center;">図4-6 ラック取付ボルトの荷重状態</p>	<p>記載の適正化</p>
<p>S2 補 VI-2-4-2-2 R1</p> <p style="text-align: center;">20</p>	<p>S2 補 VI-2-4-2-2 R2</p> <p style="text-align: center;">20</p>	

【VI-2-4-2-4 燃料プール水位・温度(S A)の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																								
<p>4.3 固有値解析結果</p> <p>固有値解析の結果を表4-1, 表4-2, 振動モード図を図4-2~図4-11に示す。固有周期は, 0.05秒を超えており, 柔構造であることを確認した。</p> <p>表4-1 固有値解析結果(鉛直方向の並進方向拘束あり)</p> <table border="1" data-bbox="492 646 1240 898"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">水平方向刺激係数*</th> <th rowspan="2">鉛直方向刺激係数*</th> </tr> <tr> <th>X方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>水平</td> <td rowspan="5">[Redacted]</td> <td>-0.007</td> <td>0.081</td> <td>-0.043</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>水平</td> <td>0.136</td> <td>-0.014</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td>水平</td> <td>0.105</td> <td>0.525</td> <td>0.023</td> </tr> <tr> <td>4次</td> <td>水平</td> <td>-0.526</td> <td>0.064</td> <td>0.005</td> </tr> <tr> <td>5次</td> <td>鉛直</td> <td>-0.010</td> <td>-0.084</td> <td>0.131</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p> <p>表4-2 固有値解析結果(鉛直方向の並進方向拘束なし)</p> <table border="1" data-bbox="492 993 1240 1245"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">水平方向刺激係数*</th> <th rowspan="2">鉛直方向刺激係数*</th> </tr> <tr> <th>X方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>鉛直</td> <td rowspan="5">[Redacted]</td> <td>-0.038</td> <td>0.053</td> <td>0.089</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>鉛直</td> <td>-0.029</td> <td>-0.062</td> <td>0.085</td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td>水平</td> <td>0.442</td> <td>0.038</td> <td>0.310</td> </tr> <tr> <td>4次</td> <td>水平</td> <td>-0.004</td> <td>-0.528</td> <td>0.018</td> </tr> <tr> <td>5次</td> <td>鉛直</td> <td>0.340</td> <td>0.015</td> <td>-0.512</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p>	モード	卓越方向	固有周期(s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*	X方向	Z方向	1次	水平	[Redacted]	-0.007	0.081	-0.043	2次	水平	0.136	-0.014	0.017	3次	水平	0.105	0.525	0.023	4次	水平	-0.526	0.064	0.005	5次	鉛直	-0.010	-0.084	0.131	モード	卓越方向	固有周期(s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*	X方向	Z方向	1次	鉛直	[Redacted]	-0.038	0.053	0.089	2次	鉛直	-0.029	-0.062	0.085	3次	水平	0.442	0.038	0.310	4次	水平	-0.004	-0.528	0.018	5次	鉛直	0.340	0.015	-0.512	<p>4.3 固有値解析結果</p> <p>固有値解析の結果を表4-1, 表4-2, 振動モード図を図4-2~図4-11に示す。 <u>鉛直方向の並進拘束ありの場合は, 水平方向の固有周期は, 0.05秒を超えており, 柔構造であることを確認した。また, 鉛直方向の固有周期は, 0.05秒以下であり, 剛構造であることを確認した。</u> <u>鉛直方向の並進拘束なしの場合は, 固有周期は, 0.05秒を超えており, 柔構造であることを確認した。</u></p> <p>表4-1 固有値解析結果(鉛直方向の並進方向拘束あり)</p> <table border="1" data-bbox="1691 772 2439 1024"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">水平方向刺激係数*</th> <th rowspan="2">鉛直方向刺激係数*</th> </tr> <tr> <th>X方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>水平</td> <td rowspan="5">[Redacted]</td> <td>-0.007</td> <td>0.081</td> <td>-0.043</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>水平</td> <td>0.136</td> <td>-0.014</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td>水平</td> <td>0.105</td> <td>0.525</td> <td>0.023</td> </tr> <tr> <td>4次</td> <td>水平</td> <td>-0.526</td> <td>0.064</td> <td>0.005</td> </tr> <tr> <td>5次</td> <td>鉛直</td> <td>-0.010</td> <td>-0.084</td> <td>0.131</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p> <p>表4-2 固有値解析結果(鉛直方向の並進方向拘束なし)</p> <table border="1" data-bbox="1691 1119 2439 1371"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">水平方向刺激係数*</th> <th rowspan="2">鉛直方向刺激係数*</th> </tr> <tr> <th>X方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>鉛直</td> <td rowspan="5">[Redacted]</td> <td>-0.038</td> <td>0.053</td> <td>0.089</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>鉛直</td> <td>-0.029</td> <td>-0.062</td> <td>0.085</td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td>水平</td> <td>0.442</td> <td>0.038</td> <td>0.310</td> </tr> <tr> <td>4次</td> <td>水平</td> <td>-0.004</td> <td>-0.528</td> <td>0.018</td> </tr> <tr> <td>5次</td> <td>鉛直</td> <td>0.340</td> <td>0.015</td> <td>-0.512</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p>	モード	卓越方向	固有周期(s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*	X方向	Z方向	1次	水平	[Redacted]	-0.007	0.081	-0.043	2次	水平	0.136	-0.014	0.017	3次	水平	0.105	0.525	0.023	4次	水平	-0.526	0.064	0.005	5次	鉛直	-0.010	-0.084	0.131	モード	卓越方向	固有周期(s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*	X方向	Z方向	1次	鉛直	[Redacted]	-0.038	0.053	0.089	2次	鉛直	-0.029	-0.062	0.085	3次	水平	0.442	0.038	0.310	4次	水平	-0.004	-0.528	0.018	5次	鉛直	0.340	0.015	-0.512	<p>記載の適正化</p>
モード				卓越方向	固有周期(s)		水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*																																																																																																																																	
	X方向	Z方向																																																																																																																																								
1次	水平	[Redacted]	-0.007	0.081	-0.043																																																																																																																																					
2次	水平		0.136	-0.014	0.017																																																																																																																																					
3次	水平		0.105	0.525	0.023																																																																																																																																					
4次	水平		-0.526	0.064	0.005																																																																																																																																					
5次	鉛直		-0.010	-0.084	0.131																																																																																																																																					
モード	卓越方向	固有周期(s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*																																																																																																																																					
			X方向	Z方向																																																																																																																																						
1次	鉛直	[Redacted]	-0.038	0.053	0.089																																																																																																																																					
2次	鉛直		-0.029	-0.062	0.085																																																																																																																																					
3次	水平		0.442	0.038	0.310																																																																																																																																					
4次	水平		-0.004	-0.528	0.018																																																																																																																																					
5次	鉛直		0.340	0.015	-0.512																																																																																																																																					
モード	卓越方向	固有周期(s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*																																																																																																																																					
			X方向	Z方向																																																																																																																																						
1次	水平	[Redacted]	-0.007	0.081	-0.043																																																																																																																																					
2次	水平		0.136	-0.014	0.017																																																																																																																																					
3次	水平		0.105	0.525	0.023																																																																																																																																					
4次	水平		-0.526	0.064	0.005																																																																																																																																					
5次	鉛直		-0.010	-0.084	0.131																																																																																																																																					
モード	卓越方向	固有周期(s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*																																																																																																																																					
			X方向	Z方向																																																																																																																																						
1次	鉛直	[Redacted]	-0.038	0.053	0.089																																																																																																																																					
2次	鉛直		-0.029	-0.062	0.085																																																																																																																																					
3次	水平		0.442	0.038	0.310																																																																																																																																					
4次	水平		-0.004	-0.528	0.018																																																																																																																																					
5次	鉛直		0.340	0.015	-0.512																																																																																																																																					

S2 補 VI-2-4-2-4 R1

S2 補 VI-2-4-2-4 R2

【VI-2-4-2-4 燃料プール水位・温度(S A)の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p>5.4 計算方法</p> <p>5.4.1 応力の計算方法</p> <p>(1) 地震力及びスロッシング力に対してそれぞれ三次元はりモデルによる個別解析を実施し、地震力及びスロッシング力による応力を絶対値和することにより、図4-1に示す解析モデルに生じる応力を算出する。</p> <p>(2) スロッシングにおける応力の算出においては、VI-1-1-9-3「溢水評価条件の設定」2.3「地震起因による溢水」に示す基準地震動S_s (S_s-D)による燃料プールの三次元流動解析により得られた流体速度時刻歴データを用いる。</p> <p>(3) スロッシングにより架構に生じる抗力は、燃料プールの流体速度時刻歴データから架構設置位置における高さレベルごとの水平方向の最大流体速度を用いて算出する。</p> <p>(4) 抗力の算出には以下の式を用い、抗力係数C_dは機械工学便覧 日本機械学会編(2007)より架構が正方形形状であるため2.0とする。なお、抗力の算出においては、流体速度時刻歴データより燃料プール内の架構設置位置における高さレベルごとの流体速度の最大値Vを抽出し、以下の式を用いて抗力F_sを算出する。流体速度時刻歴データは架構に対し支配的となる水平方向のデータを適用する。</p> $F_s = \frac{1}{2} \cdot C_d \cdot \rho \cdot A_s \cdot V^2$ <p>(5) 高さレベルごとに算出した抗力により架構に生じる動水圧荷重を付加し、図4-1に示す解析モデルに生じる応力を算出する。</p> <p style="text-align: center;">29</p>	<p>5.4 計算方法</p> <p>5.4.1 応力の計算方法</p> <p>(1) 地震力及びスロッシング力に対してそれぞれ三次元はりモデルによる個別解析を実施し、地震力及びスロッシング力による応力を絶対値和することにより、図4-1に示す解析モデルに生じる応力を算出する。</p> <p>(2) スロッシングにおける応力の算出においては、VI-1-1-9-3「溢水評価条件の設定」2.3「地震起因による溢水」に示す基準地震動S_s (S_s-D)による燃料プールの三次元流動解析により得られた流体速度時刻歴データを用いる。</p> <p>(3) スロッシングにより架構に生じる抗力は、燃料プールの流体速度時刻歴データから架構設置位置における高さレベルごとの水平方向の最大流体速度を用いて算出する。</p> <p>(4) 抗力の算出には以下の式を用い、抗力係数C_dは機械工学便覧 日本機械学会編(2007)より架構が正方形形状であるため2.0とする。なお、抗力の算出においては、流体速度時刻歴データより燃料プール内の架構設置位置における高さレベルごとの流体速度の最大値Vを抽出し、以下の式を用いて抗力F_sを算出する。流体速度時刻歴データは架構に対し支配的となる水平方向のデータを適用する。</p> $F_s = \frac{1}{2} \cdot C_d \cdot \rho \cdot A_s \cdot \underline{V^2 \cdot 10^{-6}}$ <p>(5) 高さレベルごとに算出した抗力により架構に生じる動水圧荷重を付加し、図4-1に示す解析モデルに生じる応力を算出する。</p> <p style="text-align: center;">29</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

S2 補 VI-2-4-2-4 R1

S2 補 VI-2-4-2-4 R2

【VI-2-4-2-5 燃料プール水位（SA）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p>3. 評価部位 燃料プール水位（SA）の耐震評価は、検出器保護管の [] を考慮し、検出器保護管と検出器架台についてそれぞれ評価を行う。検出器保護管については、「4. 検出器保護管の地震応答解析及び構造強度評価」に示す条件に基づき評価を実施する。また、検出器架台については、「5. 検出器架台の地震応答解析及び構造強度評価」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルトについて評価を実施する。燃料プール水位（SA）の耐震評価部位については、表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4. 検出器保護管の地震応答解析及び構造強度評価</p> <p>4.1 検出器保護管の地震応答解析及び構造強度評価方法</p> <p>(1) 地震応答解析時の検出器保護管の質量には、検出器保護管自身の質量のほか、検出器保護管に含まれる水の質量及び検出器保護管外形の付加質量*を考慮する。また、精緻に評価するため、排除水質量（水中に設置される機器が排除する水の質量）の減算を考慮する。</p> <p>(2) 地震力は、検出器保護管に対して水平方向及び鉛直方向から個別に作用させる。また、水平方向及び鉛直方向の動的地震力による荷重の組合せには、絶対値和を適用する。</p> <p>(3) スロッシング荷重は、検出器保護管に対して水平方向から作用させる。</p> <p>(4) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>注記*：付加質量とは、機器が流体中で加速度を受けた場合に質量が増加したような効果を模擬した、機器の形状により定まる仮想質量をいう。</p> <p>4.2 検出器保護管の荷重の組合せ及び許容応力</p> <p>4.2.1 荷重の組合せ及び許容応力状態 検出器保護管の荷重の組合せ及び許容応力状態のうち重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-1に示す。</p> <p>4.2.2 検出器保護管の許容応力 検出器保護管の評価に用いる許容応力は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき表4-2に示す。</p> <p>4.2.3 検出器保護管の使用材料の許容応力評価条件 検出器保護管の使用材料の許容応力評価条件のうち重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-3に示す。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p>3. 評価部位 燃料プール水位（SA）の耐震評価は、検出器保護管の [] を考慮し、検出器保護管と検出器架台についてそれぞれ評価を行う。検出器保護管については、「4. 検出器保護管の地震応答解析及び構造強度評価」に示す条件に基づき評価を実施する。また、検出器架台については、「5. 検出器架台の地震応答解析及び構造強度評価」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルトについて評価を実施する。燃料プール水位（SA）の耐震評価部位については、表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4. 検出器保護管の地震応答解析及び構造強度評価</p> <p>4.1 検出器保護管の地震応答解析及び構造強度評価方法</p> <p>(1) <u>検出器保護管を構成する部材をはり要素にてモデル化した3次元有限要素法モデルによるスペクトルモーダル解析（水平方向）及び静解析（鉛直方向）を適用する。</u></p> <p>(2) 地震応答解析時の検出器保護管の質量には、検出器保護管自身の質量のほか、検出器保護管に含まれる水の質量及び検出器保護管外形の付加質量*を考慮する。また、精緻に評価するため、排除水質量（水中に設置される機器が排除する水の質量）の減算を考慮する。</p> <p>(3) 地震力は、検出器保護管に対して水平方向及び鉛直方向から個別に作用させる。また、水平方向及び鉛直方向の動的地震力による荷重の組合せには、絶対値和を適用する。</p> <p>(4) スロッシング荷重は、検出器保護管に対して水平方向から作用させる。</p> <p>(5) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>注記*：付加質量とは、機器が流体中で加速度を受けた場合に質量が増加したような効果を模擬した、機器の形状により定まる仮想質量をいう。</p> <p>4.2 検出器保護管の荷重の組合せ及び許容応力</p> <p>4.2.1 荷重の組合せ及び許容応力状態 検出器保護管の荷重の組合せ及び許容応力状態のうち重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-1に示す。</p> <p>4.2.2 検出器保護管の許容応力 検出器保護管の評価に用いる許容応力は、VI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき表4-2に示す。</p> <p>4.2.3 検出器保護管の使用材料の許容応力評価条件 検出器保護管の使用材料の許容応力評価条件のうち重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-3に示す。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

S2 補 VI-2-4-2-5 R1

S2 補 VI-2-4-2-5 R2

【VI-2-4-2-5 燃料プール水位 (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																
<p>4.4 検出器保護管の固有周期 検出器保護管の固有値解析の結果を表4-4、振動モード図を図4-2に示す。水平方向の固有周期は、0.05秒を超えており、柔構造であることを確認した。</p> <p style="text-align: center;">表4-4 検出器保護管の固有値解析結果</p> <table border="1" data-bbox="510 642 1225 827"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">水平方向刺激係数*</th> <th rowspan="2">鉛直方向刺激係数*</th> </tr> <tr> <th>X方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%; margin-top: 20px;"></div> <p style="text-align: center;">図4-2 検出器振動モード図</p> <p style="text-align: center;">13</p>	モード	卓越方向	固有周期 (s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*	X方向	Z方向	1次						2次						3次						4次						<p>4.4 検出器保護管の固有周期 検出器保護管の固有値解析の結果を表4-4、振動モード図を図4-2に示す。水平方向の固有周期は、0.05秒を超えており、柔構造であることを確認した。<u>また、鉛直方向の固有周期は、0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。</u></p> <p style="text-align: center;">表4-4 検出器保護管の固有値解析結果</p> <table border="1" data-bbox="1709 674 2424 858"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">水平方向刺激係数*</th> <th rowspan="2">鉛直方向刺激係数*</th> </tr> <tr> <th>X方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4次</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：モード質量を正規化するモードベクトルを用いる。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%; margin-top: 20px;"></div> <p style="text-align: center;">図4-2 検出器振動モード図</p> <p style="text-align: center;">13</p>	モード	卓越方向	固有周期 (s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*	X方向	Z方向	1次						2次						3次						4次						<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
モード				卓越方向	固有周期 (s)		水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*																																																									
	X方向	Z方向																																																																
1次																																																																		
2次																																																																		
3次																																																																		
4次																																																																		
モード	卓越方向	固有周期 (s)	水平方向刺激係数*		鉛直方向刺激係数*																																																													
			X方向	Z方向																																																														
1次																																																																		
2次																																																																		
3次																																																																		
4次																																																																		

S2 補 VI-2-4-2-5 R1

S2 補 VI-2-4-2-5 R2

【VI-2-4-2-5 燃料プール水位（SA）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考								
<p>4.6 検出器保護管の計算方法</p> <p>4.6.1 地震力における応力の算出</p> <ol style="list-style-type: none"> 図4-1に示す解析モデルによりスペクトルモーダル解析を実施する。 スペクトルモーダル解析によりX及びZ方向における各節点の曲げモーメントを算出する。また、X及びZ方向の曲げモーメントは、ベクトル和にて組み合わせる。 組み合わせた曲げモーメントを用いて、検出器保護管の水平方向に発生する曲げ応力を算出する。算出結果を表4-6に示す。 <div style="text-align: center;"> <p>表4-6 地震力における曲げ応力</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>曲げ応力 σ_{p1} (MPa)</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> <ol style="list-style-type: none"> 地震力及び自重により検出器保護管のY方向に発生する軸応力を静的解析により算出する。 水平方向の曲げ応力にY方向の軸応力を絶対値和することにより組み合わせる。 <p>4.6.2 スロッシングにおける応力の算出</p> <ol style="list-style-type: none"> スロッシングにおける応力の算出においては、VI-1-1-9-3「溢水評価条件の設定」に示す基準地震動S_s（S_s-D）による燃料プールの三次元流動解析により得られた流体速度時刻歴データを用いる。 流体速度時刻歴データより、水平方向における水深ごとの最大流速を用い、検出器保護管に生じる抗力を算出する。 抗力の算出には以下の式を用い、抗力係数C_dは機械工学便覧 日本機械学会編（2007）より検出器保護管が円柱形状であるため1.2とする。 $F_s = \frac{1}{2} \cdot C_d \cdot \rho \cdot A_s \cdot V^2$ <ol style="list-style-type: none"> 算出されたスロッシングによるX及びZ方向の曲げモーメントはベクトル和にて組み合わせる。 組み合わせた曲げモーメントを用いて、検出器保護管に発生する曲げ応力を算出する。曲げ応力の算出結果を表4-7示す。 <div style="text-align: center;"> <p>表4-7 スロッシングにおける曲げ応力</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>スロッシングにおける曲げ応力 σ_{p2} (MPa)</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">15</p>	曲げ応力 σ_{p1} (MPa)		スロッシングにおける曲げ応力 σ_{p2} (MPa)		<p>4.6 検出器保護管の計算方法</p> <p>4.6.1 地震力における応力の算出</p> <ol style="list-style-type: none"> 図4-1に示す解析モデルによりスペクトルモーダル解析を実施する。 スペクトルモーダル解析によりX及びZ方向における各節点の曲げモーメントを算出する。また、X及びZ方向の曲げモーメントは、ベクトル和にて組み合わせる。 組み合わせた曲げモーメントを用いて、検出器保護管の水平方向に発生する曲げ応力を算出する。算出結果を表4-6に示す。 <div style="text-align: center;"> <p>表4-6 地震力における曲げ応力</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>曲げ応力 σ_{p1} (MPa)</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> <ol style="list-style-type: none"> 地震力及び自重により検出器保護管のY方向に発生する軸応力を静的解析により算出する。 水平方向の曲げ応力にY方向の軸応力を絶対値和することにより組み合わせる。 <p>4.6.2 スロッシングにおける応力の算出</p> <ol style="list-style-type: none"> スロッシングにおける応力の算出においては、VI-1-1-9-3「溢水評価条件の設定」に示す基準地震動S_s（S_s-D）による燃料プールの三次元流動解析により得られた流体速度時刻歴データを用いる。 流体速度時刻歴データより、水平方向における水深ごとの最大流速を用い、検出器保護管に生じる抗力を算出する。 抗力の算出には以下の式を用い、抗力係数C_dは機械工学便覧 日本機械学会編（2007）より検出器保護管が円柱形状であるため1.2とする。 $F_s = \frac{1}{2} \cdot C_d \cdot \rho \cdot A_s \cdot V^2 \cdot 10^{-6}$ <ol style="list-style-type: none"> 算出されたスロッシングによるX及びZ方向の曲げモーメントはベクトル和にて組み合わせる。 組み合わせた曲げモーメントを用いて、検出器保護管に発生する曲げ応力を算出する。曲げ応力の算出結果を表4-7示す。 <div style="text-align: center;"> <p>表4-7 スロッシングにおける曲げ応力</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>スロッシングにおける曲げ応力 σ_{p2} (MPa)</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">15</p>	曲げ応力 σ_{p1} (MPa)		スロッシングにおける曲げ応力 σ_{p2} (MPa)		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
曲げ応力 σ_{p1} (MPa)										
スロッシングにおける曲げ応力 σ_{p2} (MPa)										
曲げ応力 σ_{p1} (MPa)										
スロッシングにおける曲げ応力 σ_{p2} (MPa)										

S2 補 VI-2-4-2-5 R1

S2 補 VI-2-4-2-5 R2

【VI-2-4-2-5 燃料プール水位 (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																																												
<p>S2 補 VI-2-4-2-5 R1</p> <p>1.2 検出器梁台 1.2.1 設計条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">取付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料プール水位 (S A)</td> <td>常設/防し 常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">□ El. 42.80*</td> <td>0.05 以下</td> <td>0.05 以下</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度Ⅱ (基準地震動 S s) を上回る設計用床応答スペクトルにより得られる震度</p> <p>1.2.2 機器要目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>m_{b1} (kg)</th> <th>m_{s2} (kg)</th> <th>h₁ (mm)</th> <th>h_s (mm)</th> <th>θ_{1,1}* (mm)</th> <th>θ_{1,2}* (mm)</th> <th>θ_{2,1}* (mm)</th> <th>θ_{2,2}* (mm)</th> <th>θ_b (mm)</th> <th>A_b (mm²)</th> <th>n</th> <th>n_f</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 前後左右方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">S_y (MPa)</th> <th rowspan="2">S_u (MPa)</th> <th rowspan="2">F (MPa)</th> <th rowspan="2">F* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト</td> <td></td> <td>176</td> <td>476</td> <td>—</td> <td>205</td> <td>—</td> <td>前後方向</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>材料</th> <th>T (°C)</th> <th>E (MPa)</th> <th>v</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検出器梁台</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	設備分類	取付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S d又は静的震度		基準地震動 S s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	燃料プール水位 (S A)	常設/防し 常設/緩和	□ El. 42.80*	0.05 以下	0.05 以下	—	—	—	—		m _{b1} (kg)	m _{s2} (kg)	h ₁ (mm)	h _s (mm)	θ _{1,1} * (mm)	θ _{1,2} * (mm)	θ _{2,1} * (mm)	θ _{2,2} * (mm)	θ _b (mm)	A _b (mm ²)	n	n _f												1	部材	材料	S _y (MPa)	S _u (MPa)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S d又は静的震度	基準地震動 S s	基礎ボルト		176	476	—	205	—	前後方向	部材	材料	T (°C)	E (MPa)	v	検出器梁台				0.3	<p>S2 補 VI-2-4-2-5 R2</p> <p>1.2 検出器梁台 1.2.1 設計条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">取付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料プール水位 (S A)</td> <td>常設/防し 常設/緩和</td> <td style="text-align: center;">□ El. 42.80*</td> <td>0.05 以下</td> <td>0.05 以下</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度Ⅱ (基準地震動 S s) を上回る設計用床応答スペクトルにより得られる震度</p> <p>1.2.2 機器要目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>m_{b1} (kg)</th> <th>m_{s2} (kg)</th> <th>h₁ (mm)</th> <th>h_s (mm)</th> <th>θ_{1,1}* (mm)</th> <th>θ_{1,2}* (mm)</th> <th>θ_{2,1}* (mm)</th> <th>θ_{2,2}* (mm)</th> <th>θ_b (mm)</th> <th>A_b (mm²)</th> <th>n</th> <th>n_f</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 前後左右方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">材料</th> <th rowspan="2">S_y (MPa)</th> <th rowspan="2">S_u (MPa)</th> <th rowspan="2">F (MPa)</th> <th rowspan="2">F* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト</td> <td></td> <td>176</td> <td>476</td> <td>—</td> <td>205</td> <td>—</td> <td>前後方向</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>材料</th> <th>T (°C)</th> <th>E (MPa)</th> <th>v</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検出器梁台</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	設備分類	取付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S d又は静的震度		基準地震動 S s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	燃料プール水位 (S A)	常設/防し 常設/緩和	□ El. 42.80*	0.05 以下	0.05 以下	—	—	—	—		m _{b1} (kg)	m _{s2} (kg)	h ₁ (mm)	h _s (mm)	θ _{1,1} * (mm)	θ _{1,2} * (mm)	θ _{2,1} * (mm)	θ _{2,2} * (mm)	θ _b (mm)	A _b (mm ²)	n	n _f												1	部材	材料	S _y (MPa)	S _u (MPa)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S d又は静的震度	基準地震動 S s	基礎ボルト		176	476	—	205	—	前後方向	部材	材料	T (°C)	E (MPa)	v	検出器梁台				0.3	<p>記載の適正化</p>
機器名称				設備分類	取付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S d又は静的震度			基準地震動 S s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																																	
	水平方向	鉛直方向	水平方向			鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																						
燃料プール水位 (S A)	常設/防し 常設/緩和	□ El. 42.80*	0.05 以下	0.05 以下	—	—	—	—																																																																																																																																																						
m _{b1} (kg)	m _{s2} (kg)	h ₁ (mm)	h _s (mm)	θ _{1,1} * (mm)	θ _{1,2} * (mm)	θ _{2,1} * (mm)	θ _{2,2} * (mm)	θ _b (mm)	A _b (mm ²)	n	n _f																																																																																																																																																			
											1																																																																																																																																																			
部材	材料	S _y (MPa)	S _u (MPa)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																								
						弾性設計用地震動 S d又は静的震度	基準地震動 S s																																																																																																																																																							
基礎ボルト		176	476	—	205	—	前後方向																																																																																																																																																							
部材	材料	T (°C)	E (MPa)	v																																																																																																																																																										
検出器梁台				0.3																																																																																																																																																										
機器名称	設備分類	取付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S d又は静的震度		基準地震動 S s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																																					
			水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																						
燃料プール水位 (S A)	常設/防し 常設/緩和	□ El. 42.80*	0.05 以下	0.05 以下	—	—	—	—																																																																																																																																																						
m _{b1} (kg)	m _{s2} (kg)	h ₁ (mm)	h _s (mm)	θ _{1,1} * (mm)	θ _{1,2} * (mm)	θ _{2,1} * (mm)	θ _{2,2} * (mm)	θ _b (mm)	A _b (mm ²)	n	n _f																																																																																																																																																			
											1																																																																																																																																																			
部材	材料	S _y (MPa)	S _u (MPa)	F (MPa)	F* (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																								
						弾性設計用地震動 S d又は静的震度	基準地震動 S s																																																																																																																																																							
基礎ボルト		176	476	—	205	—	前後方向																																																																																																																																																							
部材	材料	T (°C)	E (MPa)	v																																																																																																																																																										
検出器梁台				0.3																																																																																																																																																										

【VI-2-4-4-1 燃料プール監視カメラ (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考										
<p>3.3 固有周期</p> <p>3.3.1 固有周期の確認</p> <p>監視カメラ制御盤 (中央制御室) の固有周期は、設備一式での正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-2 固有周期 (単位: s)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">監視カメラ制御盤 (中央制御室)</td> <td style="text-align: center;">水平</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鉛直</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">44</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 115px; top: 470px;">S2 補 VI-2-4-4-1 R1</p>	監視カメラ制御盤 (中央制御室)	水平	□	鉛直	□	<p>3.3 固有周期</p> <p>3.3.1 固有周期の確認</p> <p>監視カメラ制御盤 (中央制御室) の固有周期は、設備一式での正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-2に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-2 固有周期 (単位: s)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">監視カメラ制御盤 (中央制御室)</td> <td style="text-align: center;">水平</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鉛直</td> <td style="text-align: center;">0.05 以下</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">44</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 520px; top: 470px;">S2 補 VI-2-4-4-1 R2</p>	監視カメラ制御盤 (中央制御室)	水平	□	鉛直	0.05 以下	<p>記載の適正化</p>
監視カメラ制御盤 (中央制御室)		水平	□									
	鉛直	□										
監視カメラ制御盤 (中央制御室)	水平	□										
	鉛直	0.05 以下										

【VI-2-4-4-1 燃料プール監視カメラ (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																																								
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-1 R1</p> <p style="text-align: center;">【監視カメラ制御盤 (中央制御室) の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 設計基準対象施設</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">耐震重要度分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>監視カメラ制御盤 (中央制御室)</td> <td>S</td> <td style="text-align: center;">E1</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">C_H=□</td> <td style="text-align: center;">C_V=□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度II (基準地震動 S_s)</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m_i (kg)</th> <th>h_i (mm)</th> <th>d_i (mm)</th> <th>A_{b i} (mm²)</th> <th>n_i</th> <th>S_{y i} (MPa)</th> <th>S_{u i} (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ_{1 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ_{2 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">n f i*</th> <th rowspan="2">F_i (MPa)</th> <th rowspan="2">F_i* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">短辺方向</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">短辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	監視カメラ制御盤 (中央制御室)	S	E1	□	□	—	—	C _H =□	C _V =□	□	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	□	□	□	取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	□	□	□	部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n f i*	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	—	—	短辺方向	取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	—	—	短辺方向	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-1 R2</p> <p style="text-align: center;">【監視カメラ制御盤 (中央制御室) の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 設計基準対象施設</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">耐震重要度分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>監視カメラ制御盤 (中央制御室)</td> <td>S</td> <td style="text-align: center;">E1</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">0.05以下</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">C_H=□</td> <td style="text-align: center;">C_V=□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度II (基準地震動 S_s)</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m_i (kg)</th> <th>h_i (mm)</th> <th>d_i (mm)</th> <th>A_{b i} (mm²)</th> <th>n_i</th> <th>S_{y i} (MPa)</th> <th>S_{u i} (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ_{1 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ_{2 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">n f i*</th> <th rowspan="2">F_i (MPa)</th> <th rowspan="2">F_i* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">短辺方向</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">短辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	監視カメラ制御盤 (中央制御室)	S	E1	□	0.05以下	—	—	C _H =□	C _V =□	□	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	□	□	□	取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	□	□	□	部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n f i*	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	—	—	短辺方向	取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	—	—	短辺方向	<p>記載の適正化</p>
機器名称				耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																													
	水平方向	鉛直方向	水平方向			鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																		
監視カメラ制御盤 (中央制御室)	S	E1	□	□	—	—	C _H =□	C _V =□	□																																																																																																																																																	
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	□	□	□																																																																																																																																																			
取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	□	□	□																																																																																																																																																			
部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n f i*	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																				
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	—	—	短辺方向																																																																																																																																																			
取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	—	—	短辺方向																																																																																																																																																			
機器名称	耐震重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																																	
			水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																		
監視カメラ制御盤 (中央制御室)	S	E1	□	0.05以下	—	—	C _H =□	C _V =□	□																																																																																																																																																	
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	□	□	□																																																																																																																																																			
取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	□	□	□																																																																																																																																																			
部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n f i*	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																				
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	□	□	□	□	—	—	短辺方向																																																																																																																																																			
取付ボルト (i=2)	□	□	□	□	—	—	短辺方向																																																																																																																																																			
51	51																																																																																																																																																									

【VI-2-4-4-1 燃料プール監視カメラ (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																																																																										
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-1 R1</p> <p>2. 重大事故等対処設備</p> <p>2.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th colspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>監視カメラ制御盤 (中央制御室)</td> <td>常設/防犯 常設/緩和</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>C_H=<input type="text"/></td> <td>C_V=<input type="text"/></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S_s)</p> <p>2.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">m_i (kg)</th> <th rowspan="2">h_i (mm)</th> <th rowspan="2">d_i (mm)</th> <th rowspan="2">A_{b i} (mm²)</th> <th rowspan="2">n_i</th> <th rowspan="2">S_{y i} (MPa)</th> <th rowspan="2">S_{u i} (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>長辺方向</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>長辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	監視カメラ制御盤 (中央制御室)	常設/防犯 常設/緩和																		C _H = <input type="text"/>	C _V = <input type="text"/>		部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)									短辺方向										長辺方向	取付ボルト (i=2)									短辺方向										長辺方向	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-1 R2</p> <p>2. 重大事故等対処設備</p> <p>2.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th colspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>監視カメラ制御盤 (中央制御室)</td> <td>常設/防犯 常設/緩和</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.05以下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S_s)</p> <p>2.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">m_i (kg)</th> <th rowspan="2">h_i (mm)</th> <th rowspan="2">d_i (mm)</th> <th rowspan="2">A_{b i} (mm²)</th> <th rowspan="2">n_i</th> <th rowspan="2">S_{y i} (MPa)</th> <th rowspan="2">S_{u i} (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>長辺方向</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>長辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	監視カメラ制御盤 (中央制御室)	常設/防犯 常設/緩和															0.05以下						部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)									短辺方向										長辺方向	取付ボルト (i=2)									短辺方向										長辺方向	記載の適正化
機器名称			設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																																																																
	水平方向	鉛直方向		水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																																																			
監視カメラ制御盤 (中央制御室)	常設/防犯 常設/緩和																																																																																																																																																																																											
								C _H = <input type="text"/>	C _V = <input type="text"/>																																																																																																																																																																																			
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																																																				
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)									短辺方向																																																																																																																																																																																			
									長辺方向																																																																																																																																																																																			
取付ボルト (i=2)									短辺方向																																																																																																																																																																																			
									長辺方向																																																																																																																																																																																			
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																																																																		
		水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																																																			
監視カメラ制御盤 (中央制御室)	常設/防犯 常設/緩和																																																																																																																																																																																											
					0.05以下																																																																																																																																																																																							
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																																																				
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)									短辺方向																																																																																																																																																																																			
									長辺方向																																																																																																																																																																																			
取付ボルト (i=2)									短辺方向																																																																																																																																																																																			
									長辺方向																																																																																																																																																																																			

【VI-2-4-4-1 燃料プール監視カメラ (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考								
<p>4.3 評価部位 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の耐震評価は、「4.5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルトについて実施する。 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の耐震評価部位については、表 4-1 の概略構造図に示す。</p> <p>4.4 固有周期 4.4.1 基本方針 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の固有周期は、振動試験（加振試験）にて求める。</p> <p>4.4.2 固有周期の確認方法 サポート鋼材を含む設備一式での正弦波掃引試験により固有周期を確認する。表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の外形図を表 4-1 の概略構造図に示す。</p> <p>4.4.3 固有周期の確認結果 固有周期の確認結果を表 4-3 に示す。試験の結果、固有周期は 0.05 秒以下であり、剛構造であることを確認した。</p> <p style="text-align: center;">表 4-3 固有周期 (単位: s)</p> <table border="1" data-bbox="617 1087 1118 1161"> <tr> <td>水平</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">62</p>	水平		鉛直		<p>4.3 評価部位 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の耐震評価は、「4.5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルトについて実施する。 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の耐震評価部位については、表 4-1 の概略構造図に示す。</p> <p>4.4 固有周期 4.4.1 基本方針 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の固有周期は、振動試験（加振試験）にて求める。</p> <p>4.4.2 固有周期の確認方法 サポート鋼材を含む設備一式での正弦波掃引試験により固有周期を確認する。表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の外形図を表 4-1 の概略構造図に示す。</p> <p>4.4.3 固有周期の確認結果 固有周期の確認結果を表 4-3 に示す。試験の結果、固有周期は 0.05 秒以下であり、剛構造であることを確認した。</p> <p style="text-align: center;">表 4-3 固有周期 (単位: s)</p> <table border="1" data-bbox="1819 1087 2320 1161"> <tr> <td>水平</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td>0.05 以下</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">62</p>	水平		鉛直	0.05 以下	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
水平										
鉛直										
水平										
鉛直	0.05 以下									

S2 補 VI-2-4-4-1 R1

S2 補 VI-2-4-4-1 R2

【VI-2-4-4-1 燃料プール監視カメラ (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																								
<p>4.5.3 設計用地震力 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の設計用地震力のうち重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-7に示す。 「基準地震動S_s」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。</p> <p style="text-align: center;">表4-7 設計用地震力（重大事故等対処設備）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">据付場所 及び 床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動S_s</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向 設計震度</th> <th>鉛直方向 設計震度</th> <th>水平方向 設計震度</th> <th>鉛直方向 設計震度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対策所 EL <input type="text"/> (EL <input type="text"/>*1)</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>C_H=<input type="text"/>*2</td> <td>C_V=<input type="text"/>*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：基準床レベルを示す。 *2：設計用震度II（基準地震動S_s）</p>	据付場所 及び 床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s		水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	緊急時対策所 EL <input type="text"/> (EL <input type="text"/> *1)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	—	—	C _H = <input type="text"/> *2	C _V = <input type="text"/> *2	<p>4.5.3 設計用地震力 表示（監視モニタ）（緊急時対策所）の設計用地震力のうち重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-7に示す。 「基準地震動S_s」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。</p> <p style="text-align: center;">表4-7 設計用地震力（重大事故等対処設備）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">据付場所 及び 床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動S_s</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向 設計震度</th> <th>鉛直方向 設計震度</th> <th>水平方向 設計震度</th> <th>鉛直方向 設計震度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊急時対策所 EL <input type="text"/> (EL <input type="text"/>*1)</td> <td><input type="text"/></td> <td>0.05 以下</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>C_H=<input type="text"/>*2</td> <td>C_V=<input type="text"/>*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：基準床レベルを示す。 *2：設計用震度II（基準地震動S_s）</p>	据付場所 及び 床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s		水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	緊急時対策所 EL <input type="text"/> (EL <input type="text"/> *1)	<input type="text"/>	0.05 以下	—	—	C _H = <input type="text"/> *2	C _V = <input type="text"/> *2	記載の適正化
据付場所 及び 床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s																																				
	水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度																																				
緊急時対策所 EL <input type="text"/> (EL <input type="text"/> *1)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	—	—	C _H = <input type="text"/> *2	C _V = <input type="text"/> *2																																				
据付場所 及び 床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動S _d 又は静的震度		基準地震動S _s																																					
	水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度																																				
緊急時対策所 EL <input type="text"/> (EL <input type="text"/> *1)	<input type="text"/>	0.05 以下	—	—	C _H = <input type="text"/> *2	C _V = <input type="text"/> *2																																				
67	67																																									

S2 補 VI-2-4-4-1 R1

S2 補 VI-2-4-4-1 R2

【VI-2-4-4-1 燃料プール監視カメラ (S A) の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																												
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-1 R1</p> <p style="text-align: center;">【表示 (監視モニタ) (緊急時対策所) の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 重大事故等対処設備</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表示 (監視モニタ) (緊急時対策所)</td> <td>常設/防犯 常設/緩和</td> <td>緊急時対策所 EL (EL^{*)})</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>C_H=<input type="text"/>^{*)}</td> <td>C_V=<input type="text"/>^{*)}</td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S_s)</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m (kg)</th> <th>h (mm)</th> <th>d (mm)</th> <th>A_b (mm²)</th> <th>n</th> <th>S_y (MPa)</th> <th>S_u (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/>^{*)}</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ₁*2 (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ₂*2 (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ₃*2 (mm)</th> <th rowspan="2">n (V)*2</th> <th rowspan="2">n (H)*2</th> <th rowspan="2">F* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>前後方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 重心位置を保守的な位置に設定して評価する。 *2: 各ボルトの機器要目における上段は左右方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は前後方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	表示 (監視モニタ) (緊急時対策所)	常設/防犯 常設/緩和	緊急時対策所 EL (EL ^{*)})	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	C _H = <input type="text"/> ^{*)}	C _V = <input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>	部材	m (kg)	h (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)	基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	部材	ℓ ₁ *2 (mm)	ℓ ₂ *2 (mm)	ℓ ₃ *2 (mm)	n (V)*2	n (H)*2	F* (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	前後方向	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-1 R2</p> <p style="text-align: center;">【表示 (監視モニタ) (緊急時対策所) の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 重大事故等対処設備</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表示 (監視モニタ) (緊急時対策所)</td> <td>常設/防犯 常設/緩和</td> <td>緊急時対策所 EL (EL^{*)})</td> <td><input type="text"/></td> <td>0.05 以下</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>C_H=<input type="text"/>^{*)}</td> <td>C_V=<input type="text"/>^{*)}</td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S_s)</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m (kg)</th> <th>h (mm)</th> <th>d (mm)</th> <th>A_b (mm²)</th> <th>n</th> <th>S_y (MPa)</th> <th>S_u (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/>^{*)}</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ₁*2 (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ₂*2 (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ₃*2 (mm)</th> <th rowspan="2">n (V)*2</th> <th rowspan="2">n (H)*2</th> <th rowspan="2">F* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト</td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td>前後方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 重心位置を保守的な位置に設定して評価する。 *2: 各ボルトの機器要目における上段は左右方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は前後方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	表示 (監視モニタ) (緊急時対策所)	常設/防犯 常設/緩和	緊急時対策所 EL (EL ^{*)})	<input type="text"/>	0.05 以下	<input type="text"/>	<input type="text"/>	C _H = <input type="text"/> ^{*)}	C _V = <input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>	部材	m (kg)	h (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)	基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	部材	ℓ ₁ *2 (mm)	ℓ ₂ *2 (mm)	ℓ ₃ *2 (mm)	n (V)*2	n (H)*2	F* (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	前後方向	記載の適正化
機器名称				設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																	
	水平方向	鉛直方向	水平方向			鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																						
表示 (監視モニタ) (緊急時対策所)	常設/防犯 常設/緩和	緊急時対策所 EL (EL ^{*)})	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	C _H = <input type="text"/> ^{*)}	C _V = <input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>																																																																																																																					
部材	m (kg)	h (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)																																																																																																																							
基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>																																																																																																																							
部材	ℓ ₁ *2 (mm)	ℓ ₂ *2 (mm)	ℓ ₃ *2 (mm)	n (V)*2	n (H)*2	F* (MPa)	転倒方向																																																																																																																							
							弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																						
基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	前後方向																																																																																																																						
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																					
			水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																						
表示 (監視モニタ) (緊急時対策所)	常設/防犯 常設/緩和	緊急時対策所 EL (EL ^{*)})	<input type="text"/>	0.05 以下	<input type="text"/>	<input type="text"/>	C _H = <input type="text"/> ^{*)}	C _V = <input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>																																																																																																																					
部材	m (kg)	h (mm)	d (mm)	A _b (mm ²)	n	S _y (MPa)	S _u (MPa)																																																																																																																							
基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/> ^{*)}	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>																																																																																																																							
部材	ℓ ₁ *2 (mm)	ℓ ₂ *2 (mm)	ℓ ₃ *2 (mm)	n (V)*2	n (H)*2	F* (MPa)	転倒方向																																																																																																																							
							弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																						
基礎ボルト	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	前後方向																																																																																																																						

【VI-2-4-4-2 燃料プール監視カメラ用冷却設備の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																		
<p>3. 評価部位 燃料プール監視カメラ用冷却設備の耐震評価は、「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルト及び取付ボルトについて実施する。 燃料プール監視カメラ用冷却設備の耐震評価部位については、表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4. 固有周期</p> <p>4.1 基本方針 燃料プール監視カメラ用冷却設備の固有周期は、振動試験（加振試験）にて求める。</p> <p>4.2 固有周期の確認方法 設備一式での正弦波掃引試験により固有周期を確認する。燃料プール監視カメラ用冷却設備の外形図を表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4.3 固有周期の確認結果 固有周期の確認結果を表4-1に示す。試験の結果、固有周期は0.05秒を超えており、柔構造であることを確認した。</p> <div style="text-align: center;"> <p>表4-1 固有周期 (単位：s)</p> <table border="1"> <tr> <td>燃料プール監視カメラ用冷却設備</td> <td>水平</td> <td rowspan="4" style="width: 40px; height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td>(A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)</td> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td>燃料プール監視カメラ用冷却設備</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>(B-燃料プール監視カメラ用冷却設備)</td> <td>鉛直</td> </tr> </table> </div>	燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平		(A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直	燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平	(B-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直	<p>3. 評価部位 燃料プール監視カメラ用冷却設備の耐震評価は、「5.1 構造強度評価方法」に示す条件に基づき、耐震評価上厳しくなる基礎ボルト及び取付ボルトについて実施する。 燃料プール監視カメラ用冷却設備の耐震評価部位については、表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4. 固有周期</p> <p>4.1 基本方針 燃料プール監視カメラ用冷却設備の固有周期は、振動試験（加振試験）にて求める。</p> <p>4.2 固有周期の確認方法 設備一式での正弦波掃引試験により固有周期を確認する。燃料プール監視カメラ用冷却設備の外形図を表2-1の概略構造図に示す。</p> <p>4.3 固有周期の確認結果 固有周期の確認結果を表4-1に示す。試験の結果、<u>水平方向の固有周期は0.05秒を超えており、柔構造であることを確認した。また、鉛直方向の固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。</u></p> <div style="text-align: center;"> <p>表4-1 固有周期 (単位：s)</p> <table border="1"> <tr> <td>燃料プール監視カメラ用冷却設備</td> <td>水平</td> <td rowspan="4" style="width: 40px; height: 40px;"></td> </tr> <tr> <td>(A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)</td> <td>鉛直</td> </tr> <tr> <td>燃料プール監視カメラ用冷却設備</td> <td>水平</td> </tr> <tr> <td>(B-燃料プール監視カメラ用冷却設備)</td> <td>鉛直</td> </tr> </table> </div>	燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平		(A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直	燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平	(B-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直	<p>記載の適正化</p>
燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平																			
(A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直																			
燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平																			
(B-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直																			
燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平																			
(A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直																			
燃料プール監視カメラ用冷却設備	水平																			
(B-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	鉛直																			

S2 補 VI-2-4-4-2 R1

S2 補 VI-2-4-4-2 R2

【VI-2-4-4-2 燃料プール監視カメラ用冷却設備の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																								
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-2 R1</p> <p style="text-align: center;">【燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備) の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 重大事故等対応設備</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="3">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向設計震度</th> <th>鉛直方向設計震度</th> <th>水平方向設計震度</th> <th>鉛直方向設計震度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)</td> <td>常設/防し 常設/緩和</td> <td>原子炉建物 EL <input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>—</td> <td>—</td> <td><input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/> *2</td> <td><input type="checkbox"/> *3</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す *2: 設計用震度Ⅱ (基準地震動 S_s) *3: 設計用床応答スペクトルⅡ (基準地震動 S_s) により得られる震度</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m_i (kg)</th> <th>h_i (mm)</th> <th>d_i (mm)</th> <th>A_{b i} (mm²)</th> <th>n_i</th> <th>S_{y i} (MPa)</th> <th>S_{u i} (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>コンプレッサー取付ボルト (i=2)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>ドライヤー取付ボルト (i=3)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>フローメータ, レギュレータ取付ボルト (i=4)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	常設/防し 常設/緩和	原子炉建物 EL <input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—	—	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *2	<input type="checkbox"/> *3	<input type="checkbox"/>	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	基礎ボルト (i=1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	コンプレッサー取付ボルト (i=2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ドライヤー取付ボルト (i=3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	フローメータ, レギュレータ取付ボルト (i=4)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-4-4-2 R2</p> <p style="text-align: center;">【燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備) の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 重大事故等対応設備</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="3">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向設計震度</th> <th>鉛直方向設計震度</th> <th>水平方向設計震度</th> <th>鉛直方向設計震度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)</td> <td>常設/防し 常設/緩和</td> <td>原子炉建物 EL <input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>—</td> <td>—</td> <td><input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/> *2</td> <td><input type="checkbox"/> *3</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す *2: 設計用震度Ⅱ (基準地震動 S_s) *3: 設計用床応答スペクトルⅡ (基準地震動 S_s) により得られる震度</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m_i (kg)</th> <th>h_i (mm)</th> <th>d_i (mm)</th> <th>A_{b i} (mm²)</th> <th>n_i</th> <th>S_{y i} (MPa)</th> <th>S_{u i} (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>コンプレッサー取付ボルト (i=2)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>ドライヤー取付ボルト (i=3)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>フローメータ, レギュレータ取付ボルト (i=4)</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/> *1</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	常設/防し 常設/緩和	原子炉建物 EL <input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—	—	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *2	<input type="checkbox"/> *3	<input type="checkbox"/>	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	基礎ボルト (i=1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	コンプレッサー取付ボルト (i=2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ドライヤー取付ボルト (i=3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	フローメータ, レギュレータ取付ボルト (i=4)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
機器名称				設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度				基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																												
	水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度			鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度																																																																																																																																		
燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	常設/防し 常設/緩和	原子炉建物 EL <input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—	—	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *2	<input type="checkbox"/> *3	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			
コンプレッサー取付ボルト (i=2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			
ドライヤー取付ボルト (i=3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			
フローメータ, レギュレータ取付ボルト (i=4)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																
			水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度																																																																																																																																		
燃料プール監視カメラ用冷却設備 (A-燃料プール監視カメラ用冷却設備)	常設/防し 常設/緩和	原子炉建物 EL <input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—	—	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *2	<input type="checkbox"/> *3	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			
コンプレッサー取付ボルト (i=2)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			
ドライヤー取付ボルト (i=3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			
フローメータ, レギュレータ取付ボルト (i=4)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																																																			

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考		
S2 補 VI-2-5-1 R1						
表 2-1 耐震評価条件整理一覧表(1/25)						
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対処設備		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設 原子炉冷却材の循環設備 原子炉再循環系	S	有	VI-2-5-2-1-1	—	—	
	S	有	VI-2-5-2-1-1	—	—	
	S	無	VI-2-5-3-1-1	常設耐震/防止 常設/緩和	有	VI-2-5-3-1-1
	S	無	VI-2-5-3-1-1	—	—	—
	S	有	VI-2-5-3-1-2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-5-3-1-2
	S	有	VI-2-5-3-1-2	—	—	—
	S	有	VI-2-5-3-1-2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-5-3-1-2
	S	有	VI-2-5-3-1-2	—	—	—
	B	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-3-1-2
	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-3-1-2
S2 補 VI-2-5-1 R2						
表 2-1 耐震評価条件整理一覧表(1/25)						
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対処設備		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設 原子炉冷却材の循環設備 原子炉再循環系	S	有	VI-2-5-2-1-1	—	—	
	S	有	VI-2-5-2-1-1	—	—	
	S	無	VI-2-5-3-1-1	常設耐震/防止 常設/緩和	有	VI-2-5-3-1-1
	S	無	VI-2-5-3-1-1	—	—	—
	S	有	VI-2-5-3-1-2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-5-3-1-2
	S	有	VI-2-5-3-1-2	—	—	—
	S	有	VI-2-5-3-1-2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-5-3-1-2
	S	有	VI-2-5-3-1-2	—	—	—
	B	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-3-1-2
	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-3-1-2
記載の適正化						

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前				補正後				備考	
S2 補 VI-2-5-1 R1 表 2-1 耐震評価条件一覧表 (2/25)	評価対象設備 原子炉冷却系統施設 原子炉冷却材 給水系 残留熱除去設備 残留熱除去系	耐震重要度分類	有	新規制基準施行前に認められた実績との差異	VI-2-5-3-2-1	設備分類*1	—	耐震計算の記載箇所	—
			有		VI-2-5-3-2-1		—		—
		残留熱除去系熱交換器	有	有	VI-2-5-4-1-1	常設/防止 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-1	
			有		VI-2-5-4-1-2	常設/防止*1 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-2	
		残留熱除去系ストレーナ	有	有	VI-2-5-4-1-3	常設/防止*1 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-3	
			有		VI-2-5-4-1-5			VI-2-5-4-1-5	
			有		VI-2-5-4-1-6			VI-2-5-4-1-6	
			有		VI-2-5-4-1-7			VI-2-5-4-1-7	
		主要弁	有	有	VI-2-5-4-1-4	—	—	—	
			有		VI-2-5-4-1-4	—	—	—	
		主配管	有	有	VI-2-5-4-1-4	—	—	—	
			有		VI-2-5-4-1-4	常設/防止 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-4	
		主配管	—	—*2	—	—	—	VI-2-5-4-1-4	
			—		—	—	—	—	VI-2-5-4-1-4

S2 補 VI-2-5-1 R2 表 2-1 耐震評価条件一覧表 (2/25)	評価対象設備 原子炉冷却系統施設 原子炉冷却材 給水系 残留熱除去設備 残留熱除去系	耐震重要度分類	有	新規制基準施行前に認められた実績との差異	VI-2-5-3-2-1	設備分類*1	—	耐震計算の記載箇所	—
			有		VI-2-5-3-2-1		—		—
		残留熱除去系熱交換器	有	有	VI-2-5-4-1-1	常設/防止 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-1	
			有		VI-2-5-4-1-2	常設/防止*2 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-2	
		残留熱除去系ストレーナ	有	有	VI-2-5-4-1-3	常設/防止*1 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-3	
			有		VI-2-5-4-1-5			VI-2-5-4-1-5	
			有		VI-2-5-4-1-6			VI-2-5-4-1-6	
			有		VI-2-5-4-1-7			VI-2-5-4-1-7	
		主要弁	有	有	VI-2-5-4-1-4	—	—	—	
			有		VI-2-5-4-1-4	—	—	—	
		主配管	有	有	VI-2-5-4-1-4	—	—	—	
			有		VI-2-5-4-1-4	常設/防止 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-4	
		主配管	—	—	—	—	—	—	
			—		—	—	常設/防止 (D B 拡張)	有	VI-2-5-4-1-4

記載の適正化

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

		補正前				補正後				備考
S2 補 VI-2-5-1 R1										
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (3/25)										
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備			耐震計算の記載箇所		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所				
原子炉冷却系統施設	—	—	— ^{*2}	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—	VI-2-5-2-1-1		
								残留熱除去系	VI-2-3-2-2-2	
								残留熱除去設備	VI-2-3-2-2-3	
								炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	VI-2-3-2-2-4	
原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-3-2-2-5		
ジェットポンプ (原子炉本体に記載)	—	—	— ^{*2}	—	—	—	—	VI-2-3-2-2-6		
—	—	—	— ^{*2}	—	—	—	—	VI-2-3-2-2-7		
—	—	—	— ^{*2}	—	—	—	—	VI-2-3-3-1-2		
—	—	—	— ^{*2}	—	—	—	—	VI-2-3-3-3-5		
S2 補 VI-2-5-1 R2										
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (3/25)										
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備			耐震計算の記載箇所		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所				
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—	VI-2-5-2-1-1		
								残留熱除去系	VI-2-3-2-2-2	
								残留熱除去設備	VI-2-3-2-2-3	
								炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	VI-2-3-2-2-4	
原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	VI-2-3-2-2-5			
ジェットポンプ (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	VI-2-3-2-2-6			
—	—	—	—	—	—	—	VI-2-3-2-2-7			
—	—	—	—	—	—	—	VI-2-3-3-1-2			
—	—	—	—	—	—	—	VI-2-3-3-3-5			
記載の適正化										

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考	
S2 補 VI-2-5-1 R1					
表 2-1 耐震評価条件一覧表(4/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 残留熱除去設備 残留熱除去系	—	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—*3	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
S2 補 VI-2-5-1 R2					
表 2-1 耐震評価条件一覧表(4/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 残留熱除去設備 残留熱除去系	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)	—
記載の適正化					

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考		
S2 補 VI-2-5-1 R1						
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (5/25)						
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対応設備		
		新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設	—	—*2	—	常設/防止 (DB拡張)	—	VI-2-9-4-4-1-2
残留熱除去設備	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-2-1
格納容器フィルタベント系	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-2-10
主配管 (サブプレッショ ンチエンバースプレ イ管) (原子炉格納施設に記 載)	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-5-1-1
原子炉格納容器 (原子炉格納施設に記 載)	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	—
原子炉格納容器配管貫 通部 (原子炉格納施設に記 載)	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	—
主配管 (原子炉格納施設 放 射性物質濃度制御設備 及び可燃性ガス濃度制 御設備並びに格納容器 再循環設備 非常用ガ ス処理系に記載)	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	—
S2 補 VI-2-5-1 R2						
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (5/25)						
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対応設備		
		新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設	—	—	—	常設/防止 (DB拡張)	—	VI-2-9-4-4-1-2
残留熱除去設備	—	—	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-2-1
格納容器フィルタベント系	—	—	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-2-10
主配管 (サブプレッショ ンチエンバースプレ イ管) (原子炉格納施設に記 載)	—	—	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-5-1-1
原子炉格納容器 (原子炉格納施設に記 載)	—	—	—	常設耐震/防止	—	—
原子炉格納容器配管貫 通部 (原子炉格納施設に記 載)	—	—	—	常設耐震/防止	—	—
主配管 (原子炉格納施設 放 射性物質濃度制御設備 及び可燃性ガス濃度制 御設備並びに格納容器 再循環設備 非常用ガ ス処理系に記載)	—	—	—	常設耐震/防止	—	—
記載の適正化						

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前				補正後				備考
S2 補 VI-2-5-1 R1								
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (6/25)								
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備			耐震計算の記載箇所	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所		
原子炉冷却系統施設	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-6-1-1		
残留熱除去設備	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-6-1-1		
格納容器フィルタベント系	—	—*2	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-7-1-1		
S2 補 VI-2-5-1 R2								
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (6/25)								
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備			耐震計算の記載箇所	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所		
原子炉冷却系統施設	—	—	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-6-1-1		
残留熱除去設備	—	—	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-6-1-1		
格納容器フィルタベント系	—	—	—	常設耐震/防止	—	VI-2-9-4-7-1-1		
記載の適正化								

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(7/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 残留熱除去設備 格納容器フィルタベント系 圧力開放板 (原子炉格納施設に記載) 主配管 (原子炉格納施設圧力逃がし装置格納容器フィルタベント系に記載) 第1ベントフィルタスクラバ容器 (原子炉格納施設に記載) 第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器 (原子炉格納施設に記載)	—	— ^{*2}	—	—
	—	— ^{*2}	—	—
	—	— ^{*2}	—	—
	—	— ^{*2}	—	—
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(7/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 残留熱除去設備 格納容器フィルタベント系 圧力開放板 (原子炉格納施設に記載) 主配管 (原子炉格納施設圧力逃がし装置格納容器フィルタベント系に記載) 第1ベントフィルタスクラバ容器 (原子炉格納施設に記載) 第1ベントフィルタ銀ゼオライト容器 (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

		補正前				補正後				備考	
S2 補 VI-2-5-1 R1		表 2-1 耐震評価条件一覧表(8/25)									
		設計基準対象施設		耐震計算の記載箇所		設計基準対象施設との差異		耐震計算の記載箇所		耐震計算の記載箇所	
評価対象設備 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 高圧炉心スプレイ系	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との差異	耐震計算の記載箇所		
	S	有	VI-2-5-5-1-1	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-1	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-1		
	S	有	VI-2-5-5-1-2 VI-2-5-5-1-4 VI-2-5-5-1-5 VI-2-5-5-1-6	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-2 VI-2-5-5-1-4 VI-2-5-5-1-5 VI-2-5-5-1-6	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-2 VI-2-5-5-1-4 VI-2-5-5-1-5 VI-2-5-5-1-6		
	S	有	VI-2-5-5-1-3	—	—	VI-2-5-5-1-3	—	—	—		
	S	有	VI-2-5-5-1-3	—	—	VI-2-5-5-1-3	—	—	—		
	—	—*2	—	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7		
	—	—*2	—	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-3-1-2	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-3-1-2		
	S2 補 VI-2-5-1 R2		表 2-1 耐震評価条件一覧表(8/25)								
			設計基準対象施設		耐震計算の記載箇所		設計基準対象施設との差異		耐震計算の記載箇所		耐震計算の記載箇所
	評価対象設備 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 高圧炉心スプレイ系	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との差異	耐震計算の記載箇所	
S		有	VI-2-5-5-1-1	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-1	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-1		
S		有	VI-2-5-5-1-2 VI-2-5-5-1-4 VI-2-5-5-1-5 VI-2-5-5-1-6	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-2 VI-2-5-5-1-4 VI-2-5-5-1-5 VI-2-5-5-1-6	常設/防止(D B拡張)	有	VI-2-5-5-1-2 VI-2-5-5-1-4 VI-2-5-5-1-5 VI-2-5-5-1-6		
S		有	VI-2-5-5-1-3	—	—	VI-2-5-5-1-3	—	—	—		
S		有	VI-2-5-5-1-3	—	—	VI-2-5-5-1-3	—	—	—		
—		—	—	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7		
—		—	—	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-3-1-2	常設/防止(D B拡張)	—	VI-2-3-3-1-2		
記載の適正化		備考									

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

		補正前					補正後					備考		
S2 補 VI-2-5-1 R1														
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (9/25)														
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所			
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	新規制基準施行前に認められた実績との差異											
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
高圧炉心スプレイスパージャ (原子炉本体に記載)	—	—*2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
高圧炉心スプレイスパージャ (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
高圧炉心スプレイスパージャ (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
原子炉格納容器 (サブレッションチェンバ) (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
原子炉格納容器配管貫通部 (X-35, X-210) (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
S2 補 VI-2-5-1 R2														
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (9/25)														
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所			
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	新規制基準施行前に認められた実績との差異											
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
高圧炉心スプレイスパージャ (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
高圧炉心スプレイスパージャ (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
高圧炉心スプレイスパージャ (原子炉本体に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
原子炉格納容器 (サブレッションチェンバ) (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
原子炉格納容器配管貫通部 (X-35, X-210) (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
記載の適正化														

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (10/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 低圧炉心スプレイ系	S	有	VI-2-5-5-2-1	常設/防止 (D B 拡張) 有
	S	有	VI-2-5-5-2-2	常設/防止 (D B 拡張) 有
			VI-2-5-5-2-4	
	S	有	VI-2-5-5-2-5	—
			VI-2-5-5-2-6	
	S	有	VI-2-5-5-2-3	—
	S	有	VI-2-5-5-2-3	常設/防止 (D B 拡張) 有
—	— ^{*2}	—	常設/防止 (D B 拡張) —	
—	— ^{*2}	—	常設/防止 (D B 拡張) —	
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (10/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 低圧炉心スプレイ系	S	有	VI-2-5-5-2-1	常設/防止 (D B 拡張) 有
	S	有	VI-2-5-5-2-2	常設/防止 (D B 拡張) 有
			VI-2-5-5-2-4	
	S	有	VI-2-5-5-2-5	—
			VI-2-5-5-2-6	
	S	有	VI-2-5-5-2-3	—
	S	有	VI-2-5-5-2-3	常設/防止 (D B 拡張) 有
—	—	—	常設/防止 (D B 拡張) —	
—	—	—	常設/防止 (D B 拡張) —	
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (12/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1 設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—*2	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-5-3-1
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—*2	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-5-3-2
高圧原子炉代替注水ポンプ	—	—*2	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-3-1-2
高圧原子炉代替注水系	—	—*2	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-3-2-1
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 主蒸気系に記載)	—	—*2	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-4-1-3 VI-2-5-4-1-5 VI-2-5-4-1-6 VI-2-5-4-1-7
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 給水系に記載)	—	—*2	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-4-1-4
C-残留熱除去システム ーナ (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—*2	—	常設耐震/防止
				—
主配管 (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—*2	—	常設耐震/防止
				—
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (12/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1 設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-5-3-1
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-5-3-2
高圧原子炉代替注水ポンプ	—	—	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-3-1-2
高圧原子炉代替注水系	—	—	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-3-2-1
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 主蒸気系に記載)	—	—	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-4-1-3 VI-2-5-4-1-5 VI-2-5-4-1-6 VI-2-5-4-1-7
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 給水系に記載)	—	—	—	常設耐震/防止
				VI-2-5-4-1-4
C-残留熱除去システム ーナ (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—	—	常設耐震/防止
				—
主配管 (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—	—	常設耐震/防止
				—
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考	
S2 補 VI-2-5-1 R1					
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (13/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対応設備		
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1 設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 高圧原子炉代替注水系 主配管 (原子炉冷却材補給設備 原子炉隔離時冷却系に記載) 主配管 (原子炉冷却材浄化設備 原子炉浄化系に記載) 炉心支持構造物 (原子炉本体に記載) 原子炉压力容器 (原子炉本体に記載) 給水スパージャ (原子炉本体に記載)	—	—*2	—	常設耐震/防止	VI-2-5-6-1-3
	—	—*2	—	常設耐震/防止	VI-2-5-8-1-1
	—	—*2	—	常設耐震/防止	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7
	—	—*2	—	常設耐震/防止	VI-2-3-3-1-2
	—	—*2	—	常設耐震/防止	VI-2-3-3-3-6
	—	—*2	—	常設耐震/防止	VI-2-3-3-3-6
S2 補 VI-2-5-1 R2					
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (13/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対応設備		
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1 設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 高圧原子炉代替注水系 主配管 (原子炉冷却材補給設備 原子炉隔離時冷却系に記載) 主配管 (原子炉冷却材浄化設備 原子炉浄化系に記載) 炉心支持構造物 (原子炉本体に記載) 原子炉压力容器 (原子炉本体に記載) 給水スパージャ (原子炉本体に記載)	—	—	—	常設耐震/防止	VI-2-5-6-1-3
	—	—	—	常設耐震/防止	VI-2-5-8-1-1
	—	—	—	常設耐震/防止	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7
	—	—	—	常設耐震/防止	VI-2-3-3-1-2
—	—	—	常設耐震/防止	VI-2-3-3-3-6	
記載の適正化					

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

		補正前					補正後					備考	
S2 補 VI-2-5-1 R1													
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (14/25)													
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設	設計基準対象施設との評価条件の差異							
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
高圧原子炉代替注水系	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
原子炉隔離時冷却系	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
原子炉格納容器 (サブレーションチェンバ) (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-9-2-2
原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-9-2-10
原子炉隔離時冷却系	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-5-4-1 VI-2-5-6-1-4
ストレーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-3-1-2
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 主蒸気系に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-3-2-1
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 給水系に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-3-2-1
S2 補 VI-2-5-1 R2													
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (14/25)													
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設	設計基準対象施設との評価条件の差異							
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
高圧原子炉代替注水系	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
原子炉隔離時冷却系	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
原子炉格納容器 (サブレーションチェンバ) (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-9-2-2
原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-9-2-10
原子炉隔離時冷却系	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-5-4-1 VI-2-5-6-1-4
ストレーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-3-1-2
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 主蒸気系に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-3-2-1
主配管 (原子炉冷却材の循環設備 給水系に記載)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	VI-2-5-3-2-1
記載の適正化													

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (15/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	— ^{*2}	—	—
原子炉隔離時冷却系	—	— ^{*2}	—	—
原子炉隔離時冷却ポンプ(駆動用蒸気タービン含む。)(原子炉冷却材補給設備 原子炉隔離時冷却系に記載)	—	— ^{*2}	—	VI-2-5-6-1-1 VI-2-5-6-1-2
主配管(原子炉冷却材補給設備 原子炉隔離時冷却系に記載)	—	— ^{*2}	—	VI-2-5-6-1-3
主配管(原子炉冷却材浄化設備 原子炉浄化系に記載)	—	— ^{*2}	—	VI-2-5-8-1-1
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (15/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—
原子炉隔離時冷却系	—	—	—	—
原子炉隔離時冷却ポンプ(駆動用蒸気タービン含む。)(原子炉冷却材補給設備 原子炉隔離時冷却系に記載)	—	—	—	VI-2-5-6-1-1 VI-2-5-6-1-2
主配管(原子炉冷却材補給設備 原子炉隔離時冷却系に記載)	—	—	—	VI-2-5-6-1-3
主配管(原子炉冷却材浄化設備 原子炉浄化系に記載)	—	—	—	VI-2-5-8-1-1
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (16/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—*2	—	—
	炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
原子炉隔離時冷却系	原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
	給水スパー ज्या (原子炉本体に記載)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
原子炉冷却系統施設	原子炉格納容器 (サブ レッジョンチェンバ)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
原子炉格納施設に記載	—	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
				VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7 VI-2-3-3-1-2 VI-2-3-3-3-6 VI-2-9-2-2 VI-2-9-2-10
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (16/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—
	炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
原子炉隔離時冷却系	原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
	給水スパー ज्या (原子炉本体に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
原子炉冷却系統施設	原子炉格納容器 (サブ レッジョンチェンバ)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
原子炉格納施設に記載	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
				VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7 VI-2-3-3-1-2 VI-2-3-3-3-6 VI-2-9-2-2 VI-2-9-2-10
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

		補正前				補正後				備考
S2 補 VI-2-5-1 R1 表 2-1 耐震評価条件一覧表 (17/25)	評価対象設備 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 低圧原子炉代替注水系	耐震重要度分類	設計基準に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所		
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-5-5-1			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-2-33			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-5-2			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-4-1-4			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
		—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
S2 補 VI-2-5-1 R2 表 2-1 耐震評価条件一覧表 (17/25)	評価対象設備 原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 低圧原子炉代替注水系	耐震重要度分類	設計基準に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	耐震計算の記載箇所		
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-5-5-1			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-2-33			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-5-2			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-5-4-1-4			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
		—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-3-3-1-2			
記載の適正化										

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (18/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—
低圧原子炉代替注水系	—	— ^{*2}	—	—
低圧注水配管 (原子炉圧力容器内部) (原子炉本体に記載)	—	— ^{*2}	—	常設耐震/防止 常設/緩和 VI-2-3-3-3-8
原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—	— ^{*2}	—	常設耐震/防止 常設/緩和 VI-2-9-2-10
残留熱除去系熱交換器 (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	— ^{*2}	—	常設/防止 (D B 拡張) VI-2-5-4-1-1
残留熱除去ポンプ (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	— ^{*2}	—	常設/防止 (D B 拡張) VI-2-5-4-1-2
残留熱除去系ストレーナ (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	— ^{*2}	—	常設/防止 (D B 拡張) VI-2-5-4-1-3 VI-2-5-4-1-5 VI-2-5-4-1-6 VI-2-5-4-1-7
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (18/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	—
低圧原子炉代替注水系	—	—	—	—
低圧注水配管 (原子炉圧力容器内部) (原子炉本体に記載)	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和 VI-2-3-3-3-8
原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和 VI-2-9-2-10
残留熱除去系熱交換器 (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張) VI-2-5-4-1-1
残留熱除去ポンプ (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張) VI-2-5-4-1-2
残留熱除去系ストレーナ (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—	—	常設/防止 (D B 拡張) VI-2-5-4-1-3 VI-2-5-4-1-5 VI-2-5-4-1-6 VI-2-5-4-1-7
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (19/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 残留熱除去系	—	—*2	—	—
	主配管 (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
	炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉格納容器 (サブ レッシュヨエンバ) (原子炉格納施設に記載)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉格納容器配管貫 通部 (原子炉格納施設に記載)	—*2	—	常設/防止 (D B 拡張)
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (19/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 残留熱除去系	—	—	—	—
	主配管 (残留熱除去設備 残留熱除去系に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
	炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉格納容器 (サブ レッシュヨエンバ) (原子炉格納施設に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
	原子炉格納容器配管貫 通部 (原子炉格納施設に記載)	—	—	常設/防止 (D B 拡張)
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (20/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1 設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—*2	—	常設/緩和
ほう酸水注入系	—	—*2	—	常設/緩和
炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	—	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7	—
原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	—*2	—	—
差圧検出・ほう酸水注入系配管 (テイーよりN11ノズルまでの外管) (原子炉本体に記載)	—	—*2	—	—
差圧検出・ほう酸水注入系配管 (原子炉圧力容器内部) (原子炉本体に記載)	—	—*2	—	—
S2 補 VI-2-5-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (20/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1 設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉冷却系統施設	—	—	—	—
非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	—	—	—	常設/緩和
ほう酸水注入系	—	—	—	常設/緩和
炉心支持構造物 (原子炉本体に記載)	—	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7	—
原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	—	—	—
差圧検出・ほう酸水注入系配管 (テイーよりN11ノズルまでの外管) (原子炉本体に記載)	—	—	—	—
差圧検出・ほう酸水注入系配管 (原子炉圧力容器内部) (原子炉本体に記載)	—	—	—	—
記載の適正化				

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考		
S2 補 VI-2-5-1 R1						
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (21/25)						
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対処設備		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 ほう酸水注入系	—	—*2	—	常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-1
	—	—*2	—	常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-2
	—	—*2	—	常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-3
	—	—*2	—	常設/緩和	—	VI-2-9-2-10
S2 補 VI-2-5-1 R2						
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (21/25)						
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対処設備		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 ほう酸水注入系	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-1
	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-2
	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-3
	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-9-2-10
記載の適正化						

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考			
S2 補 VI-2-5-1 R1							
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (22/25)							
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	
原子炉冷却系統施設	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-2	
原子炉冷却系統施設 その他原子炉冷却設備	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-2-33	
原子炉冷却系統施設 水の供給設備	S	有	VI-2-5-6-1-1 VI-2-5-6-1-2	—	—	—	
原子炉冷却系統施設 原子炉隔離時冷却系	S	有	VI-2-5-6-1-3	—	—	—	
原子炉冷却系統施設 原子炉冷却材補給設備	S	有	VI-2-5-6-1-3	—	—	—	
S2 補 VI-2-5-1 R2							
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (22/25)							
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	
原子炉冷却系統施設	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-4-1-2	
原子炉冷却系統施設 その他原子炉冷却設備	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-2-33	
原子炉冷却系統施設 水の供給設備	S	有	VI-2-5-6-1-1 VI-2-5-6-1-2	—	—	—	
原子炉冷却系統施設 原子炉隔離時冷却系	S	有	VI-2-5-6-1-3	—	—	—	
原子炉冷却系統施設 原子炉冷却材補給設備	S	有	VI-2-5-6-1-3	—	—	—	
記載の適正化							

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

		補正前				補正後				備考		
S2 補 VI-2-5-1 R1												
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (25/25)												
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対処設備		耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	
		新規制基準	設計基準	設計基準	重大事故等対処設備							
原子炉冷却系統施設												
原子炉補機冷却設備												
原子炉補機代替冷却系												
原子炉浄化系												
原子炉浄化冷却材												
主配管												
残留熱除去系熱交換器 (残留熱除去設備)												
残留熱除去系 (記載)												
A-原子炉補機冷却系サージタンク (原子炉補機冷却系 (原子炉補機海水系を含む。)) に記載)												
主配管 (原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却系 (原子炉補機海水系を含む。)) に記載)												
主要弁	S		有					VI-2-5-8-1-1				
主配管	S		有					VI-2-5-8-1-1				
S2 補 VI-2-5-1 R2												
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (25/25)												
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		重大事故等対処設備		耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	
		新規制基準	設計基準	設計基準	重大事故等対処設備							
原子炉冷却系統施設												
原子炉補機冷却設備												
原子炉補機代替冷却系												
原子炉浄化系												
原子炉浄化冷却材												
主配管												
残留熱除去系熱交換器 (残留熱除去設備)												
残留熱除去系 (記載)												
A-原子炉補機冷却系サージタンク (原子炉補機冷却系 (原子炉補機海水系を含む。)) に記載)												
主配管 (原子炉補機冷却設備 (原子炉補機冷却系 (原子炉補機海水系を含む。)) に記載)												
主要弁	S		有					VI-2-5-8-1-1				
主配管	S		有					VI-2-5-8-1-1				
記載の適正化												

【VI-2-5-1 原子炉冷却系統施設の耐震計算結果】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-1 R1E</p> <p>注記*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備, 「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備, 「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備, 「常設/防止 (DB拡張)」は常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) を示す。</p> <p>*2: 本工事計画で新規に申請する設備であることから、差異比較の対象外</p> <p>*3: C-残留熱除去ポンプは低圧注水モードのみで使用するためDB設備とする。</p> <p>*4: C-残留熱除去システムは低圧注水モードのみで使用するためDB設備とする。</p> <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-1 R2E</p> <p>注記*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備, 「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備, 「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備, 「常設/防止 (DB拡張)」は常設重大事故防止設備 (設計基準拡張) を示す。</p> <p>*2: C-残留熱除去ポンプは低圧注水モードのみで使用するためDB設備とする。</p> <p>*3: C-残留熱除去システムは低圧注水モードのみで使用するためDB設備とする。</p> <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

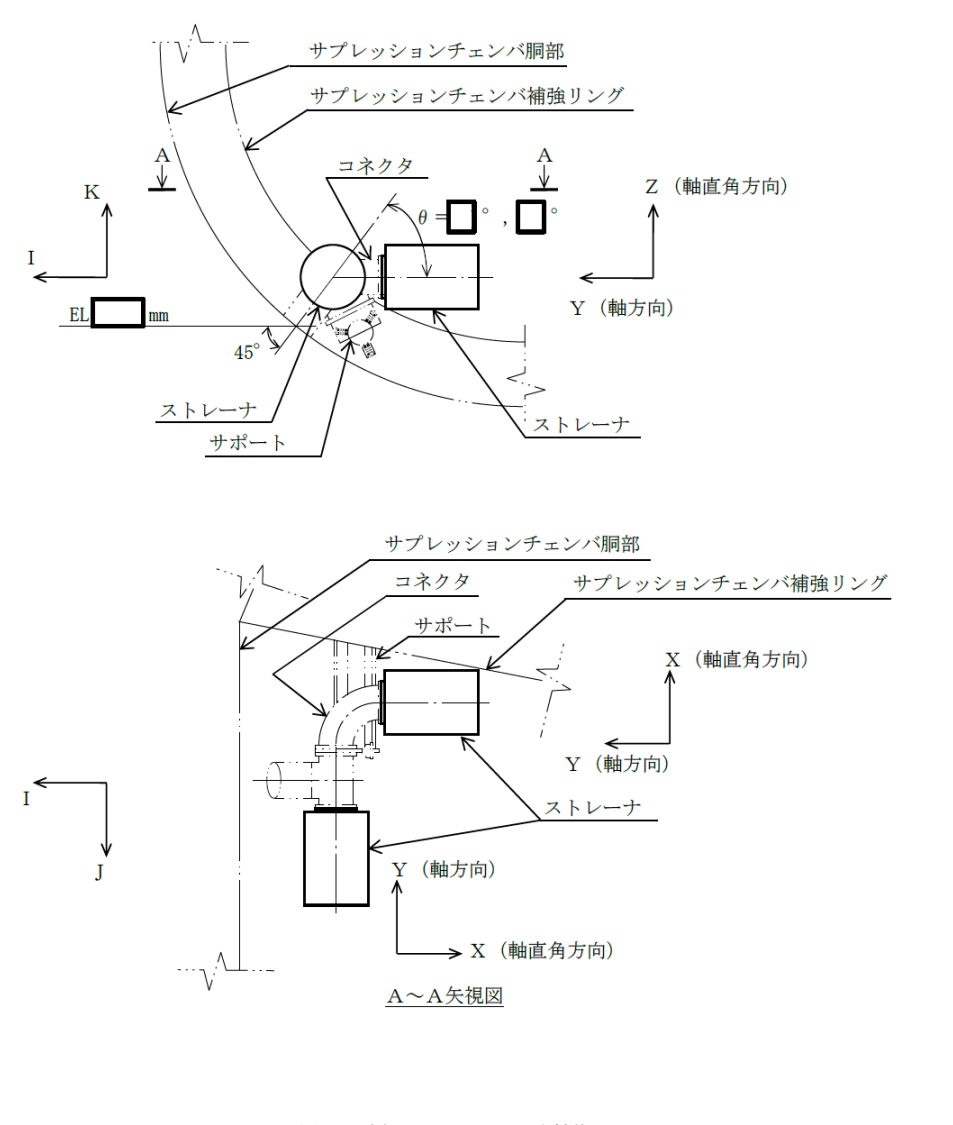
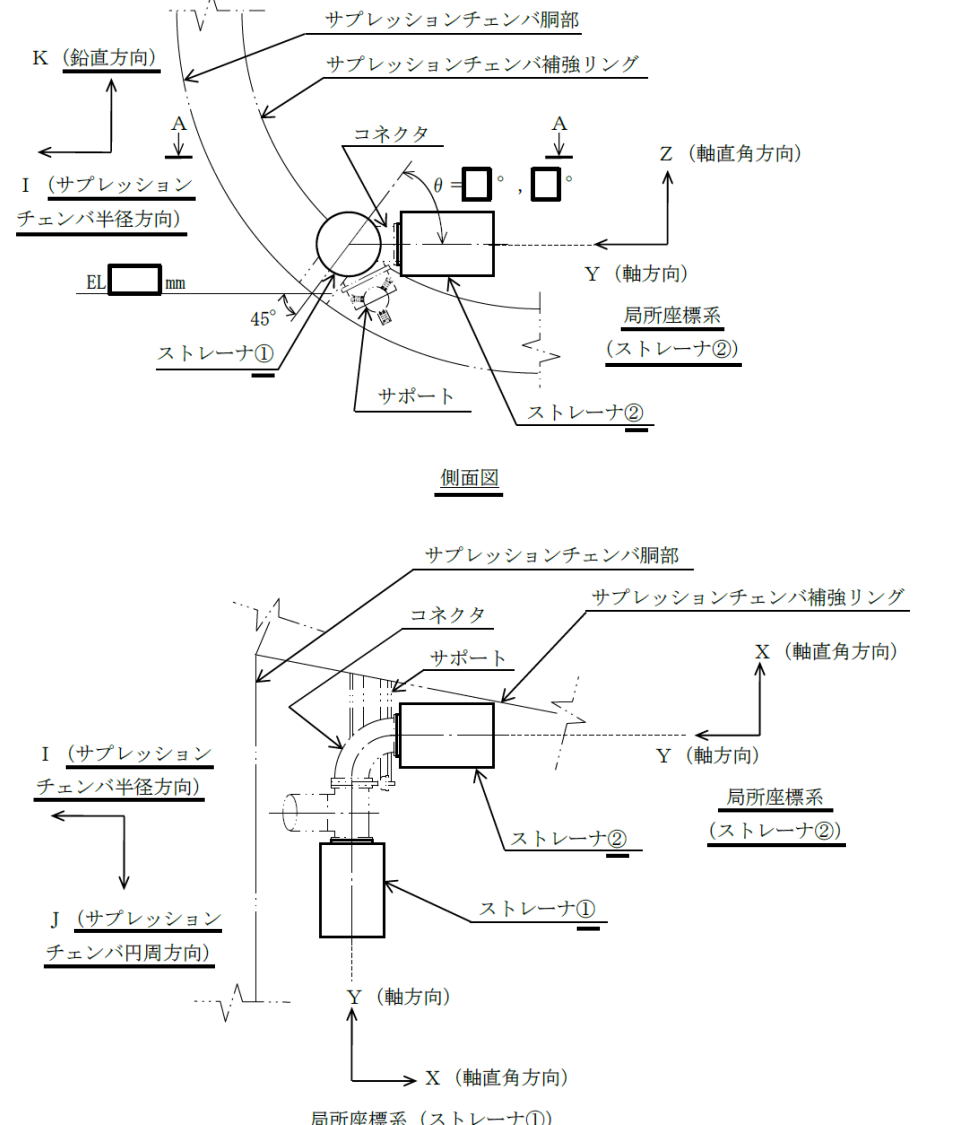
【VI-2-5-4-1-3 残留熱除去系ストレーナの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																	
<p style="text-align: center;">2.4 記号の説明</p> <table border="1" data-bbox="507 520 1270 1150"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>記号の説明</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A</td><td>断面積</td><td>mm²</td></tr> <tr><td>a</td><td>ボルト穴中心円半径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>b</td><td>フランジ内半径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>D_i</td><td>各部位の径*1</td><td>mm</td></tr> <tr><td>d</td><td>孔径, ボルトの直径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>F</td><td>軸力</td><td>N</td></tr> <tr><td>f_t</td><td>ボルトの発生応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>L_i</td><td>各部位の長さ*2</td><td>mm</td></tr> <tr><td>ℓ</td><td>ディスク間ギャップ, ボルトのZ軸からの距離</td><td>mm</td></tr> <tr><td>M</td><td>モーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>n</td><td>ボルトの本数</td><td>—</td></tr> <tr><td>P</td><td>孔の間隔 (中心間)</td><td>mm</td></tr> <tr><td>t</td><td>板厚</td><td>mm</td></tr> <tr><td>W</td><td>ストレーナ重心に作用する荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>X</td><td>軸直角方向 (水平)</td><td>—</td></tr> <tr><td>Y</td><td>軸方向</td><td>—</td></tr> <tr><td>Z</td><td>軸直角方向 (鉛直)</td><td>—</td></tr> <tr><td>β</td><td>形状係数</td><td>—</td></tr> <tr><td>σ_r</td><td>曲げ応力</td><td>MPa</td></tr> </tbody> </table> <p>注: ここで定義されない記号については, 各計算の項目において説明する。 注記*1: D_iの添字 i の意味は, 以下のとおりとする。 i = 1: ディスクセット外径 i = 2: フランジ内径 i = 3: トップフランジ外径 i = 4: フランジ外径 i = 5: ボルト孔中心円直径 *2: L_iの添字 i の意味は, 以下のとおりとする。 i = 1: ディスクセット全高 i = 2: トップフランジ厚さ i = 3: コンプレッションプレート高さ i = 4: フランジ厚さ i = 5: ストラップ長さ i = 6: ストラップ幅</p> <p style="text-align: center;">5</p>	記号	記号の説明	単位	A	断面積	mm ²	a	ボルト穴中心円半径	mm	b	フランジ内半径	mm	D _i	各部位の径*1	mm	d	孔径, ボルトの直径	mm	F	軸力	N	f _t	ボルトの発生応力	MPa	L _i	各部位の長さ*2	mm	ℓ	ディスク間ギャップ, ボルトのZ軸からの距離	mm	M	モーメント	N・mm	n	ボルトの本数	—	P	孔の間隔 (中心間)	mm	t	板厚	mm	W	ストレーナ重心に作用する荷重	N	X	軸直角方向 (水平)	—	Y	軸方向	—	Z	軸直角方向 (鉛直)	—	β	形状係数	—	σ _r	曲げ応力	MPa	<p style="text-align: center;">2.4 記号の説明</p> <table border="1" data-bbox="1706 520 2469 1247"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>記号の説明</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A</td><td>断面積</td><td>mm²</td></tr> <tr><td>a</td><td>ボルト穴中心円半径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>b</td><td>フランジ内半径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>D_i</td><td>各部位の径*1</td><td>mm</td></tr> <tr><td>d</td><td>孔径, ボルトの直径</td><td>mm</td></tr> <tr><td>F</td><td>軸力</td><td>N</td></tr> <tr><td>f_t</td><td>ボルトの発生応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>L_i</td><td>各部位の長さ*2</td><td>mm</td></tr> <tr><td>ℓ</td><td>ディスク間ギャップ, ボルトのZ軸からの距離</td><td>mm</td></tr> <tr><td>M</td><td>モーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>n</td><td>ボルトの本数</td><td>—</td></tr> <tr><td>P</td><td>孔の間隔 (中心間)</td><td>mm</td></tr> <tr><td>t</td><td>板厚</td><td>mm</td></tr> <tr><td>W</td><td>ストレーナ重心に作用する荷重</td><td>N</td></tr> <tr><td>X</td><td>ストレーナ局所座標系 (軸直角方向 (水平))</td><td>—</td></tr> <tr><td>Y</td><td>ストレーナ局所座標系 (軸方向)</td><td>—</td></tr> <tr><td>Z</td><td>ストレーナ局所座標系 (軸直角方向 (鉛直))</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>I</u></td><td>サブプレッションチェーン座標系 (半径方向)</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>J</u></td><td>サブプレッションチェーン座標系 (円周方向)</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>K</u></td><td>サブプレッションチェーン座標系 (鉛直方向)</td><td>—</td></tr> <tr><td>β</td><td>形状係数</td><td>—</td></tr> <tr><td>σ_r</td><td>曲げ応力</td><td>MPa</td></tr> </tbody> </table> <p>注: ここで定義されない記号については, 各計算の項目において説明する。 注記*1: D_iの添字 i の意味は, 以下のとおりとする。 i = 1: ディスクセット外径 i = 2: フランジ内径 i = 3: トップフランジ外径 i = 4: フランジ外径 i = 5: ボルト孔中心円直径 *2: L_iの添字 i の意味は, 以下のとおりとする。 i = 1: ディスクセット全高 i = 2: トップフランジ厚さ i = 3: コンプレッションプレート高さ i = 4: フランジ厚さ i = 5: ストラップ長さ i = 6: ストラップ幅</p> <p style="text-align: center;">5</p>	記号	記号の説明	単位	A	断面積	mm ²	a	ボルト穴中心円半径	mm	b	フランジ内半径	mm	D _i	各部位の径*1	mm	d	孔径, ボルトの直径	mm	F	軸力	N	f _t	ボルトの発生応力	MPa	L _i	各部位の長さ*2	mm	ℓ	ディスク間ギャップ, ボルトのZ軸からの距離	mm	M	モーメント	N・mm	n	ボルトの本数	—	P	孔の間隔 (中心間)	mm	t	板厚	mm	W	ストレーナ重心に作用する荷重	N	X	ストレーナ局所座標系 (軸直角方向 (水平))	—	Y	ストレーナ局所座標系 (軸方向)	—	Z	ストレーナ局所座標系 (軸直角方向 (鉛直))	—	<u>I</u>	サブプレッションチェーン座標系 (半径方向)	—	<u>J</u>	サブプレッションチェーン座標系 (円周方向)	—	<u>K</u>	サブプレッションチェーン座標系 (鉛直方向)	—	β	形状係数	—	σ _r	曲げ応力	MPa	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
記号	記号の説明	単位																																																																																																																																	
A	断面積	mm ²																																																																																																																																	
a	ボルト穴中心円半径	mm																																																																																																																																	
b	フランジ内半径	mm																																																																																																																																	
D _i	各部位の径*1	mm																																																																																																																																	
d	孔径, ボルトの直径	mm																																																																																																																																	
F	軸力	N																																																																																																																																	
f _t	ボルトの発生応力	MPa																																																																																																																																	
L _i	各部位の長さ*2	mm																																																																																																																																	
ℓ	ディスク間ギャップ, ボルトのZ軸からの距離	mm																																																																																																																																	
M	モーメント	N・mm																																																																																																																																	
n	ボルトの本数	—																																																																																																																																	
P	孔の間隔 (中心間)	mm																																																																																																																																	
t	板厚	mm																																																																																																																																	
W	ストレーナ重心に作用する荷重	N																																																																																																																																	
X	軸直角方向 (水平)	—																																																																																																																																	
Y	軸方向	—																																																																																																																																	
Z	軸直角方向 (鉛直)	—																																																																																																																																	
β	形状係数	—																																																																																																																																	
σ _r	曲げ応力	MPa																																																																																																																																	
記号	記号の説明	単位																																																																																																																																	
A	断面積	mm ²																																																																																																																																	
a	ボルト穴中心円半径	mm																																																																																																																																	
b	フランジ内半径	mm																																																																																																																																	
D _i	各部位の径*1	mm																																																																																																																																	
d	孔径, ボルトの直径	mm																																																																																																																																	
F	軸力	N																																																																																																																																	
f _t	ボルトの発生応力	MPa																																																																																																																																	
L _i	各部位の長さ*2	mm																																																																																																																																	
ℓ	ディスク間ギャップ, ボルトのZ軸からの距離	mm																																																																																																																																	
M	モーメント	N・mm																																																																																																																																	
n	ボルトの本数	—																																																																																																																																	
P	孔の間隔 (中心間)	mm																																																																																																																																	
t	板厚	mm																																																																																																																																	
W	ストレーナ重心に作用する荷重	N																																																																																																																																	
X	ストレーナ局所座標系 (軸直角方向 (水平))	—																																																																																																																																	
Y	ストレーナ局所座標系 (軸方向)	—																																																																																																																																	
Z	ストレーナ局所座標系 (軸直角方向 (鉛直))	—																																																																																																																																	
<u>I</u>	サブプレッションチェーン座標系 (半径方向)	—																																																																																																																																	
<u>J</u>	サブプレッションチェーン座標系 (円周方向)	—																																																																																																																																	
<u>K</u>	サブプレッションチェーン座標系 (鉛直方向)	—																																																																																																																																	
β	形状係数	—																																																																																																																																	
σ _r	曲げ応力	MPa																																																																																																																																	

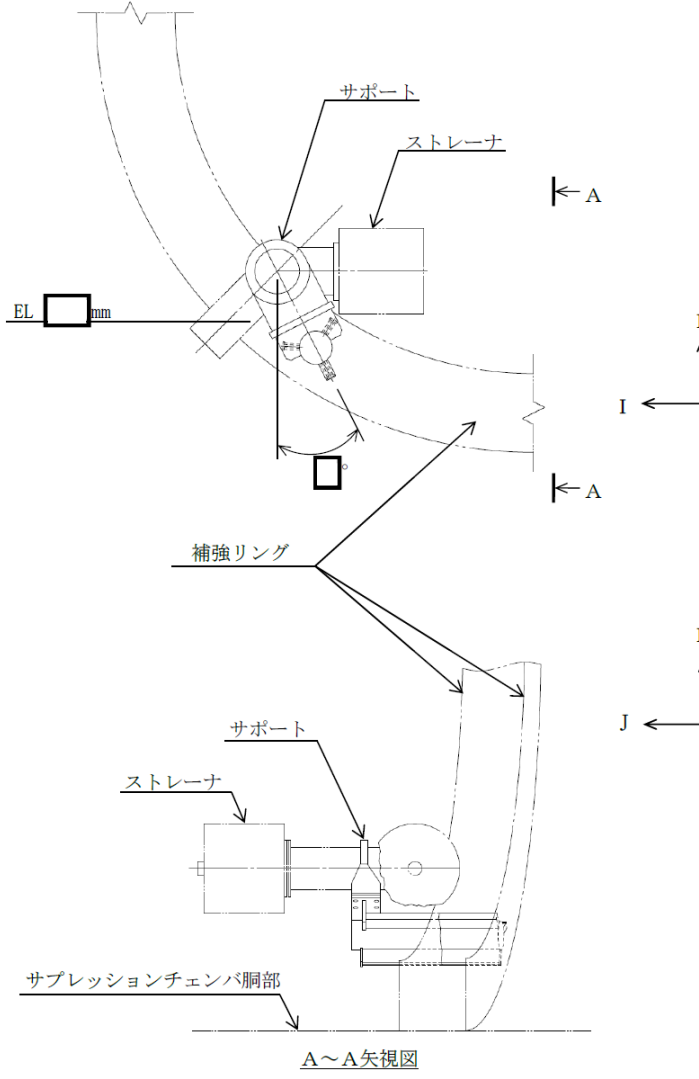
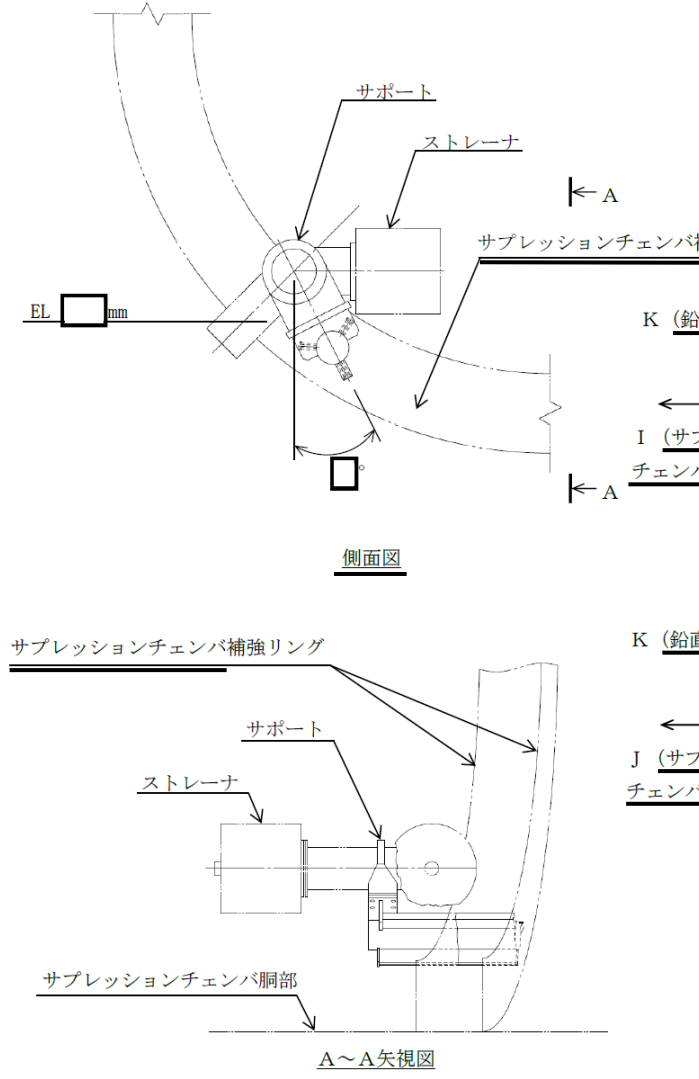
S2 補 VI-2-5-4-1-3 R1

S2 補 VI-2-5-4-1-3 R2

【VI-2-5-4-1-3 残留熱除去系ストレーナの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R1</p>  <p style="text-align: center;">図 3-1(3) ストレーナの取付状況</p> <p style="text-align: center;">9</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R2</p>  <p style="text-align: center;">図 3-1(3) ストレーナの取付状況</p> <p style="text-align: center;">9</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

【VI-2-5-4-1-3 残留熱除去系ストレーナの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 110px; top: 460px;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R1</p>  <p style="text-align: center;">図 3-1(4) ストレーナ取付部サポートの形状及び主要寸法</p> <p style="text-align: center;">10</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 515px; top: 460px;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R2</p>  <p style="text-align: center;">図 3-1(4) ストレーナ取付部サポートの形状及び主要寸法</p> <p style="text-align: center;">10</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

【VI-2-5-4-1-3 残留熱除去系ストレナーの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R1</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 20px auto; height: 500px;"></div> <p style="text-align: center;">図4-3(1) 荷重算出用モデル(単体モデル)</p> <p style="text-align: center;">26</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R2</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 20px auto; height: 500px;"></div> <p style="text-align: center;">図4-3(1) 荷重算出用モデル(単体モデル)</p> <p style="text-align: center;">26</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-5-4-1-3 残留熱除去系ストレナーの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R1</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 20px auto; height: 500px;"></div> <p style="text-align: center;">図 4-3(2) 荷重算出用モデル (単体モデル)</p> <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R2</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: 20px auto; height: 500px;"></div> <p style="text-align: center;">図 4-3(2) 荷重算出用モデル (単体モデル)</p> <p style="text-align: center;">27</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-5-4-1-3 残留熱除去系ストレナーナの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R1</p> <p>4.4 固有周期 地震応答解析モデル（サブプレッションチェンバ全体はりモデル）を用いた固有値解析の結果は、VI-2-9-2-2「サブプレッションチェンバの耐震性についての計算書」に記載するため、ここでは記載を省略する。なお、荷重算出用モデル（単体モデル）における固有値解析結果を図4-4に示す。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 280px; height: 240px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図4-4 固有値解析結果（単体モデル）</p> <p>4.5 設計用地震力 評価に用いる設計用地震力のうち設計基準対象施設の評価に用いるものを表4-9及び表4-10、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-11及び表4-12に示す。 「弾性設計用地震動S_d又は静的震度」及び「基準地震動S_s」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。なお、図3-1(3)に示す軸方向及び軸直角方向に作用する地震力を表4-13に示す。</p> <p style="text-align: center;">30</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-3 R2</p> <p>4.4 固有周期 地震応答解析モデル（サブプレッションチェンバ全体はりモデル）を用いた固有値解析の結果は、VI-2-9-2-2「サブプレッションチェンバの耐震性についての計算書」に記載するため、ここでは記載を省略する。なお、荷重算出用モデル（単体モデル）における固有値解析結果を図4-4に示す。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 280px; height: 240px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図4-4 固有値解析結果（単体モデル）</p> <p>4.5 設計用地震力 評価に用いる設計用地震力のうち設計基準対象施設の評価に用いるものを表4-9及び表4-10、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-11及び表4-12に示す。 「弾性設計用地震動S_d又は静的震度」及び「基準地震動S_s」による地震力は、VI-2-1-7「設計用床応答スペクトルの作成方針」に基づき設定する。なお、図3-1(3)に示す軸方向及び軸直角方向に作用する地震力を表4-13に示す。</p> <p style="text-align: center;">30</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-5-4-1-7 残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																										
<p>2.4 記号の説明</p> <table border="1" data-bbox="510 527 1267 909"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>記号の説明</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A</td><td>断面積</td><td>mm²</td></tr> <tr><td>F_v</td><td>せん断力</td><td>N</td></tr> <tr><td>M</td><td>曲げモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>N</td><td>軸力</td><td>N</td></tr> <tr><td>SRV</td><td>逃がし安全弁作動時</td><td>—</td></tr> <tr><td>T</td><td>ねじりモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>Z</td><td>断面係数, 極断面係数</td><td>mm³</td></tr> <tr><td>σ</td><td>組合せ応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>σ_b</td><td>曲げ応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>σ_t</td><td>垂直応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>τ</td><td>せん断応力</td><td>MPa</td></tr> </tbody> </table> <p>注：ここで定義されない記号については、各計算の項目において説明する。</p>	記号	記号の説明	単位	A	断面積	mm ²	F _v	せん断力	N	M	曲げモーメント	N・mm	N	軸力	N	SRV	逃がし安全弁作動時	—	T	ねじりモーメント	N・mm	Z	断面係数, 極断面係数	mm ³	σ	組合せ応力	MPa	σ _b	曲げ応力	MPa	σ _t	垂直応力	MPa	τ	せん断応力	MPa	<p>2.4 記号の説明</p> <table border="1" data-bbox="1709 527 2466 1098"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>記号の説明</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A</td><td>断面積</td><td>mm²</td></tr> <tr><td>F_v</td><td>せん断力</td><td>N</td></tr> <tr><td>M</td><td>曲げモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>N</td><td>軸力</td><td>N</td></tr> <tr><td>SRV</td><td>逃がし安全弁作動時</td><td>—</td></tr> <tr><td>T</td><td>ねじりモーメント</td><td>N・mm</td></tr> <tr><td>Z</td><td>断面係数, 極断面係数</td><td>mm³</td></tr> <tr><td>σ</td><td>組合せ応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>σ_b</td><td>曲げ応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>σ_t</td><td>垂直応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td>τ</td><td>せん断応力</td><td>MPa</td></tr> <tr><td><u>x</u></td><td>サポート局所座標系 (サポート面外方向)</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>y</u></td><td>サポート局所座標系 (サポート面内方向 (取付直交方向))</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>z</u></td><td>サポート局所座標系 (サポート面内方向 (取付方向))</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>I</u></td><td>サブプレッションチェンバ座標系 (半径方向)</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>J</u></td><td>サブプレッションチェンバ座標系 (円周方向)</td><td>—</td></tr> <tr><td><u>K</u></td><td>サブプレッションチェンバ座標系 (鉛直方向)</td><td>—</td></tr> </tbody> </table> <p>注：ここで定義されない記号については、各計算の項目において説明する。</p>	記号	記号の説明	単位	A	断面積	mm ²	F _v	せん断力	N	M	曲げモーメント	N・mm	N	軸力	N	SRV	逃がし安全弁作動時	—	T	ねじりモーメント	N・mm	Z	断面係数, 極断面係数	mm ³	σ	組合せ応力	MPa	σ _b	曲げ応力	MPa	σ _t	垂直応力	MPa	τ	せん断応力	MPa	<u>x</u>	サポート局所座標系 (サポート面外方向)	—	<u>y</u>	サポート局所座標系 (サポート面内方向 (取付直交方向))	—	<u>z</u>	サポート局所座標系 (サポート面内方向 (取付方向))	—	<u>I</u>	サブプレッションチェンバ座標系 (半径方向)	—	<u>J</u>	サブプレッションチェンバ座標系 (円周方向)	—	<u>K</u>	サブプレッションチェンバ座標系 (鉛直方向)	—	<p>記載の適正化</p>
記号	記号の説明	単位																																																																																										
A	断面積	mm ²																																																																																										
F _v	せん断力	N																																																																																										
M	曲げモーメント	N・mm																																																																																										
N	軸力	N																																																																																										
SRV	逃がし安全弁作動時	—																																																																																										
T	ねじりモーメント	N・mm																																																																																										
Z	断面係数, 極断面係数	mm ³																																																																																										
σ	組合せ応力	MPa																																																																																										
σ _b	曲げ応力	MPa																																																																																										
σ _t	垂直応力	MPa																																																																																										
τ	せん断応力	MPa																																																																																										
記号	記号の説明	単位																																																																																										
A	断面積	mm ²																																																																																										
F _v	せん断力	N																																																																																										
M	曲げモーメント	N・mm																																																																																										
N	軸力	N																																																																																										
SRV	逃がし安全弁作動時	—																																																																																										
T	ねじりモーメント	N・mm																																																																																										
Z	断面係数, 極断面係数	mm ³																																																																																										
σ	組合せ応力	MPa																																																																																										
σ _b	曲げ応力	MPa																																																																																										
σ _t	垂直応力	MPa																																																																																										
τ	せん断応力	MPa																																																																																										
<u>x</u>	サポート局所座標系 (サポート面外方向)	—																																																																																										
<u>y</u>	サポート局所座標系 (サポート面内方向 (取付直交方向))	—																																																																																										
<u>z</u>	サポート局所座標系 (サポート面内方向 (取付方向))	—																																																																																										
<u>I</u>	サブプレッションチェンバ座標系 (半径方向)	—																																																																																										
<u>J</u>	サブプレッションチェンバ座標系 (円周方向)	—																																																																																										
<u>K</u>	サブプレッションチェンバ座標系 (鉛直方向)	—																																																																																										
<p>S2 補 VI-2-5-4-1-7 R1</p> <p>5</p>	<p>S2 補 VI-2-5-4-1-7 R2</p> <p>5</p>																																																																																											

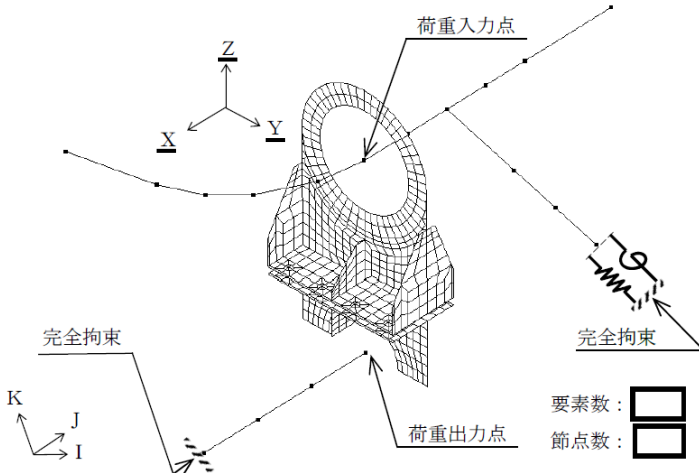
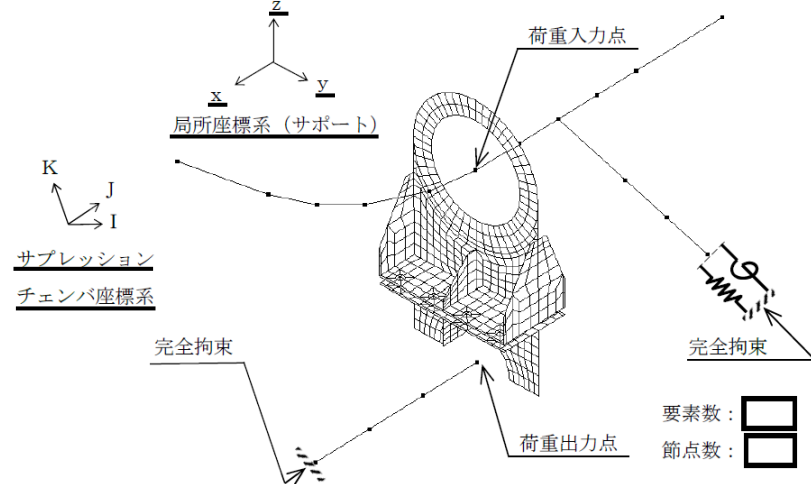
【VI-2-5-4-1-7 残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 110px; top: 460px;">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R1</p> <p style="text-align: center;">A~A矢視図</p> <p style="text-align: center;">図 3-1(2) ストレーナ取付部サポートの形状及び主要寸法 (単位: mm)</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 515px; top: 460px;">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R2</p> <p style="text-align: center;">側面図</p> <p style="text-align: center;">A~A矢視図</p> <p style="text-align: center;">図 3-1(2) ストレーナ取付部サポートの形状及び主要寸法 (単位: mm)</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

【VI-2-5-4-1-7 残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -50px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R1</p> <p>4. 地震応答解析及び構造強度評価</p> <p>4.1 地震応答解析及び構造強度評価方法</p> <p>(1) ストレーナの水平方向地震荷重及び鉛直方向地震荷重は、コネクタ、ティー、原子炉格納容器貫通部及びサポートを介してサブプレッションチェンバに伝達される。このため、ストレーナ取付部サポートは、ストレーナ部を含む一体モデルでの応答解析から得られたモーメントとストレーナから作用する荷重を用いて構造強度評価を行う。</p> <p>ストレーナ取付部サポートの構造強度評価における固有値解析、応答解析及び応力計算は、三次元はりモデル及び三次元シェルモデルによる有限要素解析手法を適用する。地震荷重以外の荷重（死荷重及び水力的動荷重）を 4.3(1)項に示す三次元はりモデル（以下「荷重算出用モデル（単体モデル）」という。）、固有値及び地震荷重を 4.3(2)項に示す三次元はりモデル（以下「地震応答解析モデル（サブプレッションチェンバ全体はりモデル）」という。）により算出し、4.6.2(3)項に示す三次元シェルモデル（以下「応力解析用モデル」という。）を用いてサポートプレート、4.6.2(1)項、4.6.2(2)項及び 4.6.2(4)項に示す方法を用いてサポートパイプ及びサポートボルトの応力計算を行う。</p> <p>(2) 地震力は、地震応答解析モデル（サブプレッションチェンバ全体はりモデル）に対して水平2方向及び鉛直方向から個別に作用させる。また、水平2方向及び鉛直方向の動的地震力による荷重（図3-1(2)の X、Y、Z 方向）の組み合わせにはSRSS法を適用する。</p> <p>(3) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>4.2 荷重の組合せ及び許容応力</p> <p>4.2.1 荷重の組合せ及び許容応力状態</p> <p>ストレーナ取付部サポートの荷重の組合せ及び許容応力状態のうち、設計基準対象施設の評価に用いるものを表4-1に、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-2に示す。また、荷重の組合せの整理表を表4-3に示す。</p> <p>4.2.2 許容応力</p> <p>ストレーナ取付部サポートの許容応力はVI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき表4-4に示す。</p> <p style="text-align: center;">10</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -50px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R2</p> <p>4. 地震応答解析及び構造強度評価</p> <p>4.1 地震応答解析及び構造強度評価方法</p> <p>(1) ストレーナの水平方向地震荷重及び鉛直方向地震荷重は、コネクタ、ティー、原子炉格納容器貫通部及びサポートを介してサブプレッションチェンバに伝達される。このため、ストレーナ取付部サポートは、ストレーナ部を含む一体モデルでの応答解析から得られたモーメントとストレーナから作用する荷重を用いて構造強度評価を行う。</p> <p>ストレーナ取付部サポートの構造強度評価における固有値解析、応答解析及び応力計算は、三次元はりモデル及び三次元シェルモデルによる有限要素解析手法を適用する。地震荷重以外の荷重（死荷重及び水力的動荷重）を 4.3(1)項に示す三次元はりモデル（以下「荷重算出用モデル（単体モデル）」という。）、固有値及び地震荷重を 4.3(2)項に示す三次元はりモデル（以下「地震応答解析モデル（サブプレッションチェンバ全体はりモデル）」という。）により算出し、4.6.2(3)項に示す三次元シェルモデル（以下「応力解析用モデル」という。）を用いてサポートプレート、4.6.2(1)項、4.6.2(2)項及び 4.6.2(4)項に示す方法を用いてサポートパイプ及びサポートボルトの応力計算を行う。</p> <p>(2) 地震力は、地震応答解析モデル（サブプレッションチェンバ全体はりモデル）に対して水平2方向及び鉛直方向から個別に作用させる。また、水平2方向及び鉛直方向の動的地震力による荷重（図3-1(2)の x、y、z 方向）の組み合わせにはSRSS法を適用する。</p> <p>(3) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>4.2 荷重の組合せ及び許容応力</p> <p>4.2.1 荷重の組合せ及び許容応力状態</p> <p>ストレーナ取付部サポートの荷重の組合せ及び許容応力状態のうち、設計基準対象施設の評価に用いるものを表4-1に、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表4-2に示す。また、荷重の組合せの整理表を表4-3に示す。</p> <p>4.2.2 許容応力</p> <p>ストレーナ取付部サポートの許容応力はVI-2-1-9「機能維持の基本方針」に基づき表4-4に示す。</p> <p style="text-align: center;">10</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-5-4-1-7 残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p>(3) サポートプレート (応力評価点 P3)</p> <p>サポートプレートの応力計算は応力解析用モデルにより行う。サポートプレートの応力解析用モデルを図 4-2 に、解析モデルの概要を以下に示す。また、機器の諸元を本計算書の【残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算結果】の機器要目、解析モデルの諸元を本計算書の【残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算結果】の解析モデルの諸元に示す。</p> <p>a. 応力解析用モデルでは、「4.3 解析モデル及び諸元」の応答解析用モデルのサポートプレート部をシェル要素でモデル化した有限要素モデルを用いて解析を行う。</p> <p>b. サポートプレートの各部位は溶接により接合されており、溶接部は健全性が確保されるよう設計する。</p> <p>c. 図 4-3 に示す荷重入力点に X 方向、Y 方向、及び Z 方向に単位荷重を個別に入力し、荷重出力点の反力と各部位の応力を算出する。また、得られた各入力に対する応力に、設計荷重と荷重出力点反力との比をかけた後、荷重の組み合わせを考慮した加算を行い、応力強さを算出する。</p> <p>d. 表 4-14 に示す設計荷重によりサポートプレートに生じる応力は、解析コード「MSC NASTRAN」を使用して計算する。</p>  <p>図 4-2 サポートプレートの応力解析用モデル</p> <p style="text-align: center;">25</p>	<p>(3) サポートプレート (応力評価点 P3)</p> <p>サポートプレートの応力計算は応力解析用モデルにより行う。サポートプレートの応力解析用モデルを図 4-2 に、解析モデルの概要を以下に示す。また、機器の諸元を本計算書の【残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算結果】の機器要目、解析モデルの諸元を本計算書の【残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算結果】の解析モデルの諸元に示す。</p> <p>a. 応力解析用モデルでは、「4.3 解析モデル及び諸元」の応答解析用モデルのサポートプレート部をシェル要素でモデル化した有限要素モデルを用いて解析を行う。</p> <p>b. サポートプレートの各部位は溶接により接合されており、溶接部は健全性が確保されるよう設計する。</p> <p>c. 図 4-3 に示す荷重入力点に x 方向、y 方向、及び z 方向に単位荷重を個別に入力し、荷重出力点の反力と各部位の応力を算出する。また、得られた各入力に対する応力に、設計荷重と荷重出力点反力との比をかけた後、荷重の組み合わせを考慮した加算を行い、応力強さを算出する。</p> <p>d. 表 4-14 に示す設計荷重によりサポートプレートに生じる応力は、解析コード「MSC NASTRAN」を使用して計算する。</p>  <p>図 4-2 サポートプレートの応力解析用モデル</p> <p style="text-align: center;">25</p>	<p>備考</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

S2 補 VI-2-5-4-1-7 R1

S2 補 VI-2-5-4-1-7 R2

【VI-2-5-4-1-7 残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																										
<p style="text-align: center;">表 4-14 ストレーナ取付部サポートプレートの設計荷重 (単位: N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>X方向</th> <th>Y方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td style="text-align: right;">3.408×10³</td> <td style="text-align: right;">7.606×10³</td> <td style="text-align: right;">3.503×10⁴</td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td style="text-align: right;">2.270×10⁴</td> <td style="text-align: right;">2.953×10⁴</td> <td style="text-align: right;">3.677×10⁴</td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td style="text-align: right;">3.553×10⁴</td> <td style="text-align: right;">4.549×10⁴</td> <td style="text-align: right;">9.622×10⁴</td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td style="text-align: right;">7.423×10⁴</td> <td style="text-align: right;">9.945×10⁴</td> <td style="text-align: right;">1.910×10⁵</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: 方向は図4-3参照 注2: 異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>(4) サポートボルト (応力評価点P4) サポートボルトの設計荷重を表4-15に示す。 表4-15に示す荷重により、サポートボルトに生じる応力を求める。 死荷重に対する計算例を以下に示す。</p> <p>a. 軸力による引張応力 $\sigma_t = \frac{N}{A} = \boxed{} = 14 \text{ MPa}$ ここに、A: サポートボルト (呼び径M$\boxed{}$) の断面積 $= \boxed{} \text{ mm}^2$ </p> <p>b. せん断力によるせん断応力 $\tau = \frac{F_v}{A} = \boxed{} = 15 \text{ MPa}$ </p> <p style="text-align: center;">表 4-15 サポートボルトの設計荷重 (単位: N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">荷重</th> <th colspan="2">軸力</th> <th colspan="2">せん断力</th> </tr> <tr> <th colspan="2">N</th> <th colspan="2">F_v</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td colspan="2" rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">[Redacted]</td> <td colspan="2" rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">[Redacted]</td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: ボルト一本に加わる荷重を示す。 注2: 異物による荷重を含めて計算している。</p>	荷重	X方向	Y方向	Z方向	1 死荷重	3.408×10 ³	7.606×10 ³	3.503×10 ⁴	2 SRV荷重	2.270×10 ⁴	2.953×10 ⁴	3.677×10 ⁴	3 地震荷重 (S d*)	3.553×10 ⁴	4.549×10 ⁴	9.622×10 ⁴	4 地震荷重 (S s)	7.423×10 ⁴	9.945×10 ⁴	1.910×10 ⁵	荷重	軸力		せん断力		N		F _v		1 死荷重	[Redacted]		[Redacted]		2 SRV荷重	3 地震荷重 (S d*)	4 地震荷重 (S s)	<p style="text-align: center;">表 4-14 ストレーナ取付部サポートプレートの設計荷重 (単位: N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>x方向</th> <th>y方向</th> <th>z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td style="text-align: right;">3.408×10³</td> <td style="text-align: right;">7.606×10³</td> <td style="text-align: right;">3.503×10⁴</td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td style="text-align: right;">2.270×10⁴</td> <td style="text-align: right;">2.953×10⁴</td> <td style="text-align: right;">3.677×10⁴</td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td style="text-align: right;">3.553×10⁴</td> <td style="text-align: right;">4.549×10⁴</td> <td style="text-align: right;">9.622×10⁴</td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td style="text-align: right;">7.423×10⁴</td> <td style="text-align: right;">9.945×10⁴</td> <td style="text-align: right;">1.910×10⁵</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: 方向は図4-3参照 注2: 異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>(4) サポートボルト (応力評価点P4) サポートボルトの設計荷重を表4-15に示す。 表4-15に示す荷重により、サポートボルトに生じる応力を求める。 死荷重に対する計算例を以下に示す。</p> <p>a. 軸力による引張応力 $\sigma_t = \frac{N}{A} = \boxed{} = 14 \text{ MPa}$ ここに、A: サポートボルト (呼び径M$\boxed{}$) の断面積 $= \boxed{} \text{ mm}^2$ </p> <p>b. せん断力によるせん断応力 $\tau = \frac{F_v}{A} = \boxed{} = 15 \text{ MPa}$ </p> <p style="text-align: center;">表 4-15 サポートボルトの設計荷重 (単位: N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">荷重</th> <th colspan="2">軸力</th> <th colspan="2">せん断力</th> </tr> <tr> <th colspan="2">N</th> <th colspan="2">F_v</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td colspan="2" rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">[Redacted]</td> <td colspan="2" rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">[Redacted]</td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: ボルト一本に加わる荷重を示す。 注2: 異物による荷重を含めて計算している。</p>	荷重	x方向	y方向	z方向	1 死荷重	3.408×10 ³	7.606×10 ³	3.503×10 ⁴	2 SRV荷重	2.270×10 ⁴	2.953×10 ⁴	3.677×10 ⁴	3 地震荷重 (S d*)	3.553×10 ⁴	4.549×10 ⁴	9.622×10 ⁴	4 地震荷重 (S s)	7.423×10 ⁴	9.945×10 ⁴	1.910×10 ⁵	荷重	軸力		せん断力		N		F _v		1 死荷重	[Redacted]		[Redacted]		2 SRV荷重	3 地震荷重 (S d*)	4 地震荷重 (S s)	記載の適正化
荷重	X方向	Y方向	Z方向																																																																									
1 死荷重	3.408×10 ³	7.606×10 ³	3.503×10 ⁴																																																																									
2 SRV荷重	2.270×10 ⁴	2.953×10 ⁴	3.677×10 ⁴																																																																									
3 地震荷重 (S d*)	3.553×10 ⁴	4.549×10 ⁴	9.622×10 ⁴																																																																									
4 地震荷重 (S s)	7.423×10 ⁴	9.945×10 ⁴	1.910×10 ⁵																																																																									
荷重	軸力		せん断力																																																																									
	N		F _v																																																																									
1 死荷重	[Redacted]		[Redacted]																																																																									
2 SRV荷重																																																																												
3 地震荷重 (S d*)																																																																												
4 地震荷重 (S s)																																																																												
荷重	x方向	y方向	z方向																																																																									
1 死荷重	3.408×10 ³	7.606×10 ³	3.503×10 ⁴																																																																									
2 SRV荷重	2.270×10 ⁴	2.953×10 ⁴	3.677×10 ⁴																																																																									
3 地震荷重 (S d*)	3.553×10 ⁴	4.549×10 ⁴	9.622×10 ⁴																																																																									
4 地震荷重 (S s)	7.423×10 ⁴	9.945×10 ⁴	1.910×10 ⁵																																																																									
荷重	軸力		せん断力																																																																									
	N		F _v																																																																									
1 死荷重	[Redacted]		[Redacted]																																																																									
2 SRV荷重																																																																												
3 地震荷重 (S d*)																																																																												
4 地震荷重 (S s)																																																																												

S2 補 VI-2-5-4-1-7 R1

S2 補 VI-2-5-4-1-7 R2

【VI-2-5-4-1-7 残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																												
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R1</p> <p>1.3 計算数値</p> <p>1.3.1 サポートハブの設計荷重</p> <table border="1" data-bbox="522 898 676 1722"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>1.3.2 サポートハブ溶接部の設計荷重</p> <table border="1" data-bbox="739 898 893 1722"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>1.3.3 サポートプレート設計荷重 (単位：N)</p> <table border="1" data-bbox="955 1024 1074 1722"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>X方向</th> <th>Y方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td>3,408×10³</td> <td>7,606×10³</td> <td>3,503×10⁴</td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td>2,270×10⁴</td> <td>2,953×10⁴</td> <td>3,677×10⁴</td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td>3,533×10⁴</td> <td>4,549×10⁴</td> <td>9,622×10⁴</td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td>7,423×10⁴</td> <td>9,945×10⁴</td> <td>1,910×10⁵</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p>	荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 SRV荷重					3 地震荷重 (S d*)					4 地震荷重 (S s)					荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 SRV荷重					3 地震荷重 (S d*)					4 地震荷重 (S s)					荷重	X方向	Y方向	Z方向	1 死荷重	3,408×10 ³	7,606×10 ³	3,503×10 ⁴	2 SRV荷重	2,270×10 ⁴	2,953×10 ⁴	3,677×10 ⁴	3 地震荷重 (S d*)	3,533×10 ⁴	4,549×10 ⁴	9,622×10 ⁴	4 地震荷重 (S s)	7,423×10 ⁴	9,945×10 ⁴	1,910×10 ⁵	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R2</p> <p>1.3 計算数値</p> <p>1.3.1 サポートハブの設計荷重</p> <table border="1" data-bbox="1718 898 1872 1722"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>1.3.2 サポートハブ溶接部の設計荷重</p> <table border="1" data-bbox="1935 898 2089 1722"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>1.3.3 サポートプレート設計荷重 (単位：N)</p> <table border="1" data-bbox="2145 1024 2264 1722"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>x方向</th> <th>y方向</th> <th>z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td>3,408×10³</td> <td>7,606×10³</td> <td>3,503×10⁴</td> </tr> <tr> <td>2 SRV荷重</td> <td>2,270×10⁴</td> <td>2,953×10⁴</td> <td>3,677×10⁴</td> </tr> <tr> <td>3 地震荷重 (S d*)</td> <td>3,533×10⁴</td> <td>4,549×10⁴</td> <td>9,622×10⁴</td> </tr> <tr> <td>4 地震荷重 (S s)</td> <td>7,423×10⁴</td> <td>9,945×10⁴</td> <td>1,910×10⁵</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p>	荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 SRV荷重					3 地震荷重 (S d*)					4 地震荷重 (S s)					荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 SRV荷重					3 地震荷重 (S d*)					4 地震荷重 (S s)					荷重	x方向	y方向	z方向	1 死荷重	3,408×10 ³	7,606×10 ³	3,503×10 ⁴	2 SRV荷重	2,270×10 ⁴	2,953×10 ⁴	3,677×10 ⁴	3 地震荷重 (S d*)	3,533×10 ⁴	4,549×10 ⁴	9,622×10 ⁴	4 地震荷重 (S s)	7,423×10 ⁴	9,945×10 ⁴	1,910×10 ⁵	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																																																										
1 死荷重																																																																																																																																														
2 SRV荷重																																																																																																																																														
3 地震荷重 (S d*)																																																																																																																																														
4 地震荷重 (S s)																																																																																																																																														
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																																																										
1 死荷重																																																																																																																																														
2 SRV荷重																																																																																																																																														
3 地震荷重 (S d*)																																																																																																																																														
4 地震荷重 (S s)																																																																																																																																														
荷重	X方向	Y方向	Z方向																																																																																																																																											
1 死荷重	3,408×10 ³	7,606×10 ³	3,503×10 ⁴																																																																																																																																											
2 SRV荷重	2,270×10 ⁴	2,953×10 ⁴	3,677×10 ⁴																																																																																																																																											
3 地震荷重 (S d*)	3,533×10 ⁴	4,549×10 ⁴	9,622×10 ⁴																																																																																																																																											
4 地震荷重 (S s)	7,423×10 ⁴	9,945×10 ⁴	1,910×10 ⁵																																																																																																																																											
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																																																										
1 死荷重																																																																																																																																														
2 SRV荷重																																																																																																																																														
3 地震荷重 (S d*)																																																																																																																																														
4 地震荷重 (S s)																																																																																																																																														
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																																																										
1 死荷重																																																																																																																																														
2 SRV荷重																																																																																																																																														
3 地震荷重 (S d*)																																																																																																																																														
4 地震荷重 (S s)																																																																																																																																														
荷重	x方向	y方向	z方向																																																																																																																																											
1 死荷重	3,408×10 ³	7,606×10 ³	3,503×10 ⁴																																																																																																																																											
2 SRV荷重	2,270×10 ⁴	2,953×10 ⁴	3,677×10 ⁴																																																																																																																																											
3 地震荷重 (S d*)	3,533×10 ⁴	4,549×10 ⁴	9,622×10 ⁴																																																																																																																																											
4 地震荷重 (S s)	7,423×10 ⁴	9,945×10 ⁴	1,910×10 ⁵																																																																																																																																											

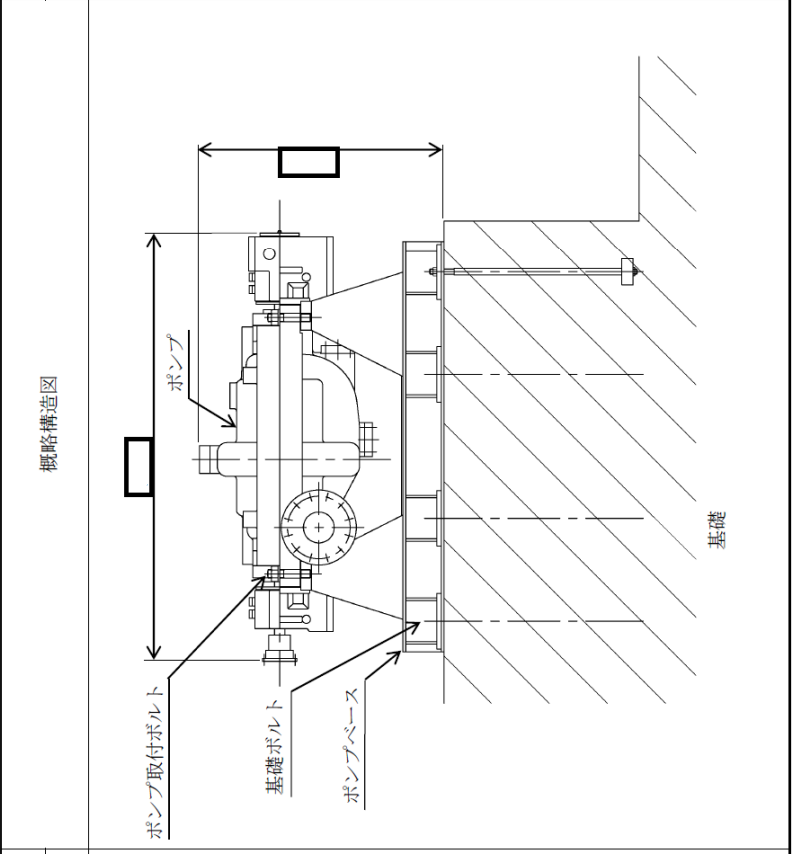
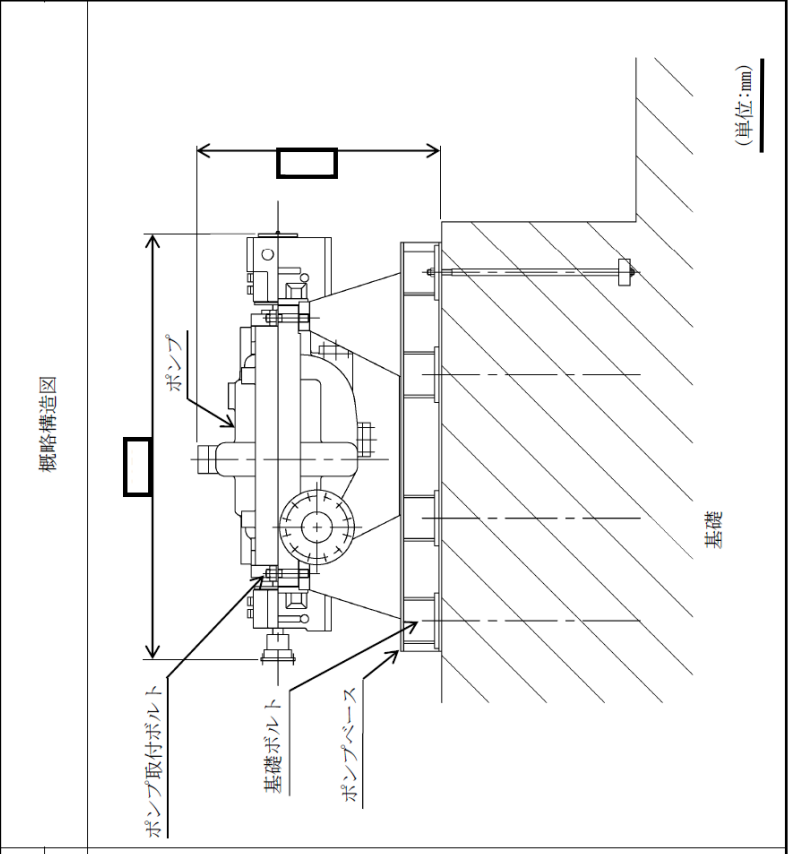
【VI-2-5-4-1-7 残留熱除去系ストレーナ取付部サポートの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																						
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R1</p> <p>2.3 計算数値</p> <p>2.3.1 サポートパイプの設計荷重</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>2.3.2 サポートパイプ溶接部の設計荷重</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>2.3.3 サポートプレート設計荷重 (単位：N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>X方向</th> <th>Y方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>2.3.4 サポートボルトの設計荷重 (単位：N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N</th> <th>せん断力 F_v</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p>	荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 地震荷重 (S s)					荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 地震荷重 (S s)					荷重	X方向	Y方向	Z方向	1 死荷重				2 地震荷重 (S s)				荷重	軸力 N	せん断力 F _v	1 死荷重			2 地震荷重 (S s)			<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-4-1-7 R2</p> <p>2.3 計算数値</p> <p>2.3.1 サポートパイプの設計荷重</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>2.3.2 サポートパイプ溶接部の設計荷重</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N (N)</th> <th>曲げモーメント M (N・mm)</th> <th>せん断力 F_v (N)</th> <th>ねじりモーメント T (N・mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>2.3.3 サポートプレート設計荷重 (単位：N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>X方向</th> <th>Y方向</th> <th>Z方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p> <p>2.3.4 サポートボルトの設計荷重 (単位：N)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>荷重</th> <th>軸力 N</th> <th>せん断力 F_v</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 死荷重</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 地震荷重 (S s)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注：異物による荷重を含めて計算している。</p>	荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 地震荷重 (S s)					荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)	1 死荷重					2 地震荷重 (S s)					荷重	X方向	Y方向	Z方向	1 死荷重				2 地震荷重 (S s)				荷重	軸力 N	せん断力 F _v	1 死荷重			2 地震荷重 (S s)			<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																				
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																				
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								
荷重	X方向	Y方向	Z方向																																																																																																					
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								
荷重	軸力 N	せん断力 F _v																																																																																																						
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																				
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								
荷重	軸力 N (N)	曲げモーメント M (N・mm)	せん断力 F _v (N)	ねじりモーメント T (N・mm)																																																																																																				
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								
荷重	X方向	Y方向	Z方向																																																																																																					
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								
荷重	軸力 N	せん断力 F _v																																																																																																						
1 死荷重																																																																																																								
2 地震荷重 (S s)																																																																																																								

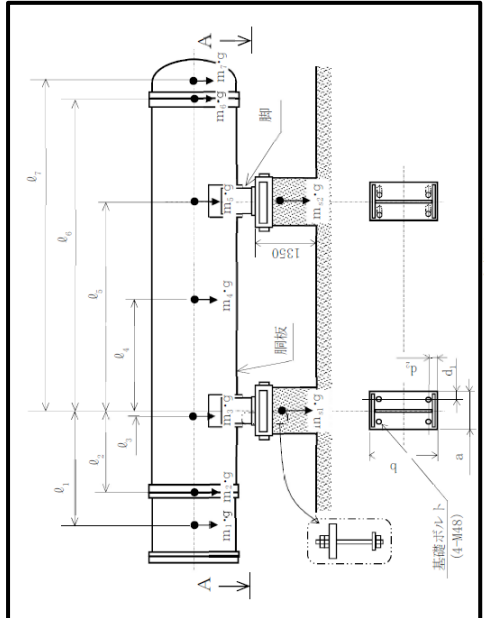
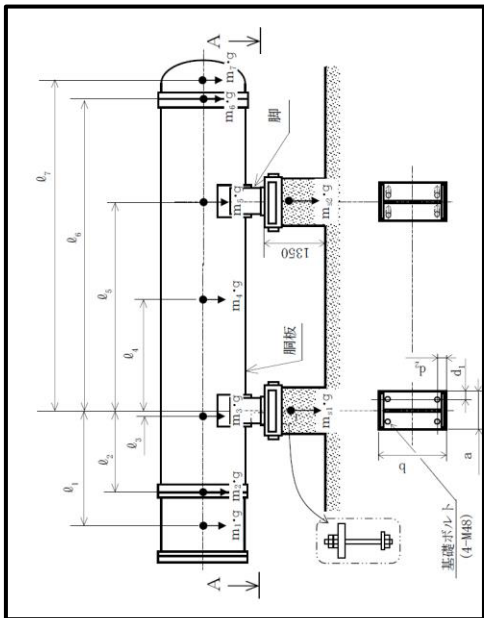
【VI-2-5-5-4-1 原子炉隔離時冷却系ストレーナの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考												
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-5-4-1 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">計画の概要</th> <th style="width: 70%;">概要構造図</th> </tr> <tr> <td> <p>基礎・支持構造</p> <p>ストレーナはサブプレッショナル内に水没された状態で設置されており、原子炉格納容器貫通部に取り付けられたティーンにフランジ及び取付ボルトにより据え付けられる。</p> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> <p>主体構造</p> <p>外径 <input type="text"/> mm, 長さ <input type="text"/> mm の円筒形の鋼製構造物である。</p> </td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要	概要構造図	<p>基礎・支持構造</p> <p>ストレーナはサブプレッショナル内に水没された状態で設置されており、原子炉格納容器貫通部に取り付けられたティーンにフランジ及び取付ボルトにより据え付けられる。</p>		<p>主体構造</p> <p>外径 <input type="text"/> mm, 長さ <input type="text"/> mm の円筒形の鋼製構造物である。</p>		<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-5-4-1 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">計画の概要</th> <th style="width: 70%;">概要構造図</th> </tr> <tr> <td> <p>基礎・支持構造</p> <p>ストレーナはサブプレッショナル内に水没された状態で設置されており、原子炉格納容器貫通部に取り付けられたティーンにフランジ及び取付ボルトにより据え付けられる。</p> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> <p>主体構造</p> <p>外径 <input type="text"/> mm, 長さ <input type="text"/> mm の円筒形の鋼製構造物である。</p> </td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要	概要構造図	<p>基礎・支持構造</p> <p>ストレーナはサブプレッショナル内に水没された状態で設置されており、原子炉格納容器貫通部に取り付けられたティーンにフランジ及び取付ボルトにより据え付けられる。</p>		<p>主体構造</p> <p>外径 <input type="text"/> mm, 長さ <input type="text"/> mm の円筒形の鋼製構造物である。</p>		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要	概要構造図													
<p>基礎・支持構造</p> <p>ストレーナはサブプレッショナル内に水没された状態で設置されており、原子炉格納容器貫通部に取り付けられたティーンにフランジ及び取付ボルトにより据え付けられる。</p>														
<p>主体構造</p> <p>外径 <input type="text"/> mm, 長さ <input type="text"/> mm の円筒形の鋼製構造物である。</p>														
計画の概要	概要構造図													
<p>基礎・支持構造</p> <p>ストレーナはサブプレッショナル内に水没された状態で設置されており、原子炉格納容器貫通部に取り付けられたティーンにフランジ及び取付ボルトにより据え付けられる。</p>														
<p>主体構造</p> <p>外径 <input type="text"/> mm, 長さ <input type="text"/> mm の円筒形の鋼製構造物である。</p>														

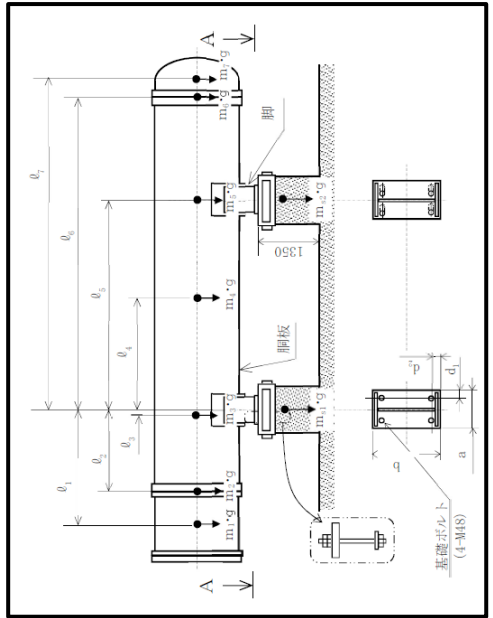
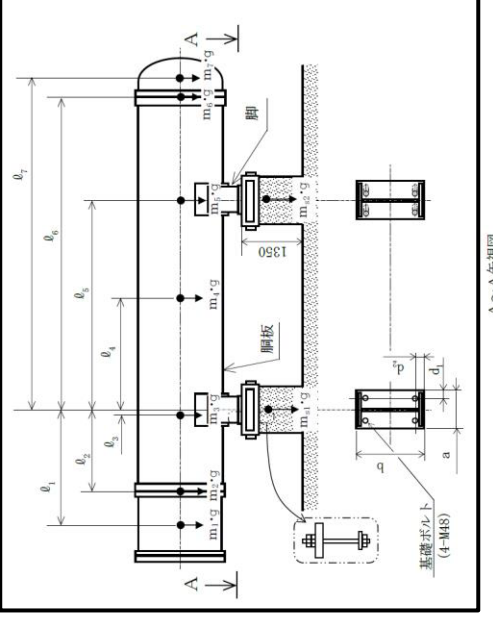
【VI-2-5-6-1-1 原子炉隔離時冷却ポンプの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考				
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-6-1-1 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ポンプはポンプベースにポンプ取付ボルトで固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p> </td> <td style="width: 70%; vertical-align: top;"> <p>主体構造 ターボ形（ターボ形横形ポンプ）</p> </td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">2</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ポンプはポンプベースにポンプ取付ボルトで固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p>主体構造 ターボ形（ターボ形横形ポンプ）</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-6-1-1 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ポンプはポンプベースにポンプ取付ボルトで固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p> </td> <td style="width: 70%; vertical-align: top;"> <p>主体構造 ターボ形（ターボ形横形ポンプ）</p> </td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">2</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ポンプはポンプベースにポンプ取付ボルトで固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p>主体構造 ターボ形（ターボ形横形ポンプ）</p>	<p>記載の適正化</p>
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ポンプはポンプベースにポンプ取付ボルトで固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p>主体構造 ターボ形（ターボ形横形ポンプ）</p>					
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造 ポンプはポンプベースにポンプ取付ボルトで固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p>主体構造 ターボ形（ターボ形横形ポンプ）</p>					

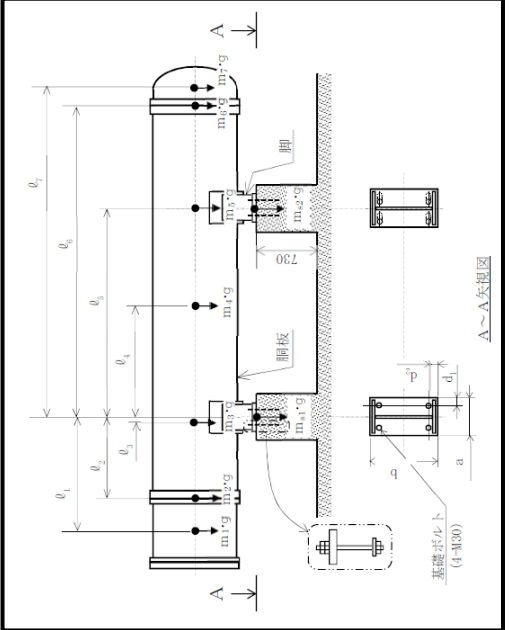
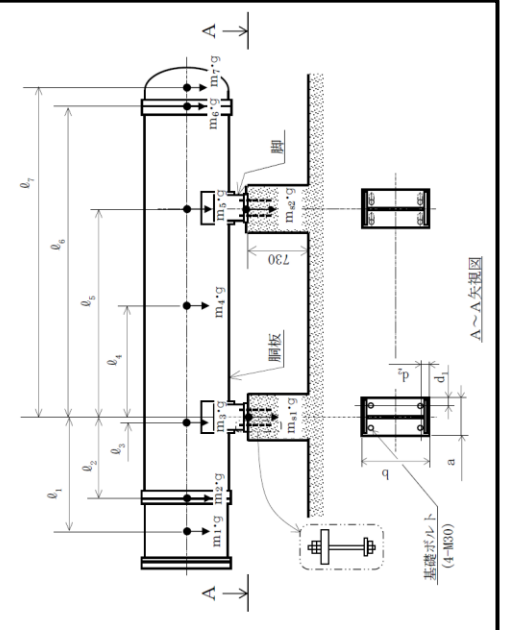
【VI-2-5-7-1-1 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																				
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-7-1-1 R1</p> <p>【原子炉補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 設計基準対象施設</p> <p>1.1. 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">耐震重要度分類</th> <th rowspan="2">耐震重要度</th> <th colspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S d</th> <th colspan="2">非弾性設計用地震動 S s</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉補機冷却系熱交換器</td> <td>S</td> <td>EL. 15.3^{*)}</td> <td></td> <td></td> <td>C_H=0.89^{*)}</td> <td></td> <td>C_H=1.45^{*)}</td> <td>C_V=1.16^{*)}</td> <td>1.37</td> <td>85</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準レベルを示す。 *2: 設計用震度II (弾性設計用地震動 S d) 又は静的震度 *3: 設計用震度I (基準地震動 S s) を上回る設計震度</p> <p>1.2. 機器要目</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>m₁ (kg)</th> <th>m₂ (kg)</th> <th>m₃ (kg)</th> <th>m₄ (kg)</th> <th>m₅ (kg)</th> <th>m₆ (kg)</th> <th>m₇ (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>ℓ₁ (mm)</th> <th>ℓ₂ (mm)</th> <th>ℓ₃ (mm)</th> <th>ℓ₄ (mm)</th> <th>ℓ₅ (mm)</th> <th>ℓ₆ (mm)</th> <th>ℓ₇ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-2000</td> <td>-790</td> <td>0</td> <td>1960</td> <td>3900</td> <td>4860</td> <td>5520</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>M₁ (N・mm)</th> <th>M₂ (N・mm)</th> <th>R₁ (N)</th> <th>R₂ (N)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.380×10⁸</td> <td>1.143×10⁸</td> <td>3.079×10⁶</td> <td>1.930×10⁶</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: right;">(単位: mm)</p>	機器名称	耐震重要度分類	耐震重要度	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d		非弾性設計用地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	原子炉補機冷却系熱交換器	S	EL. 15.3 ^{*)}			C _H =0.89 ^{*)}		C _H =1.45 ^{*)}	C _V =1.16 ^{*)}	1.37	85	55	m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)								ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520	M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	2.380×10 ⁸	1.143×10 ⁸	3.079×10 ⁶	1.930×10 ⁶	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-7-1-1 R2</p> <p>【原子炉補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 設計基準対象施設</p> <p>1.1. 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">耐震重要度分類</th> <th rowspan="2">耐震重要度</th> <th colspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S d</th> <th colspan="2">非弾性設計用地震動 S s</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉補機冷却系熱交換器</td> <td>S</td> <td>EL. 15.3^{*)}</td> <td></td> <td></td> <td>C_H=0.89^{*)}</td> <td></td> <td>C_H=1.45^{*)}</td> <td>C_V=1.16^{*)}</td> <td>1.37</td> <td>85</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 基準レベルを示す。 *2: 設計用震度II (弾性設計用地震動 S d) 又は静的震度 *3: 設計用震度I (基準地震動 S s) を上回る設計震度</p> <p>1.2. 機器要目</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>m₁ (kg)</th> <th>m₂ (kg)</th> <th>m₃ (kg)</th> <th>m₄ (kg)</th> <th>m₅ (kg)</th> <th>m₆ (kg)</th> <th>m₇ (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>ℓ₁ (mm)</th> <th>ℓ₂ (mm)</th> <th>ℓ₃ (mm)</th> <th>ℓ₄ (mm)</th> <th>ℓ₅ (mm)</th> <th>ℓ₆ (mm)</th> <th>ℓ₇ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-2000</td> <td>-790</td> <td>0</td> <td>1960</td> <td>3900</td> <td>4860</td> <td>5520</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>M₁ (N・mm)</th> <th>M₂ (N・mm)</th> <th>R₁ (N)</th> <th>R₂ (N)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.380×10⁸</td> <td>1.143×10⁸</td> <td>3.079×10⁶</td> <td>1.930×10⁶</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: right;">(単位: mm)</p>	機器名称	耐震重要度分類	耐震重要度	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d		非弾性設計用地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	原子炉補機冷却系熱交換器	S	EL. 15.3 ^{*)}			C _H =0.89 ^{*)}		C _H =1.45 ^{*)}	C _V =1.16 ^{*)}	1.37	85	55	m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)								ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520	M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	2.380×10 ⁸	1.143×10 ⁸	3.079×10 ⁶	1.930×10 ⁶	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
機器名称				耐震重要度分類	耐震重要度	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d					非弾性設計用地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)																																																																																																																					
	水平方向	鉛直方向	水平方向			鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																														
原子炉補機冷却系熱交換器	S	EL. 15.3 ^{*)}			C _H =0.89 ^{*)}		C _H =1.45 ^{*)}	C _V =1.16 ^{*)}	1.37	85	55																																																																																																																											
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)																																																																																																																																
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)																																																																																																																																
-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520																																																																																																																																
M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)																																																																																																																																			
2.380×10 ⁸	1.143×10 ⁸	3.079×10 ⁶	1.930×10 ⁶																																																																																																																																			
機器名称	耐震重要度分類	耐震重要度	固有周期(s)		弾性設計用地震動 S d		非弾性設計用地震動 S s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)																																																																																																																											
			水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																														
原子炉補機冷却系熱交換器	S	EL. 15.3 ^{*)}			C _H =0.89 ^{*)}		C _H =1.45 ^{*)}	C _V =1.16 ^{*)}	1.37	85	55																																																																																																																											
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)																																																																																																																																
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)																																																																																																																																
-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520																																																																																																																																
M ₁ (N・mm)	M ₂ (N・mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)																																																																																																																																			
2.380×10 ⁸	1.143×10 ⁸	3.079×10 ⁶	1.930×10 ⁶																																																																																																																																			

【VI-2-5-7-1-1 原子炉補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																																								
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-7-1-1 R1</p> <p>2. 重大事故等対処設備 2.1 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th colspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却系熱交換器</td> <td>常設/防止 (DB仕様)</td> <td>原子炉建物 EL.15.3*</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.37</td> <td>85</td> <td>55</td> </tr> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 I (基準地震動 S_s) を上回る設計震度</p> <p>2.2 機器要件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>m₁ (kg)</td> <td>m₂ (kg)</td> <td>m₃ (kg)</td> <td>m₄ (kg)</td> <td>m₅ (kg)</td> <td>m₆ (kg)</td> <td>m₇ (kg)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ℓ₁ (mm)</td> <td>ℓ₂ (mm)</td> <td>ℓ₃ (mm)</td> <td>ℓ₄ (mm)</td> <td>ℓ₅ (mm)</td> <td>ℓ₆ (mm)</td> <td>ℓ₇ (mm)</td> </tr> <tr> <td>-2000</td> <td>-790</td> <td>0</td> <td>1960</td> <td>3900</td> <td>4860</td> <td>5520</td> </tr> <tr> <td>M₁ (N*mm)</td> <td>M₂ (N*mm)</td> <td>R₁ (N)</td> <td>R₂ (N)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.380×10⁶</td> <td>1.143×10⁶</td> <td>3.079×10⁶</td> <td>1.920×10⁶</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>  <p style="text-align: right;">(単位: mm)</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	原子炉補機冷却系熱交換器	常設/防止 (DB仕様)	原子炉建物 EL.15.3*				—	—	—	—	1.37	85	55	m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)								ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520	M ₁ (N*mm)	M ₂ (N*mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)				2.380×10 ⁶	1.143×10 ⁶	3.079×10 ⁶	1.920×10 ⁶				<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-7-1-1 R2</p> <p>2. 重大事故等対処設備 2.1 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th colspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> <tr> <td>原子炉補機冷却系熱交換器</td> <td>常設/防止 (DB仕様)</td> <td>原子炉建物 EL.15.3*</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.37</td> <td>85</td> <td>55</td> </tr> </table> <p>注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 I (基準地震動 S_s) を上回る設計震度</p> <p>2.2 機器要件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>m₁ (kg)</td> <td>m₂ (kg)</td> <td>m₃ (kg)</td> <td>m₄ (kg)</td> <td>m₅ (kg)</td> <td>m₆ (kg)</td> <td>m₇ (kg)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ℓ₁ (mm)</td> <td>ℓ₂ (mm)</td> <td>ℓ₃ (mm)</td> <td>ℓ₄ (mm)</td> <td>ℓ₅ (mm)</td> <td>ℓ₆ (mm)</td> <td>ℓ₇ (mm)</td> </tr> <tr> <td>-2000</td> <td>-790</td> <td>0</td> <td>1960</td> <td>3900</td> <td>4860</td> <td>5520</td> </tr> <tr> <td>M₁ (N*mm)</td> <td>M₂ (N*mm)</td> <td>R₁ (N)</td> <td>R₂ (N)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.380×10⁶</td> <td>1.143×10⁶</td> <td>3.079×10⁶</td> <td>1.920×10⁶</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>  <p style="text-align: right;">(単位: mm)</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	原子炉補機冷却系熱交換器	常設/防止 (DB仕様)	原子炉建物 EL.15.3*				—	—	—	—	1.37	85	55	m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)								ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520	M ₁ (N*mm)	M ₂ (N*mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)				2.380×10 ⁶	1.143×10 ⁶	3.079×10 ⁶	1.920×10 ⁶				<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
機器名称			設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s				最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																										
	水平方向	鉛直方向		水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																	
原子炉補機冷却系熱交換器	常設/防止 (DB仕様)	原子炉建物 EL.15.3*				—	—	—	—	1.37	85	55																																																																																																																																														
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)																																																																																																																																																				
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)																																																																																																																																																				
-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520																																																																																																																																																				
M ₁ (N*mm)	M ₂ (N*mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)																																																																																																																																																							
2.380×10 ⁶	1.143×10 ⁶	3.079×10 ⁶	1.920×10 ⁶																																																																																																																																																							
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																														
		水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																	
原子炉補機冷却系熱交換器	常設/防止 (DB仕様)	原子炉建物 EL.15.3*				—	—	—	—	1.37	85	55																																																																																																																																														
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)																																																																																																																																																				
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)																																																																																																																																																				
-2000	-790	0	1960	3900	4860	5520																																																																																																																																																				
M ₁ (N*mm)	M ₂ (N*mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)																																																																																																																																																							
2.380×10 ⁶	1.143×10 ⁶	3.079×10 ⁶	1.920×10 ⁶																																																																																																																																																							

【VI-2-5-7-2-1 高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																				
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-7-2-1 R1</p> <p style="text-align: center;">【高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 設計基準対象施設</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">耐震重要度分類</th> <th rowspan="2">振付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基礎地震動 S_s</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> <tr> <td>高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器</td> <td>S</td> <td>原子炉建物 EL. 1.3^{*1}</td> <td></td> <td></td> <td>C_H=0.78^{*2}</td> <td>C_V=0.54^{*2}</td> <td>C_H=1.56^{*3}</td> <td>C_V=1.16^{*3}</td> <td>0.98</td> <td>66</td> <td>40</td> </tr> </table> <p>注記*1：基準レベルを示す。 *2：設計用震度 II (弾性設計用地震動 S_d) 及び静的震度を上回る設計震度 *3：設計用震度 II (基礎地震動 S_s) を上回る設計震度</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>m₁ (kg)</th> <th>m₂ (kg)</th> <th>m₃ (kg)</th> <th>m₄ (kg)</th> <th>m₅ (kg)</th> <th>m₆ (kg)</th> <th>m₇ (kg)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>ℓ₁ (mm)</th> <th>ℓ₂ (mm)</th> <th>ℓ₃ (mm)</th> <th>ℓ₄ (mm)</th> <th>ℓ₅ (mm)</th> <th>ℓ₆ (mm)</th> <th>ℓ₇ (mm)</th> </tr> <tr> <td>-1496</td> <td>-650</td> <td>0</td> <td>1250</td> <td>2500</td> <td>3236</td> <td>3874</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>M₁ (N·mm)</th> <th>M₂ (N·mm)</th> <th>R₁ (N)</th> <th>R₂ (N)</th> </tr> <tr> <td>4.668×10⁷</td> <td>2.581×10⁷</td> <td>7.518×10⁴</td> <td>4.446×10⁴</td> </tr> </table>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	機器名称	耐震重要度分類	振付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基礎地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器	S	原子炉建物 EL. 1.3 ^{*1}			C _H =0.78 ^{*2}	C _V =0.54 ^{*2}	C _H =1.56 ^{*3}	C _V =1.16 ^{*3}	0.98	66	40	m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)								ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	-1496	-650	0	1250	2500	3236	3874	M ₁ (N·mm)	M ₂ (N·mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	4.668×10 ⁷	2.581×10 ⁷	7.518×10 ⁴	4.446×10 ⁴	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-5-7-2-1 R2</p> <p style="text-align: center;">【高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 設計基準対象施設</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">耐震重要度分類</th> <th rowspan="2">振付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d 又は静的震度</th> <th colspan="2">基礎地震動 S_s</th> <th rowspan="2">最高使用圧力 (MPa)</th> <th rowspan="2">最高使用温度 (°C)</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> <tr> <td>高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器</td> <td>S</td> <td>原子炉建物 EL. 1.3^{*1}</td> <td></td> <td></td> <td>C_H=0.78^{*2}</td> <td>C_V=0.54^{*2}</td> <td>C_H=1.56^{*3}</td> <td>C_V=1.16^{*3}</td> <td>0.98</td> <td>66</td> <td>40</td> </tr> </table> <p>注記*1：基準レベルを示す。 *2：設計用震度 II (弾性設計用地震動 S_d) 及び静的震度を上回る設計震度 *3：設計用震度 II (基礎地震動 S_s) を上回る設計震度</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>m₁ (kg)</th> <th>m₂ (kg)</th> <th>m₃ (kg)</th> <th>m₄ (kg)</th> <th>m₅ (kg)</th> <th>m₆ (kg)</th> <th>m₇ (kg)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>ℓ₁ (mm)</th> <th>ℓ₂ (mm)</th> <th>ℓ₃ (mm)</th> <th>ℓ₄ (mm)</th> <th>ℓ₅ (mm)</th> <th>ℓ₆ (mm)</th> <th>ℓ₇ (mm)</th> </tr> <tr> <td>-1496</td> <td>-650</td> <td>0</td> <td>1250</td> <td>2500</td> <td>3236</td> <td>3874</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>M₁ (N·mm)</th> <th>M₂ (N·mm)</th> <th>R₁ (N)</th> <th>R₂ (N)</th> </tr> <tr> <td>4.668×10⁷</td> <td>2.581×10⁷</td> <td>7.518×10⁴</td> <td>4.446×10⁴</td> </tr> </table>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	機器名称	耐震重要度分類	振付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基礎地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器	S	原子炉建物 EL. 1.3 ^{*1}			C _H =0.78 ^{*2}	C _V =0.54 ^{*2}	C _H =1.56 ^{*3}	C _V =1.16 ^{*3}	0.98	66	40	m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)								ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)	-1496	-650	0	1250	2500	3236	3874	M ₁ (N·mm)	M ₂ (N·mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	4.668×10 ⁷	2.581×10 ⁷	7.518×10 ⁴	4.446×10 ⁴	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
機器名称				耐震重要度分類	振付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度					基礎地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)																																																																																																																					
	水平方向	鉛直方向	水平方向			鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																														
高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器	S	原子炉建物 EL. 1.3 ^{*1}			C _H =0.78 ^{*2}	C _V =0.54 ^{*2}	C _H =1.56 ^{*3}	C _V =1.16 ^{*3}	0.98	66	40																																																																																																																											
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)																																																																																																																																
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)																																																																																																																																
-1496	-650	0	1250	2500	3236	3874																																																																																																																																
M ₁ (N·mm)	M ₂ (N·mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)																																																																																																																																			
4.668×10 ⁷	2.581×10 ⁷	7.518×10 ⁴	4.446×10 ⁴																																																																																																																																			
機器名称	耐震重要度分類	振付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基礎地震動 S _s		最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)																																																																																																																											
			水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																														
高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器	S	原子炉建物 EL. 1.3 ^{*1}			C _H =0.78 ^{*2}	C _V =0.54 ^{*2}	C _H =1.56 ^{*3}	C _V =1.16 ^{*3}	0.98	66	40																																																																																																																											
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)	m ₆ (kg)	m ₇ (kg)																																																																																																																																
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)	ℓ ₆ (mm)	ℓ ₇ (mm)																																																																																																																																
-1496	-650	0	1250	2500	3236	3874																																																																																																																																
M ₁ (N·mm)	M ₂ (N·mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)																																																																																																																																			
4.668×10 ⁷	2.581×10 ⁷	7.518×10 ⁴	4.446×10 ⁴																																																																																																																																			

【VI-2-5-7-2-1 高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器の耐震性についての計算書】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-5-7-2-1 R1				
2. 重大事故等対応設備				
2.1 設計条件				
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度
高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器 (DB配管)	常設/防止 (DB配管)	原子炉建物 EL. 1.3*	水平方向 鉛直方向	水平方向 鉛直方向 設計震度 設計震度
注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S _s) を上回る設計震度				最高使用圧力 (MPa)
				0.98
				最高使用温度 (°C)
				100
				周囲環境温度 (°C)
				100
2.2 機器要目				
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)
-1496	-650	0	1250	2500
M ₁ (N·mm)	M ₂ (N·mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	R ₃ (N)
4.668×10 ⁷	2.581×10 ⁷	7.518×10 ⁴	4.446×10 ⁴	
S2 補 VI-2-5-7-2-1 R2				
2. 重大事故等対応設備				
2.1 設計条件				
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度
高圧炉心スプレイ補機冷却系熱交換器 (DB配管)	常設/防止 (DB配管)	原子炉建物 EL. 1.3**	水平方向 鉛直方向	水平方向 鉛直方向 設計震度 設計震度
注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S _s) を上回る設計震度				最高使用圧力 (MPa)
				0.98
				最高使用温度 (°C)
				100
				周囲環境温度 (°C)
				100
2.2 機器要目				
m ₁ (kg)	m ₂ (kg)	m ₃ (kg)	m ₄ (kg)	m ₅ (kg)
ℓ ₁ (mm)	ℓ ₂ (mm)	ℓ ₃ (mm)	ℓ ₄ (mm)	ℓ ₅ (mm)
-1496	-650	0	1250	2500
M ₁ (N·mm)	M ₂ (N·mm)	R ₁ (N)	R ₂ (N)	R ₃ (N)
4.668×10 ⁷	2.581×10 ⁷	7.518×10 ⁴	4.446×10 ⁴	
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前										補正後										備考																																																																																																																																																																										
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-1 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 耐震評価条件一覧表(1/25)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価対象設備</th> <th colspan="3">設計基準対象施設</th> <th colspan="3">重大事故等対処設備</th> </tr> <tr> <th>耐震重要度分類</th> <th>新規制基準施行前に認められた実績との差異</th> <th>耐震計算の記載箇所</th> <th>設備分類*</th> <th>設計基準対象施設との評価条件の差異</th> <th>耐震計算の記載箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-2-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-2-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-2-1-2</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-2-1-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—*2</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>—</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>										評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備			耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-2-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-2-1	計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-1	計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1	計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1	計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-2-1-2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-2	計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—	制御材	—	常設耐震/防止	—	—	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-1 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 耐震評価条件一覧表(1/25)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価対象設備</th> <th colspan="3">設計基準対象施設</th> <th colspan="3">重大事故等対処設備</th> </tr> <tr> <th>耐震重要度分類</th> <th>新規制基準施行前に認められた実績との差異</th> <th>耐震計算の記載箇所</th> <th>設備分類*</th> <th>設計基準対象施設との評価条件の差異</th> <th>耐震計算の記載箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-2-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-2-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-2-1-1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>VI-2-6-3-2-1-2</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>無</td> <td>VI-2-6-3-2-1-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測制御系統施設</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>制御材</td> <td>—</td> <td>常設耐震/防止</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>										評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備			耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-2-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-2-1	計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-1	計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1	計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1	計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—	制御材	VI-2-6-3-2-1-2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-2	計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—	制御材	—	常設耐震/防止	—	—	記載の適正化
											評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備																																																																																																																																																																															
										耐震重要度分類		新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所																																																																																																																																																																														
										計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—																																																																																																																																																																														
																	制御材	VI-2-6-2-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-2-1																																																																																																																																																																									
										計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—																																																																																																																																																																														
																	制御材	VI-2-6-3-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-1																																																																																																																																																																									
										計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—																																																																																																																																																																														
																	制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1																																																																																																																																																																									
										計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—																																																																																																																																																																														
制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1																																																																																																																																																																																										
計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	VI-2-6-3-2-1-2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-2																																																																																																																																																																																			
計測制御系統施設	—	—*2	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	—	常設耐震/防止	—	—																																																																																																																																																																																			
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備																																																																																																																																																																																										
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所																																																																																																																																																																																								
計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	VI-2-6-2-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-2-1																																																																																																																																																																																			
計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	VI-2-6-3-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-1																																																																																																																																																																																			
計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1																																																																																																																																																																																			
計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	VI-2-6-3-2-1-1	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-1																																																																																																																																																																																			
計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	VI-2-6-3-2-1-2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-3-2-1-2																																																																																																																																																																																			
計測制御系統施設	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																								
							制御材	—	常設耐震/防止	—	—																																																																																																																																																																																			

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

		補正前				補正後				備考
S2 補 VI-2-6-1 R1										
表 2-1 耐震評価条件一覧表(2/25)										
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備						
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所				
計測制御系統施設	—	—	ほう酸水注入ポンプ	VI-2-6-4-1-1	常設耐震/防止	有	VI-2-6-4-1-1			
			ほう酸水貯蔵タンク	VI-2-6-4-1-2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-4-1-2			
			主配管	VI-2-6-4-1-3	常設耐震/防止	有	VI-2-6-4-1-3			
ほう酸水注入設備	—	—	ほう酸水注入系	—	常設耐震/防止	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7			
			原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	常設耐震/防止	—	VI-2-3-3-1-2			
ほう酸水注入系	—	—	差圧検出・ほう酸水注入系配管(ティーよりN11ノズルまでの外管) (原子炉本体に記載)	—	常設耐震/防止	—	VI-2-3-3-2-5			
S2 補 VI-2-6-1 R2										
表 2-1 耐震評価条件一覧表(2/25)										
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備						
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所				
計測制御系統施設	—	—	ほう酸水注入ポンプ	VI-2-6-4-1-1	常設耐震/防止	有	VI-2-6-4-1-1			
			ほう酸水貯蔵タンク	VI-2-6-4-1-2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-4-1-2			
			主配管	VI-2-6-4-1-3	常設耐震/防止	有	VI-2-6-4-1-3			
ほう酸水注入設備	—	—	ほう酸水注入系	—	常設耐震/防止	—	VI-2-3-2-2-2 VI-2-3-2-2-3 VI-2-3-2-2-4 VI-2-3-2-2-5 VI-2-3-2-2-6 VI-2-3-2-2-7			
			原子炉圧力容器 (原子炉本体に記載)	—	常設耐震/防止	—	VI-2-3-3-1-2			
ほう酸水注入系	—	—	差圧検出・ほう酸水注入系配管(ティーよりN11ノズルまでの外管) (原子炉本体に記載)	—	常設耐震/防止	—	VI-2-3-3-2-5			
記載の適正化										

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(3/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	—	—*2	—	—
ほう酸水注入設備	—	—*2	—	—
ほう酸水注入系	—	—*2	—	—
差圧検出・ほう酸水注入系配管(原子炉圧力容器内部) (原子炉本体に記載)	—	—*2	—	—
原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—	—*2	—	—
			常設耐震/防止	VI-2-3-3-3-10
			常設耐震/防止	VI-2-9-2-10
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(3/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	—	—	—	—
ほう酸水注入設備	—	—	—	—
ほう酸水注入系	—	—	—	—
差圧検出・ほう酸水注入系配管(原子炉圧力容器内部) (原子炉本体に記載)	—	—	—	—
原子炉格納容器配管貫通部 (原子炉格納施設に記載)	—	—	—	—
			常設耐震/防止	VI-2-3-3-3-10
			常設耐震/防止	VI-2-9-2-10
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
表 2-1 耐震評価条件一覧表(5/25)				
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		耐震計算の記載箇所
		新規制基準施行前に認可された実績との差異	重大事故等対処設備	
計測装置				
計測制御系統施設				
高压原子炉代替注水流量	—	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-11
代替注水流量(常設)	—	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-12
低压原子炉代替注水流量	—	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-13
低压原子炉代替注水流量(狭帯域用)	—	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-14
残留熱代替除去系原子炉注水流量	—	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-15
原子炉圧力	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-16
原子炉圧力(SA)	—	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-17
原子炉水位(広帯域)	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-18
原子炉水位(燃料域)	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-19
原子炉水位(狭帯域)	S	—*2	—	—
原子炉水位(SA)	—	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-21
表 2-1 耐震評価条件一覧表(5/25)				
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		耐震計算の記載箇所
		新規制基準施行前に認可された実績との差異	重大事故等対処設備	
計測装置				
計測制御系統施設				
高压原子炉代替注水流量	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-11
代替注水流量(常設)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-12
低压原子炉代替注水流量	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-13
低压原子炉代替注水流量(狭帯域用)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-14
残留熱代替除去系原子炉注水流量	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-15
原子炉圧力	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-16
原子炉圧力(SA)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-17
原子炉水位(広帯域)	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-18
原子炉水位(燃料域)	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-19
原子炉水位(狭帯域)	S	—*2	—	—
原子炉水位(SA)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-5-21
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(6/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	ドライウエル圧力	—*2	VI-2-6-5-22	—
	サブレーションチェンバ圧力	—*2	VI-2-6-5-23	—
	サブレーションポンプルー水温度	—*2	VI-2-6-5-24	—
	ドライウエル圧力 (SA)	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	サブレーションチェンバ圧力 (SA)	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	ドライウエル温度 (SA)	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	ベデスタル温度 (SA)	—*2	—	常設/緩和
	ベデスタル水温度 (SA)	—*2	—	常設/緩和
	サブレーションチェンバ温度 (SA)	—*2	—	常設/緩和
	サブレーションポンプルー水温度 (SA)	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	格納容器酸素濃度	—*2	VI-2-6-5-32	—
				無
				耐震計算の記載箇所
7				
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(6/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	ドライウエル圧力	—*2	VI-2-6-5-22	—
	サブレーションチェンバ圧力	—*2	VI-2-6-5-23	—
	サブレーションポンプルー水温度	—*2	VI-2-6-5-24	—
	ドライウエル圧力 (SA)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	サブレーションチェンバ圧力 (SA)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	ドライウエル温度 (SA)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	ベデスタル温度 (SA)	—	—	常設/緩和
	ベデスタル水温度 (SA)	—	—	常設/緩和
	サブレーションチェンバ温度 (SA)	—	—	常設/緩和
	サブレーションポンプルー水温度 (SA)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和
	格納容器酸素濃度	—*2	VI-2-6-5-32	—
				無
				耐震計算の記載箇所
7				
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

		補正前					補正後					備考	
S2 補 VI-2-6-1 R1													
表 2-1 耐震評価条件一覧表(7/25)													
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備								
		新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所							
計測装置 計測制御系統施設	格納容器酸素濃度 (S A)	— ^{*2}	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-33							
	格納容器水素濃度	— ^{*2}	VI-2-6-5-34	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-5-34							
	格納容器水素濃度 (S A)	— ^{*2}	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-35							
	低圧原子炉代替注水槽水位	— ^{*2}	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-36							
	格納容器代替スプレイ流量	— ^{*2}	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-37							
	ペデスタル代替注水流量	— ^{*2}	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-38							
	ペデスタル代替注水流量 (狭帯域用)	— ^{*2}	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-39							
	残留熱代替除去系格納容器スプレイ流量	— ^{*2}	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-40							
	サブレーションポンプ水位	— ^{*2}	VI-2-6-5-41	—	—	—							
	ドライウエル水位	— ^{*2}	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-42							
	サブレーションポンプ水位 (S A)	— ^{*2}	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-43							
	S2 補 VI-2-6-1 R2												
	表 2-1 耐震評価条件一覧表(7/25)												
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			重大事故等対処設備								
		新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所							
計測装置 計測制御系統施設	格納容器酸素濃度 (S A)	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-33							
	格納容器水素濃度	S	VI-2-6-5-34	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-5-34							
	格納容器水素濃度 (S A)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-35							
	低圧原子炉代替注水槽水位	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-36							
	格納容器代替スプレイ流量	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-37							
	ペデスタル代替注水流量	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-38							
	ペデスタル代替注水流量 (狭帯域用)	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-39							
	残留熱代替除去系格納容器スプレイ流量	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-40							
	サブレーションポンプ水位	S	VI-2-6-5-41	—	—	—							
	ドライウエル水位	—	—	常設/緩和	—	VI-2-6-5-42							
	サブレーションポンプ水位 (S A)	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-6-5-43							
	記載の適正化												

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(8/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設 計測装置	—	—*2	—	—
	—	—*2	—	—
ベデスタル水位	—	—	常設/緩和	VI-2-6-5-44
原子炉建物水素濃度	—	—	常設/緩和	VI-2-6-5-45
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(8/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設 計測装置	—	—	—	—
	—	—	—	—
ベデスタル水位	—	—	常設/緩和	VI-2-6-5-44
原子炉建物水素濃度	—	—	常設/緩和	VI-2-6-5-45
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考					
S2 補 VI-2-6-1 R1									
表 2-1 耐震評価条件一覧表(12/25)									
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			耐震計算の記載箇所				
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	設計基準対象施設との評価条件の差異	重大事故等対処設備					
計測制御系統施設 工学的安全施設等の起動信号	—	—*2	—	—	—				
						原子炉圧力高	—	—	VI-2-6-5-54
						原子炉水位低(レベル1)	—	—	VI-2-6-5-18
						原子炉水位低(レベル2)	—	—	VI-2-6-5-18
S2 補 VI-2-6-1 R2									
表 2-1 耐震評価条件一覧表(12/25)									
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			耐震計算の記載箇所				
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	設計基準対象施設との評価条件の差異	重大事故等対処設備					
計測制御系統施設 工学的安全施設等の起動信号	—	—*2	—	—	—				
						原子炉圧力高	—	—	VI-2-6-5-54
						原子炉水位低(レベル1)	—	—	VI-2-6-5-18
						原子炉水位低(レベル2)	—	—	VI-2-6-5-18
記載の適正化									

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考	
S2 補 VI-2-6-1 R1					
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (13/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対象設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設 工学的安全施設等の起動信号 代替原子炉再循環ポンプ (代替原子炉再循環ポンプトリップ機能) A T W S 緩和設備	—	—*2	—	常設耐震/防止	—
	—	—*2	—	常設耐震/防止	—
	—	—*2	—	常設耐震/防止	—
原子炉圧力高					VI-2-6-5-54
原子炉水位低 (レベル2)					VI-2-6-5-18
原子炉水位低 (レベル1)					VI-2-6-5-18
S2 補 VI-2-6-1 R2					
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (13/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対象設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設 工学的安全施設等の起動信号 代替原子炉再循環ポンプ (代替原子炉再循環ポンプトリップ機能) A T W S 緩和設備	—	—	—	常設耐震/防止	—
	—	—	—	常設耐震/防止	—
	—	—	—	常設耐震/防止	—
原子炉圧力高					VI-2-6-5-54
原子炉水位低 (レベル2)					VI-2-6-5-18
原子炉水位低 (レベル1)					VI-2-6-5-18
記載の適正化					

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (14/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設 制御用空気設備 逃がし安全弁要素ガス供給系	—	—*2	—	—
	—	—*2	—	—
	C	—*2	—	—
	S	—*2	VI-2-6-6-1-1	有
	S	—*2	VI-2-6-6-1-1	—
	—	—*2	—	—
	—	—*2	—	—
逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ(原子炉冷却系統施設に記載)	—	—	常設耐震/防止	VI-2-5-3-1-1
原子炉格納容器配管貫通部(原子炉格納施設に記載)	—	—	常設耐震/防止	VI-2-9-2-10
主配管	—	—	常設耐震/防止	VI-2-6-6-1-1
主配管	—	—	常設耐震/防止	VI-2-6-6-1-1
主配管	—	—	—	—
主配管	—	—	常設耐震/防止	VI-2-6-6-1-1
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (14/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設 制御用空気設備 逃がし安全弁要素ガス供給系	—	—	—	—
	—	—	—	—
	C	—	—	—
	S	—*2	VI-2-6-6-1-1	有
	S	—*2	VI-2-6-6-1-1	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
逃がし安全弁逃がし弁機能用アキュムレータ(原子炉冷却系統施設に記載)	—	—	常設耐震/防止	VI-2-5-3-1-1
原子炉格納容器配管貫通部(原子炉格納施設に記載)	—	—	常設耐震/防止	VI-2-9-2-10
主配管	—	—	常設耐震/防止	VI-2-6-6-1-1
主配管	—	—	常設耐震/防止	VI-2-6-6-1-1
主配管	—	—	—	—
主配管	—	—	常設耐震/防止	VI-2-6-6-1-1
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (15/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉圧力容器温度 (SA)	—	—*2	—	—
スクラバ容器水位	—	—*2	—	—
スクラバ容器圧力	—	—*2	—	—
スクラバ容器温度	—	—*2	—	—
残留熱除去系熱交換器冷却水流量	S	—*2	VI-2-6-7-1-5	有
低圧原子炉代替注水ポンプ出口圧力	—	—*2	—	—
原子炉隔離時冷却ポンプ出口圧力	S	—*2	VI-2-6-7-1-7	有
高圧炉心スプレイポンプ出口圧力	S	—*2	VI-2-6-7-1-8	有
残留熱代替除去系ポンプ出口圧力	—	—*2	—	—
計測制御系統施設				
その他				
16				
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (15/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
原子炉圧力容器温度 (SA)	—	—	—	—
スクラバ容器水位	—	—	—	—
スクラバ容器圧力	—	—	—	—
スクラバ容器温度	—	—	—	—
残留熱除去系熱交換器冷却水流量	S	—*2	VI-2-6-7-1-5	有
低圧原子炉代替注水ポンプ出口圧力	—	—	—	—
原子炉隔離時冷却ポンプ出口圧力	S	—*2	VI-2-6-7-1-7	有
高圧炉心スプレイポンプ出口圧力	S	—*2	VI-2-6-7-1-8	有
残留熱代替除去系ポンプ出口圧力	—	—	—	—
計測制御系統施設				
その他				
16				
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (16/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	—	—*2	—	—
	—	—*2	—	—
	—	—*2	—	—
	S	—*2	VI-2-6-7-1-13	無
	S	—*2	VI-2-6-7-1-14	無
	—	—*2	—	—
	—	—*2	—	—
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (16/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	—	—	—	—
	—	—	—	—
	—	—	—	—
	S	—*2	VI-2-6-7-1-13	無
	S	—*2	VI-2-6-7-1-14	無
	—	—	—	—
	—	—	—	—
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考	
S2 補 VI-2-6-1 R1					
表 2-1 耐震評価条件一覧表(17/25)					
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			耐震計算の記載箇所
		新規基準施行前に認可された実績との差異	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	
換気設備	—	—*2	常設/その他	—	VI-2-6-7-1-16
待避室差圧計	—	—*2	常設/その他	—	VI-2-6-7-1-17
安全設備制御盤	S	有	常設/防止(D B 拡張)	無	VI-2-6-7-2-1
原子炉補機制御盤	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和 常設/防止 (D B 拡張)	無	VI-2-6-7-2-2
原子炉補機制御盤	S	—*2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-7-2-3
原子炉制御盤	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-4
所内電気盤	S	—*2	常設/防止 (D B 拡張)	無	VI-2-6-7-2-5
安全設備補助制御盤	S	—*2	常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-6
起動領域モニタ盤	S	—*2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-7-2-7
計測制御系統施設					
その他					
S2 補 VI-2-6-1 R2					
表 2-1 耐震評価条件一覧表(17/25)					
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			耐震計算の記載箇所
		新規基準施行前に認可された実績との差異	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	
換気設備	—	—	常設/その他	—	VI-2-6-7-1-16
待避室差圧計	—	—	常設/その他	—	VI-2-6-7-1-17
安全設備制御盤	S	有	常設/防止(D B 拡張)	無	VI-2-6-7-2-1
原子炉補機制御盤	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和 常設/防止 (D B 拡張)	無	VI-2-6-7-2-2
原子炉補機制御盤	S	—*2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-7-2-3
原子炉制御盤	S	—*2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-4
所内電気盤	S	—*2	常設/防止 (D B 拡張)	無	VI-2-6-7-2-5
安全設備補助制御盤	S	—*2	常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-6
起動領域モニタ盤	S	—*2	常設耐震/防止	無	VI-2-6-7-2-7
計測制御系統施設					
その他					
記載の適正化					

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (19/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	A1 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-18	—
	A2 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-19	—
	B1 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-20	—
	B2 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-21	—
	窒素ガス制御盤	有	VI-2-6-7-2-22	—
	燃料プール冷却制御盤	—*2	—	常設耐震/防止
	A-原子炉プロセス計測盤	—*2	VI-2-6-7-2-24	無
	B-原子炉プロセス計測盤	—*2	VI-2-6-7-2-25	無
	共通盤	—*2	VI-2-6-7-2-26	無
	A-自動減圧継電器盤	—*2	VI-2-6-7-2-27	無
	20			
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (19/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	A1 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-18	—
	A2 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-19	—
	B1 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-20	—
	B2 原子炉保護トリップ設定器盤	—*2	VI-2-6-7-2-21	—
	窒素ガス制御盤	有	VI-2-6-7-2-22	—
	燃料プール冷却制御盤	—	—	常設耐震/防止
	A-原子炉プロセス計測盤	—*2	VI-2-6-7-2-24	無
	B-原子炉プロセス計測盤	—*2	VI-2-6-7-2-25	無
	共通盤	—*2	VI-2-6-7-2-26	無
	A-自動減圧継電器盤	—*2	VI-2-6-7-2-27	無
	20			
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

		補正前				補正後				備考
S2 補 VI-2-6-1 R1		表 2-1 耐震評価条件一覧表 (20/25)								
		評価対象設備	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	重大事故等対処設備	耐震計算の記載箇所
	B-自動減圧継電器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-28	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-28		VI-2-6-7-2-28	
	A-SGT・FCS・MSLC 継電器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-29	常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-29		VI-2-6-7-2-29	
	B-SGT・FCS・MSLC 継電器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-30	常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-30		VI-2-6-7-2-30	
	A-格納容器 H2/02 濃度計盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-31	—	—	—		—	
	A-格納容器 H2/02 濃度計演算器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-32	—	—	—		—	
	B-格納容器 H2/02 濃度計盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-33	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-33		VI-2-6-7-2-33	
	B-格納容器 H2/02 濃度計演算器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-34	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-34		VI-2-6-7-2-34	
	AM設備制御盤	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	—		VI-2-6-7-2-35	
	工学的安全施設トリップ設定器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-36	常設耐震/防止	無	VI-2-6-7-2-36		VI-2-6-7-2-36	
	計測制御系統施設									
	その他									
	計測制御系統施設									
21										
S2 補 VI-2-6-1 R2		表 2-1 耐震評価条件一覧表 (20/25)								
		評価対象設備	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*1	設計基準対象施設との評価条件の差異	耐震計算の記載箇所	重大事故等対処設備	耐震計算の記載箇所
	B-自動減圧継電器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-28	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-28		VI-2-6-7-2-28	
	A-SGT・FCS・MSLC 継電器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-29	常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-29		VI-2-6-7-2-29	
	B-SGT・FCS・MSLC 継電器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-30	常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-30		VI-2-6-7-2-30	
	A-格納容器 H2/02 濃度計盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-31	—	—	—		—	
	A-格納容器 H2/02 濃度計演算器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-32	—	—	—		—	
	B-格納容器 H2/02 濃度計盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-33	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-33		VI-2-6-7-2-33	
	B-格納容器 H2/02 濃度計演算器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-34	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-6-7-2-34		VI-2-6-7-2-34	
	AM設備制御盤	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	—		VI-2-6-7-2-35	
	工学的安全施設トリップ設定器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-36	常設耐震/防止	無	VI-2-6-7-2-36		VI-2-6-7-2-36	
	計測制御系統施設									
	その他									
	計測制御系統施設									
21										
記載の適正化										

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (21/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	重大事故監視盤	—*2	—	—
	重大事故変換器盤	—*2	—	—
	燃料プール熱電対式水位計制御盤	—*2	—	—
	燃料プール水位計変換器盤	—*2	—	—
	原子炉建物水素濃度変換器盤	—*2	—	—
	A-SRM/I RM前置増幅器盤	—*2	VI-2-6-7-2-42	無
	B-SRM/I RM前置増幅器盤	—*2	VI-2-6-7-2-43	無
	C-SRM/I RM前置増幅器盤	—*2	VI-2-6-7-2-44	無
	その他			
	計測制御系統施設			
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (21/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認められた実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	重大事故監視盤	—	—	—
	重大事故変換器盤	—	—	—
	燃料プール熱電対式水位計制御盤	C	—	—
	燃料プール水位計変換器盤	—	—	—
	原子炉建物水素濃度変換器盤	—	—	—
	A-SRM/I RM前置増幅器盤	S	VI-2-6-7-2-42	無
	B-SRM/I RM前置増幅器盤	S	VI-2-6-7-2-43	無
	C-SRM/I RM前置増幅器盤	S	VI-2-6-7-2-44	無
	その他			
	計測制御系統施設			
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考	
S2 補 VI-2-6-1 R1					
表 2-1 耐震評価条件一覧表(22/25)					
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			耐震計算の記載箇所
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	設計基準対象施設	重大事故等対処設備	
D-S R M / I R M 前置増幅器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-45	常設耐震/防止	VI-2-6-7-2-45
再循環MG 閉閉器盤	C	—*2	—	常設耐震/防止	VI-2-6-7-2-46
中央制御室外原子炉停止制御盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-47	—	—
中央制御室外原子炉停止制御盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-48	—	—
格納容器水素/酸素計測装置制御盤	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-2-49
衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	C	—*2	—	常設/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-3-1-1
衛星電話設備収納盤(中央制御室)	C	—*2	—	常設/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-3-1-2
衛星電話設備用アテナ(中央制御室)	C	—*2	—	常設/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-3-1-3
計測制御系統施設					
その他					
S2 補 VI-2-6-1 R2					
表 2-1 耐震評価条件一覧表(22/25)					
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設			耐震計算の記載箇所
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	設計基準対象施設	重大事故等対処設備	
D-S R M / I R M 前置増幅器盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-45	常設耐震/防止	VI-2-6-7-2-45
再循環MG 閉閉器盤	C	—	—	常設耐震/防止	VI-2-6-7-2-46
中央制御室外原子炉停止制御盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-47	—	—
中央制御室外原子炉停止制御盤	S	—*2	VI-2-6-7-2-48	—	—
格納容器水素/酸素計測装置制御盤	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-2-49
衛星電話設備(固定型)(中央制御室)	C	—	—	常設/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-3-1-1
衛星電話設備収納盤(中央制御室)	C	—	—	常設/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-3-1-2
衛星電話設備用アテナ(中央制御室)	C	—	—	常設/防止 常設/緩和	VI-2-6-7-3-1-3
計測制御系統施設					
その他					
記載の適正化					

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考	
S2 補 VI-2-6-1 R1					
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (23/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	衛星電話設備 (固定型) (緊急時対策所)	— ^{*1}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	緊急時対策所 衛星電話設備用ラック	— ^{*1}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	衛星電話設備用アンテナ (緊急時対策所)	— ^{*1}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備 (固定型) (中央制御室)	— ^{*1}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備収納盤 (中央制御室)	— ^{*1}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備用アンテナ (中央制御室)	— ^{*1}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備 (固定型) (緊急時対策所)	— ^{*2}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	緊急時対策所 無線通信設備用ラック	— ^{*2}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備用アンテナ (緊急時対策所)	— ^{*2}	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備用アンテナ (緊急時対策所)	— ^{*2}	—	常設/防止 常設/緩和	—
S2 補 VI-2-6-1 R2					
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (23/25)					
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設備分類*	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	衛星電話設備 (固定型) (緊急時対策所)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	緊急時対策所 衛星電話設備用ラック	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	衛星電話設備用アンテナ (緊急時対策所)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備 (固定型) (中央制御室)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備収納盤 (中央制御室)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備用アンテナ (中央制御室)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備 (固定型) (緊急時対策所)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	緊急時対策所 無線通信設備用ラック	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備用アンテナ (緊急時対策所)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
	無線通信設備用アンテナ (緊急時対策所)	—	—	常設/防止 常設/緩和	—
記載の適正化					

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (24/25)				
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		耐震計算の記載箇所
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	重大事故等対処設備	
統合原子力防災NW盤	C	— ^{*2}	設備分類*1 常設/その他	耐震計算の記載箇所 VI-2-6-7-3-3-1
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (I P - 電話機)	C	— ^{*2}	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-2
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (I P - F A X)	C	— ^{*2}	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-3
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (テレビ会議システム)	C	— ^{*2}	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-4
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備のうち統合原子力防災NW用屋外アンテナ	C	— ^{*2}	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-5
S P D S 伝送盤	C	— ^{*2}	常設/緩和	VI-2-6-7-3-4-1
計測制御系統施設				
S2 補 VI-2-6-1 R2				
表 2-1 耐震評価条件一覧表 (24/25)				
評価対象設備	耐震重要度分類	設計基準対象施設		耐震計算の記載箇所
		新規制基準施行前に認められた実績との差異	重大事故等対処設備	
統合原子力防災NW盤	C	—	設備分類*1 常設/その他	耐震計算の記載箇所 VI-2-6-7-3-3-1
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (I P - 電話機)	C	—	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-2
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (I P - F A X)	C	—	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-3
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (テレビ会議システム)	C	—	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-4
統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備のうち統合原子力防災NW用屋外アンテナ	C	—	常設/その他	VI-2-6-7-3-3-5
S P D S 伝送盤	C	—	常設/緩和	VI-2-6-7-3-4-1
計測制御系統施設				
記載の適正化				

【VI-2-6-1 計測制御系統施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-1 R1E				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(25/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対象設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	1・2号SPDS伝送用ゲートウェイ盤・データ収集盤	— ^{*2}	—	—
	2号SPDS伝送用インバータ盤	— ^{*2}	—	—
その他	1・2号SPDS伝送用アンテナ用中継盤	— ^{*2}	—	—
	発信用アンテナ(1・2号)	— ^{*2}	—	—
	受信用アンテナ(1・2号)	— ^{*2}	—	—
	SPDSデータ表示装置(緊急時対策所)	— ^{*2}	—	—
注記*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備, 「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備, 「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備, 「常設/防止(DB拡張)」は常設耐震重要重大事故防止設備(設計基準拡張), 「常設/その他」は常設重大事故防止設備及び常設重大事故緩和設備以外の常設重大事故等対象設備を示す。 *2: 本工事計画で新規に申請する設備であることから, 差異比較の対象外				
S2 補 VI-2-6-1 R2E				
表 2-1 耐震評価条件一覧表(25/25)				
評価対象設備	設計基準対象施設		重大事故等対象設備	
	耐震重要度分類	新規制基準施行前に認可された実績との差異	耐震計算の記載箇所	設計基準対象施設との評価条件の差異
計測制御系統施設	1・2号SPDS伝送用ゲートウェイ盤・データ収集盤	—	—	—
	2号SPDS伝送用インバータ盤	—	—	—
その他	1・2号SPDS伝送用アンテナ用中継盤	—	—	—
	発信用アンテナ(1・2号)	—	—	—
	受信用アンテナ(1・2号)	—	—	—
	SPDSデータ表示装置(緊急時対策所)	—	—	—
注記*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備, 「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備, 「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備, 「常設/防止(DB拡張)」は常設耐震重要重大事故防止設備(設計基準拡張), 「常設/その他」は常設重大事故防止設備及び常設重大事故緩和設備以外の常設重大事故等対象設備を示す。 *2: 本工事計画で新規に申請する設備であることから, 差異比較の対象外				
記載の適正化				

【VI-2-6-5-1 中性子源領域計装/中間領域計装の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-5-1 R1</p> <p>4. 固有周期</p> <p>4.1 固有値解析方法 中性子源領域計装/中間領域計装の固有値解析方法を以下に示す。</p> <p>(1) 中性子源領域計装/中間領域計装は、「4.2 解析モデル及び諸元」に示す三次元はりモデルとして考える。</p> <p>4.2 解析モデル及び諸元 中性子源領域計装/中間領域計装の解析モデルを図 4-1 に、解析モデルの概要を以下に示す。また、機器の諸元を本計算書の【中性子源領域計装/中間領域計装の耐震性についての計算結果】のその他の機器要目に示す。</p> <p>(1) 強度上重要で、耐震上の条件が最も厳しくなる炉心支持板と上部格子板間の中性子源領域計装/中間領域計装ドライチューブを三次元はりモデルとしてモデル化する。</p> <p>(2) [Redacted]</p> <p>(3) [Redacted]</p> <p>(4) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>(5) 計算機コードは、「MSC NASTRAN」を使用し、固有値を求める。 なお、評価に用いる解析コードの検証及び妥当性評価等の概要については、VI-5「計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p style="text-align: center;">9</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-5-1 R2</p> <p>4. 固有周期</p> <p>4.1 固有値解析方法 中性子源領域計装/中間領域計装の固有値解析方法を以下に示す。</p> <p>(1) 中性子源領域計装/中間領域計装は、「4.2 解析モデル及び諸元」に示す三次元はりモデルとして考える。</p> <p>4.2 解析モデル及び諸元 中性子源領域計装/中間領域計装の解析モデルを図 4-1 に、解析モデルの概要を以下に示す。また、機器の諸元を本計算書の【中性子源領域計装/中間領域計装の耐震性についての計算結果】のその他の機器要目に示す。</p> <p>(1) 強度上重要で、耐震上の条件が最も厳しくなる炉心支持板と上部格子板間の中性子源領域計装/中間領域計装ドライチューブを三次元はりモデルとしてモデル化する。</p> <p>(2) [Redacted]</p> <p>(3) [Redacted]</p> <p>(4) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>(5) 解析コードは、「MSC NASTRAN」を使用し、固有値を求める。 なお、評価に用いる解析コードの検証及び妥当性評価等の概要については、VI-5「計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p style="text-align: center;">9</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-6-5-1 中性子源領域計装/中間領域計装の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																		
<p>4.3 固有値解析結果</p> <p>固有値解析結果を表4-1に、振動モード図を図4-2に示す。 また、鉛直方向の固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。 なお、各次数の振動モード図(刺激関数モード)は、各節点において、各次数の刺激係数の絶対値に振動モードを乗じて求めた刺激関数を、最大の刺激関数(1次)で正規化したものである。</p> <p style="text-align: center;">表4-1 固有値解析結果</p> <table border="1" data-bbox="549 709 1187 856"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード*1</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">刺激係数*2</th> </tr> <tr> <th>水平方向*3</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>水平</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>水平</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 固有周期が0.050s以上のモードを示す。 *2: 固有値解析より得られる各次数の刺激係数の絶対値に振動モードの最大値を乗じて求めた刺激関数を示す。 *3: X方向とZ方向は同一である。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 180px; height: 250px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図4-2 振動モード図(刺激関数モード)</p> <p style="text-align: center;">11</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -100px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">S2 補 VI-2-6-5-1 R1</p>	モード*1	卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2		水平方向*3	鉛直方向	1次	水平			—	2次	水平			—	<p>4.3 固有値解析結果</p> <p>固有値解析結果を表4-1に、振動モード図を図4-2に示す。 水平方向の固有周期は0.05秒を超えており、柔構造であることを確認した。また、鉛直方向の固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。 なお、各次数の振動モード図(刺激関数モード)は、各節点において、各次数の刺激係数の絶対値に振動モードを乗じて求めた刺激関数を、最大の刺激関数(1次)で正規化したものである。</p> <p style="text-align: center;">表4-1 固有値解析結果</p> <table border="1" data-bbox="1751 745 2389 892"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード*1</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">刺激係数*2</th> </tr> <tr> <th>水平方向*3</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>水平</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>水平</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: 固有周期が0.050s以上のモードを示す。 *2: 固有値解析より得られる各次数の刺激係数の絶対値に振動モードの最大値を乗じて求めた刺激関数を示す。 *3: X方向とZ方向は同一である。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 180px; height: 250px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図4-2 振動モード図(刺激関数モード)</p> <p style="text-align: center;">11</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -100px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">S2 補 VI-2-6-5-1 R2</p>	モード*1	卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2		水平方向*3	鉛直方向	1次	水平			—	2次	水平			—	<p>記載の適正化</p>
モード*1				卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2																														
	水平方向*3	鉛直方向																																		
1次	水平			—																																
2次	水平			—																																
モード*1	卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2																																	
			水平方向*3	鉛直方向																																
1次	水平			—																																
2次	水平			—																																

【VI-2-6-5-2 出力領域計装の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -100px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">S2 補 VI-2-6-5-2 R1</p> <p>4. 固有周期</p> <p>4.1 固有値解析方法 出力領域計装の固有値解析方法を以下に示す。</p> <p>(1) 出力領域計装は、「4.2 解析モデル及び諸元」に示す三次元はりモデルとして考える。</p> <p>4.2 解析モデル及び諸元 出力領域計装の解析モデルを図4-1に、解析モデルの概要を以下に示す。また、機器の諸元を本計算書の【出力領域計装の耐震性についての計算結果】のその他の機器要目に示す。</p> <p>(1) 強度上重要で、耐震上の条件が最も厳しくなる炉心支持板と上部格子板間の検出器を三次元はりモデルとしてモデル化する。</p> <p>(2) [Redacted]</p> <p>(3) [Redacted]</p> <p>(4) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>(5) 計算機コードは、「SIMCENTER NASTRAN」を使用し、固有値を求める。</p> <p>なお、評価に用いる解析コードの検証及び妥当性評価等の概要については、VI-5「計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p style="text-align: center;">9</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -100px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">S2 補 VI-2-6-5-2 R2</p> <p>4. 固有周期</p> <p>4.1 固有値解析方法 出力領域計装の固有値解析方法を以下に示す。</p> <p>(1) 出力領域計装は、「4.2 解析モデル及び諸元」に示す三次元はりモデルとして考える。</p> <p>4.2 解析モデル及び諸元 出力領域計装の解析モデルを図4-1に、解析モデルの概要を以下に示す。また、機器の諸元を本計算書の【出力領域計装の耐震性についての計算結果】のその他の機器要目に示す。</p> <p>(1) 強度上重要で、耐震上の条件が最も厳しくなる炉心支持板と上部格子板間の検出器を三次元はりモデルとしてモデル化する。</p> <p>(2) [Redacted]</p> <p>(3) [Redacted]</p> <p>(4) 耐震計算に用いる寸法は、公称値を使用する。</p> <p>(5) 解析コードは、「Simcenter Nastran」を使用し、固有値を求める。</p> <p>なお、評価に用いる解析コードの検証及び妥当性評価等の概要については、VI-5「計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p style="text-align: center;">9</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-6-5-2 出力領域計装の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																								
<p>4.3 固有値解析結果</p> <p>固有値解析結果を表4-1に、振動モード図を図4-2に示す。 また、鉛直方向の固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。 なお、各次数の振動モード図（刺激関数モード）は、各節点において、各次数の刺激係数の絶対値に振動モードを乗じて求めた刺激関数を、最大の刺激関数（1次）で正規化したものである。</p> <p style="text-align: center;">表4-1 固有値解析結果</p> <table border="1" data-bbox="552 716 1181 892"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード*1</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">刺激係数*2</th> </tr> <tr> <th>水平方向*3</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>水平</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;"></td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>水平</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td>水平</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：固有周期が0.05s以上のモードを示す。 *2：固有値解析より得られる各次数の刺激係数の絶対値に振動モードの最大値を乗じて求めた刺激関数を示す。 *3：X方向とZ方向は同一である。</p> <div data-bbox="463 1026 1255 1598" style="border: 1px solid black; height: 272px; width: 267px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図4-2 振動モード図（刺激関数モード）</p> <p style="text-align: center;">11</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 115px; top: 475px;">S2補 VI-2-6-5-2 R1</p>	モード*1	卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2		水平方向*3	鉛直方向	1次	水平			—	2次	水平		—	3次	水平		—	<p>4.3 固有値解析結果</p> <p>固有値解析結果を表4-1に、振動モード図を図4-2に示す。 水平方向の固有周期は0.05秒を超えており、柔構造であることを確認した。また、鉛直方向の固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。 なお、各次数の振動モード図（刺激関数モード）は、各節点において、各次数の刺激係数の絶対値に振動モードを乗じて求めた刺激関数を、最大の刺激関数（1次）で正規化したものである。</p> <p style="text-align: center;">表4-1 固有値解析結果</p> <table border="1" data-bbox="1754 747 2383 924"> <thead> <tr> <th rowspan="2">モード*1</th> <th rowspan="2">卓越方向</th> <th rowspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">刺激係数*2</th> </tr> <tr> <th>水平方向*3</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1次</td> <td>水平</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;"></td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>2次</td> <td>水平</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>3次</td> <td>水平</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：固有周期が0.05s以上のモードを示す。 *2：固有値解析より得られる各次数の刺激係数の絶対値に振動モードの最大値を乗じて求めた刺激関数を示す。 *3：X方向とZ方向は同一である。</p> <div data-bbox="1668 1058 2451 1623" style="border: 1px solid black; height: 269px; width: 264px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">図4-2 振動モード図（刺激関数モード）</p> <p style="text-align: center;">11</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 522px; top: 475px;">S2補 VI-2-6-5-2 R2</p>	モード*1	卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2		水平方向*3	鉛直方向	1次	水平			—	2次	水平		—	3次	水平		—	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
モード*1				卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2																																				
	水平方向*3	鉛直方向																																								
1次	水平			—																																						
2次	水平			—																																						
3次	水平			—																																						
モード*1	卓越方向	固有周期(s)	刺激係数*2																																							
			水平方向*3	鉛直方向																																						
1次	水平			—																																						
2次	水平			—																																						
3次	水平			—																																						

【VI-2-6-7-2-40 燃料プール水位計変換器盤の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">12</p> <p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-2-40 R1E</p>	<p style="text-align: center;">12</p> <p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-2-40 R2E</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-6-7-2-49 格納容器水素／酸素計測装置制御盤の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考										
<p>3. 固有周期</p> <p>3.1 固有周期の確認</p> <p>格納容器水素／酸素計測装置制御盤の固有周期は、正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-1 固有周期 (単位：s)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">格納容器水素／ 酸素計測装置制御盤 (2-1240)</td> <td style="text-align: center;">水平</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鉛直</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: left;">S2 補 VI-2-6-7-2-49 R1</p>	格納容器水素／ 酸素計測装置制御盤 (2-1240)	水平	□	鉛直	□	<p>3. 固有周期</p> <p>3.1 固有周期の確認</p> <p>格納容器水素／酸素計測装置制御盤の固有周期は、正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-1 固有周期 (単位：s)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">格納容器水素／ 酸素計測装置制御盤 (2-1240)</td> <td style="text-align: center;">水平</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">鉛直</td> <td style="text-align: center;"><u>0.05以下</u></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: left;">S2 補 VI-2-6-7-2-49 R2</p>	格納容器水素／ 酸素計測装置制御盤 (2-1240)	水平	□	鉛直	<u>0.05以下</u>	<p>記載の適正化</p>
格納容器水素／ 酸素計測装置制御盤 (2-1240)		水平	□									
	鉛直	□										
格納容器水素／ 酸素計測装置制御盤 (2-1240)	水平	□										
	鉛直	<u>0.05以下</u>										

【VI-2-6-7-2-49 格納容器水素/酸素計測装置制御盤の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																													
S2 補 VI-2-6-7-2-49 R1																																															
【格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240) の耐震性についての計算結果】																																															
1. 重大事故等対処設備																																															
1.1 設計条件																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240)</td> <td>常設耐震/防犯常設/緩和</td> <td>原子炉建物 EL.30.5*1</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>C_H=2.80*2</td> <td>C_V=2.31*2</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240)	常設耐震/防犯常設/緩和	原子炉建物 EL.30.5*1	□	□	—	—	C _H =2.80*2	C _V =2.31*2	40																					
機器名称				設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																		
	水平方向	鉛直方向	水平方向			鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																							
格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240)	常設耐震/防犯常設/緩和	原子炉建物 EL.30.5*1	□	□	—	—	C _H =2.80*2	C _V =2.31*2	40																																						
注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S _s) を上回る設計震度																																															
1.2 機器要目																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m_i (kg)</th> <th>h_i (mm)</th> <th>d_i (mm)</th> <th>A_{b i} (mm²)</th> <th>n_i</th> <th>S_{y i} (MPa)</th> <th>S_{u i} (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td>1089</td> <td>16 (M16)</td> <td>201.1</td> <td>4</td> <td>215 (40mm<径≤100mm)</td> <td>400 (40mm<径≤100mm)</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td>889</td> <td>24 (M24)</td> <td>452.4</td> <td>4</td> <td>205</td> <td>520</td> </tr> </tbody> </table>	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	基礎ボルト (i=1)	□	1089	16 (M16)	201.1	4	215 (40mm<径≤100mm)	400 (40mm<径≤100mm)	取付ボルト (i=2)	□	889	24 (M24)	452.4	4	205	520																							
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)																																								
基礎ボルト (i=1)	□	1089	16 (M16)	201.1	4	215 (40mm<径≤100mm)	400 (40mm<径≤100mm)																																								
取付ボルト (i=2)	□	889	24 (M24)	452.4	4	205	520																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ_{z i}* (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ_{z i}* (mm)</th> <th rowspan="2">n_{f i}*</th> <th rowspan="2">F_i (MPa)</th> <th rowspan="2">F_i* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">基礎ボルト (i=1)</td> <td>269</td> <td>331</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>258</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td>636</td> <td>638</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付ボルト (i=2)</td> <td>249</td> <td>311</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>246</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td>666</td> <td>668</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> </tbody> </table>	部材	ℓ _{z i} * (mm)	ℓ _{z i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	269	331	2	—	258	—	短辺方向	636	638	2	—	—	—	短辺方向	取付ボルト (i=2)	249	311	2	—	246	—	短辺方向	666	668	2	—	—	—	短辺方向							
部材							ℓ _{z i} * (mm)	ℓ _{z i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)		F _i * (MPa)	転倒方向																																		
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																													
基礎ボルト (i=1)	269	331	2	—	258	—	短辺方向																																								
	636	638	2	—	—	—	短辺方向																																								
取付ボルト (i=2)	249	311	2	—	246	—	短辺方向																																								
	666	668	2	—	—	—	短辺方向																																								
注記*: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。																																															
S2 補 VI-2-6-7-2-49 R2																																															
【格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240) の耐震性についての計算結果】																																															
1. 重大事故等対処設備																																															
1.1 設計条件																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th rowspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期 (s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240)</td> <td>常設耐震/防犯常設/緩和</td> <td>原子炉建物 EL.30.5*1</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">0.05以下</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>C_H=2.80*2</td> <td>C_V=2.31*2</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240)	常設耐震/防犯常設/緩和	原子炉建物 EL.30.5*1	□	0.05以下	—	—	C _H =2.80*2	C _V =2.31*2	40																					
機器名称				設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度			基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																		
	水平方向	鉛直方向	水平方向			鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																							
格納容器水素/酸素計測装置制御盤 (2-1240)	常設耐震/防犯常設/緩和	原子炉建物 EL.30.5*1	□	0.05以下	—	—	C _H =2.80*2	C _V =2.31*2	40																																						
注記*1: 基準床レベルを示す。 *2: 設計用震度 II (基準地震動 S _s) を上回る設計震度																																															
1.2 機器要目																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>m_i (kg)</th> <th>h_i (mm)</th> <th>d_i (mm)</th> <th>A_{b i} (mm²)</th> <th>n_i</th> <th>S_{y i} (MPa)</th> <th>S_{u i} (MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td>1089</td> <td>16 (M16)</td> <td>201.1</td> <td>4</td> <td>215 (40mm<径≤100mm)</td> <td>400 (40mm<径≤100mm)</td> </tr> <tr> <td>取付ボルト (i=2)</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td>889</td> <td>24 (M24)</td> <td>452.4</td> <td>4</td> <td>205</td> <td>520</td> </tr> </tbody> </table>	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	基礎ボルト (i=1)	□	1089	16 (M16)	201.1	4	215 (40mm<径≤100mm)	400 (40mm<径≤100mm)	取付ボルト (i=2)	□	889	24 (M24)	452.4	4	205	520																							
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)																																								
基礎ボルト (i=1)	□	1089	16 (M16)	201.1	4	215 (40mm<径≤100mm)	400 (40mm<径≤100mm)																																								
取付ボルト (i=2)	□	889	24 (M24)	452.4	4	205	520																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ_{z i}* (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ_{z i}* (mm)</th> <th rowspan="2">n_{f i}*</th> <th rowspan="2">F_i (MPa)</th> <th rowspan="2">F_i* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">基礎ボルト (i=1)</td> <td>269</td> <td>331</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>258</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td>636</td> <td>638</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付ボルト (i=2)</td> <td>249</td> <td>311</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>246</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> <tr> <td>666</td> <td>668</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>短辺方向</td> </tr> </tbody> </table>	部材	ℓ _{z i} * (mm)	ℓ _{z i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	269	331	2	—	258	—	短辺方向	636	638	2	—	—	—	短辺方向	取付ボルト (i=2)	249	311	2	—	246	—	短辺方向	666	668	2	—	—	—	短辺方向							
部材							ℓ _{z i} * (mm)	ℓ _{z i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)		F _i * (MPa)	転倒方向																																		
	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																													
基礎ボルト (i=1)	269	331	2	—	258	—	短辺方向																																								
	636	638	2	—	—	—	短辺方向																																								
取付ボルト (i=2)	249	311	2	—	246	—	短辺方向																																								
	666	668	2	—	—	—	短辺方向																																								
注記*: 各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。																																															
記載の適正化																																															

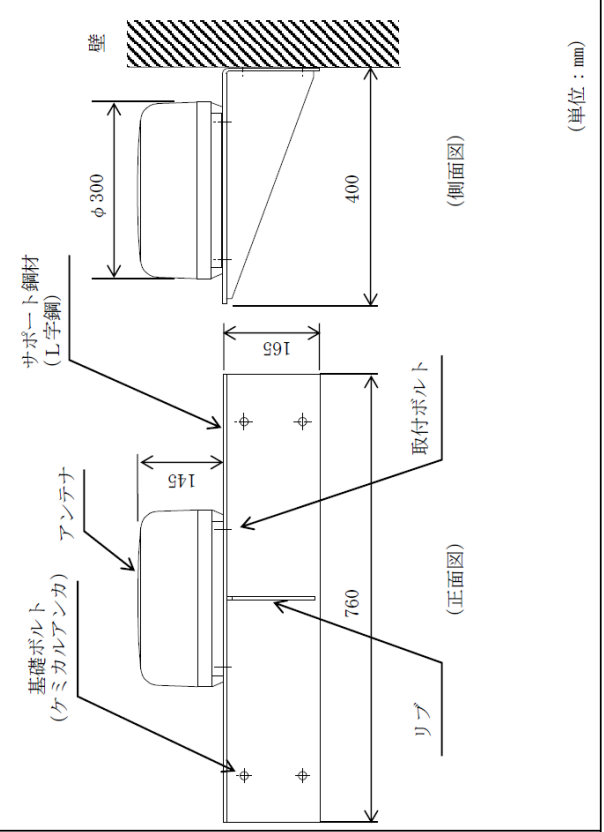
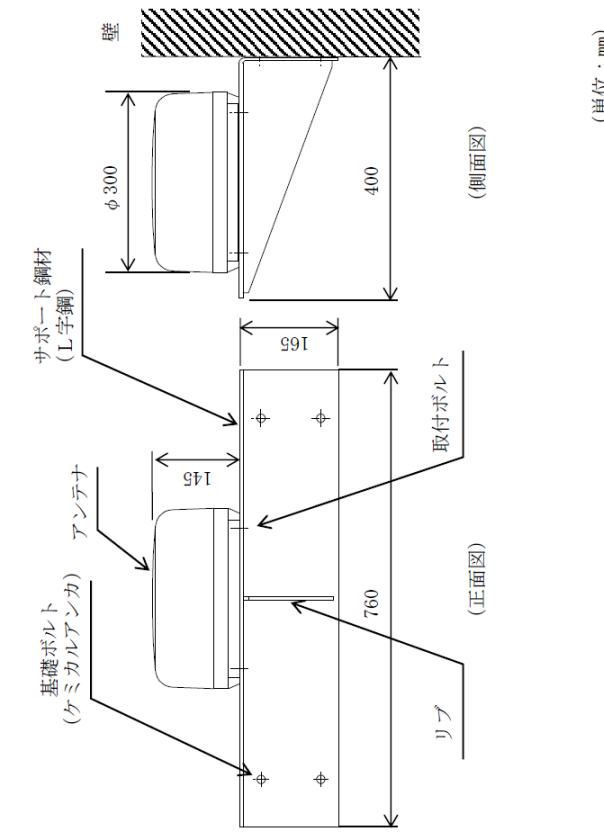
【VI-2-6-7-3-1-1 衛星電話設備（固定型）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考										
<p>3. 固有周期</p> <p>3.1 固有周期の確認</p> <p>衛星電話設備（固定型）（中央制御室）の固有周期は、正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-1 固有周期 (単位:s)</p> <table border="1" data-bbox="543 722 1190 816"> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備（固定型） （中央制御室）</td> <td>水平</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td style="text-align: center;">□</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 115px; top: 460px;">S2補 VI-2-6-7-3-1-1 R1</p>	衛星電話設備（固定型） （中央制御室）	水平	□	鉛直	□	<p>3. 固有周期</p> <p>3.1 固有周期の確認</p> <p>衛星電話設備（固定型）（中央制御室）の固有周期は、正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-1 固有周期 (単位:s)</p> <table border="1" data-bbox="1748 722 2389 816"> <tr> <td rowspan="2">衛星電話設備（固定型） （中央制御室）</td> <td>水平</td> <td style="text-align: center;"><u>0.05以下</u></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td style="text-align: center;"><u>0.05以下</u></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 525px; top: 460px;">S2補 VI-2-6-7-3-1-1 R2</p>	衛星電話設備（固定型） （中央制御室）	水平	<u>0.05以下</u>	鉛直	<u>0.05以下</u>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
衛星電話設備（固定型） （中央制御室）		水平	□									
	鉛直	□										
衛星電話設備（固定型） （中央制御室）	水平	<u>0.05以下</u>										
	鉛直	<u>0.05以下</u>										

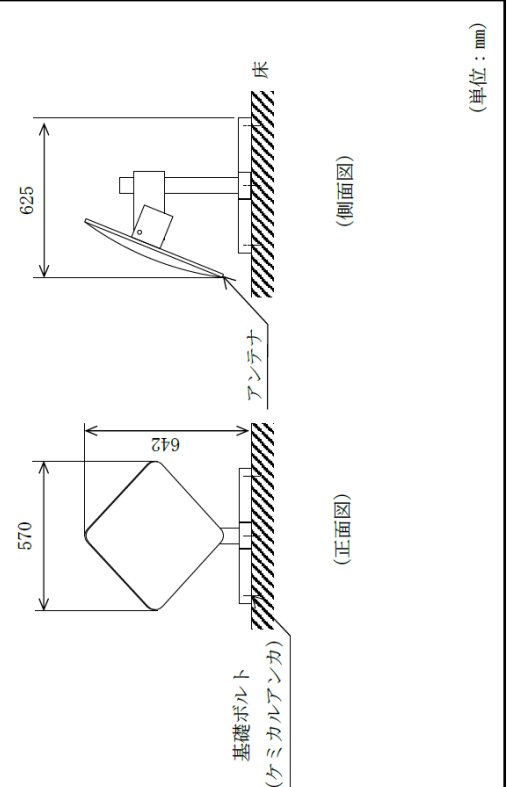
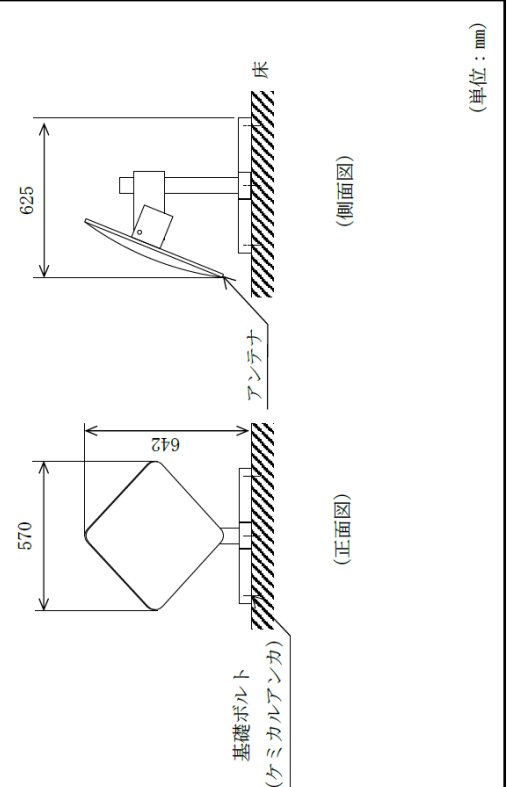
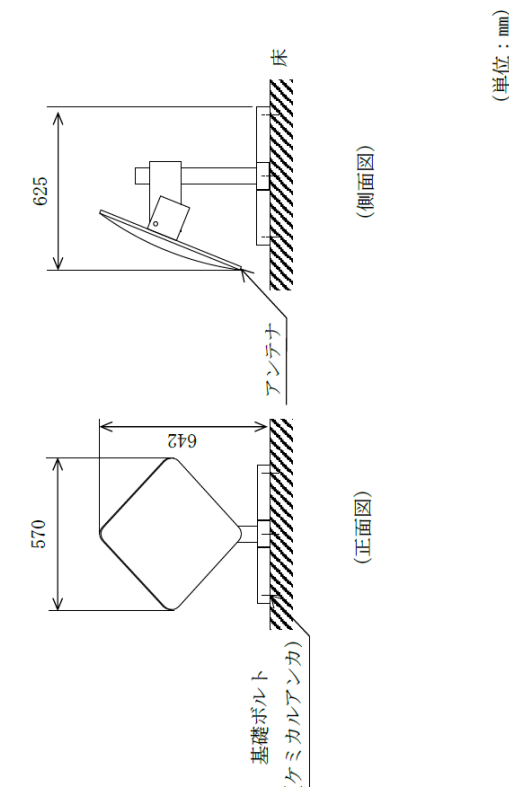
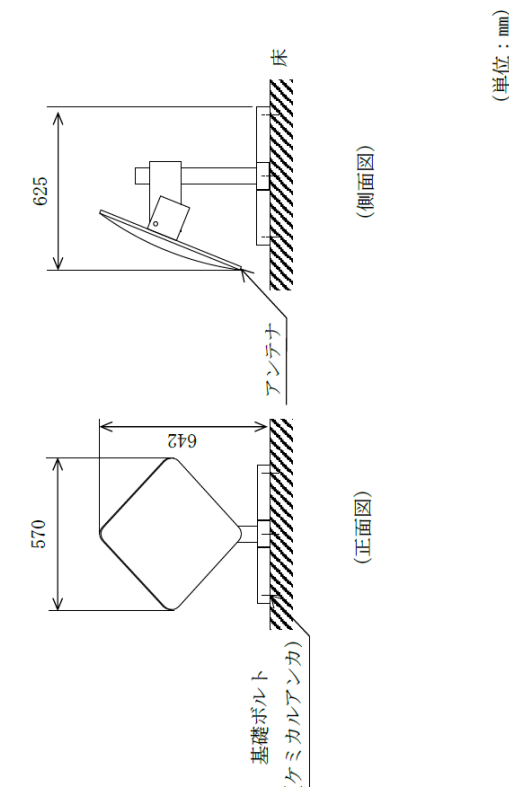
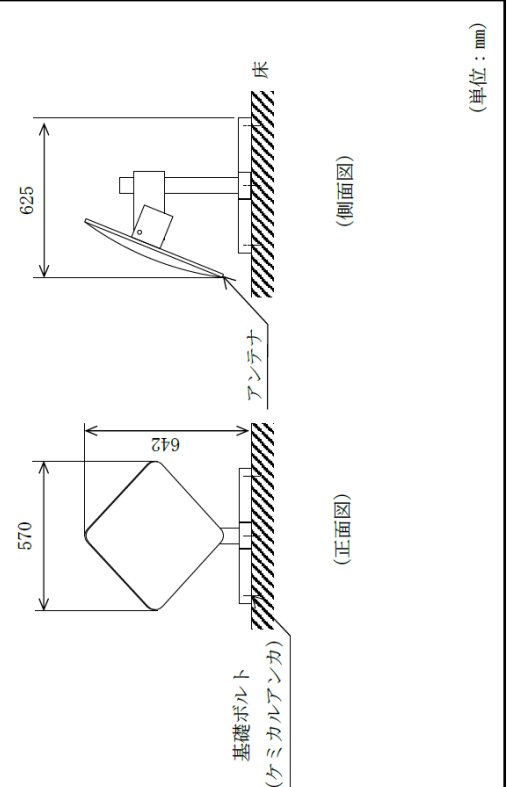
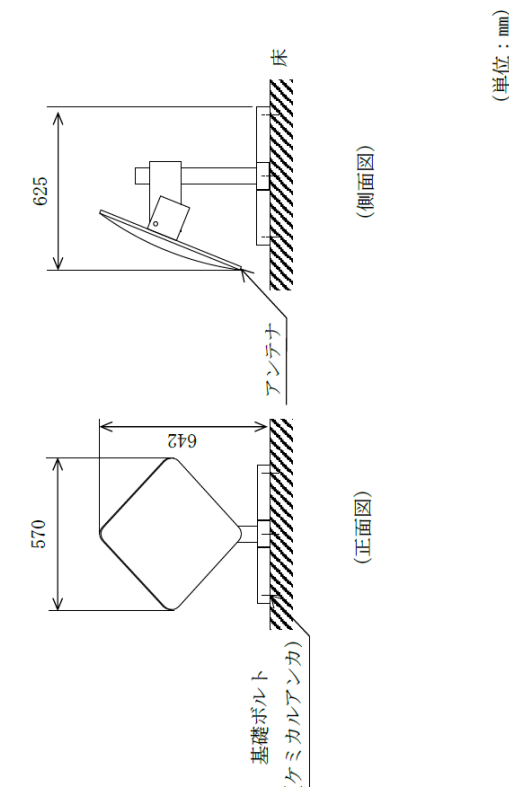
【VI-2-6-7-3-1-1 衛星電話設備（固定型）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																																																																																										
<p style="text-align: center;">S2補 VI-2-6-7-3-1-1 R1</p> <p style="text-align: center;">【衛星電話設備（固定型）（中央制御室）の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 重大事故等対処設備</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th colspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>衛星電話設備（固定型） （中央制御室）</td> <td>常設/防 常設/緩和</td> <td>EL 16.9*1</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>C_H=3.41*2</td> <td>C_V=1.58*2</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：基準レベルを示す。 *2：設計用震度Ⅱ（基準地震動 S_s）</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">m_i (kg)</th> <th rowspan="2">h_i (mm)</th> <th rowspan="2">d_i (mm)</th> <th rowspan="2">A_{b i} (mm²)</th> <th rowspan="2">n_i</th> <th rowspan="2">S_{y i} (MPa)</th> <th rowspan="2">S_{u i} (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td>□</td> <td>358</td> <td>10 (M10)</td> <td>78.54</td> <td>6</td> <td>200</td> <td>500</td> <td>—</td> <td>長辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ_{1 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ_{2 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">n_{f i}*</th> <th rowspan="2">F_i (MPa)</th> <th rowspan="2">F_i* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">基礎ボルト (i=1)</td> <td>222</td> <td>226</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>240</td> <td>—</td> <td>長辺方向</td> </tr> <tr> <td>205</td> <td>295</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>長辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	衛星電話設備（固定型） （中央制御室）	常設/防 常設/緩和	EL 16.9*1	□	□	□	—	—	C _H =3.41*2	C _V =1.58*2	40	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	□	358	10 (M10)	78.54	6	200	500	—	長辺方向	部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	222	226	3	—	240	—	長辺方向	205	295	2	—	—	—	長辺方向	<p style="text-align: center;">S2補 VI-2-6-7-3-1-1 R2</p> <p style="text-align: center;">【衛星電話設備（固定型）（中央制御室）の耐震性についての計算結果】</p> <p>1. 重大事故等対処設備</p> <p>1.1 設計条件</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">設備分類</th> <th colspan="2">据付場所及び床面高さ (m)</th> <th colspan="2">固有周期(s)</th> <th colspan="2">弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th colspan="2">基準地震動 S_s</th> <th rowspan="2">周囲環境温度 (°C)</th> </tr> <tr> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> <th>水平方向</th> <th>鉛直方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>衛星電話設備（固定型） （中央制御室）</td> <td>常設/防 常設/緩和</td> <td>EL 16.9*1</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>□</td> <td>0.05以下</td> <td>0.05以下</td> <td>C_H=3.41*2</td> <td>C_V=1.58*2</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：基準レベルを示す。 *2：設計用震度Ⅱ（基準地震動 S_s）</p> <p>1.2 機器要目</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">m_i (kg)</th> <th rowspan="2">h_i (mm)</th> <th rowspan="2">d_i (mm)</th> <th rowspan="2">A_{b i} (mm²)</th> <th rowspan="2">n_i</th> <th rowspan="2">S_{y i} (MPa)</th> <th rowspan="2">S_{u i} (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎ボルト (i=1)</td> <td>□</td> <td>358</td> <td>10 (M10)</td> <td>78.54</td> <td>6</td> <td>200</td> <td>500</td> <td>—</td> <td>長辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">部材</th> <th rowspan="2">ℓ_{1 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">ℓ_{2 i}* (mm)</th> <th rowspan="2">n_{f i}*</th> <th rowspan="2">F_i (MPa)</th> <th rowspan="2">F_i* (MPa)</th> <th colspan="2">転倒方向</th> </tr> <tr> <th>弾性設計用地震動 S_d又は静的震度</th> <th>基準地震動 S_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">基礎ボルト (i=1)</td> <td>222</td> <td>226</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>240</td> <td>—</td> <td>長辺方向</td> </tr> <tr> <td>205</td> <td>295</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>長辺方向</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。</p>	機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	衛星電話設備（固定型） （中央制御室）	常設/防 常設/緩和	EL 16.9*1	□	□	□	0.05以下	0.05以下	C _H =3.41*2	C _V =1.58*2	40	部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	□	358	10 (M10)	78.54	6	200	500	—	長辺方向	部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s	基礎ボルト (i=1)	222	226	3	—	240	—	長辺方向	205	295	2	—	—	—	長辺方向	<p>記載の適正化</p>
機器名称			設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																																
	水平方向	鉛直方向		水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																			
衛星電話設備（固定型） （中央制御室）	常設/防 常設/緩和	EL 16.9*1	□	□	□	—	—	C _H =3.41*2	C _V =1.58*2	40																																																																																																																																																		
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																				
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	□	358	10 (M10)	78.54	6	200	500	—	長辺方向																																																																																																																																																			
部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																						
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																					
基礎ボルト (i=1)	222	226	3	—	240	—	長辺方向																																																																																																																																																					
	205	295	2	—	—	—	長辺方向																																																																																																																																																					
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)		固有周期(s)		弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度		基準地震動 S _s		周囲環境温度 (°C)																																																																																																																																																		
		水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向	水平方向	鉛直方向																																																																																																																																																			
衛星電話設備（固定型） （中央制御室）	常設/防 常設/緩和	EL 16.9*1	□	□	□	0.05以下	0.05以下	C _H =3.41*2	C _V =1.58*2	40																																																																																																																																																		
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	d _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	n _i	S _{y i} (MPa)	S _{u i} (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																				
								弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																			
基礎ボルト (i=1)	□	358	10 (M10)	78.54	6	200	500	—	長辺方向																																																																																																																																																			
部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)	F _i * (MPa)	転倒方向																																																																																																																																																						
						弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度	基準地震動 S _s																																																																																																																																																					
基礎ボルト (i=1)	222	226	3	—	240	—	長辺方向																																																																																																																																																					
	205	295	2	—	—	—	長辺方向																																																																																																																																																					

【VI-2-6-7-3-1-3 衛星電話設備用アンテナ（中央制御室）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-1-3 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">計画の概要</td> <td style="width: 70%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基礎・支持構造</td> <td style="text-align: center;">主体構造</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備用アンテナ（中央制御室）は、取付ボルトによりサポート鋼材に固定する。</td> <td>アンテナ</td> </tr> <tr> <td>サポート鋼材は、基礎ボルトにより壁面に設置する。</td> <td></td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要		基礎・支持構造	主体構造	衛星電話設備用アンテナ（中央制御室）は、取付ボルトによりサポート鋼材に固定する。	アンテナ	サポート鋼材は、基礎ボルトにより壁面に設置する。		<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-1-3 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">計画の概要</td> <td style="width: 70%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基礎・支持構造</td> <td style="text-align: center;">主体構造</td> </tr> <tr> <td>衛星電話設備用アンテナ（中央制御室）は、取付ボルトによりサポート鋼材に固定する。</td> <td>アンテナ</td> </tr> <tr> <td>サポート鋼材は、基礎ボルトにより原子炉建物の屋外壁面に設置する。</td> <td></td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要		基礎・支持構造	主体構造	衛星電話設備用アンテナ（中央制御室）は、取付ボルトによりサポート鋼材に固定する。	アンテナ	サポート鋼材は、基礎ボルトにより原子炉建物の屋外壁面に設置する。		<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
計画の概要																		
基礎・支持構造	主体構造																	
衛星電話設備用アンテナ（中央制御室）は、取付ボルトによりサポート鋼材に固定する。	アンテナ																	
サポート鋼材は、基礎ボルトにより壁面に設置する。																		
計画の概要																		
基礎・支持構造	主体構造																	
衛星電話設備用アンテナ（中央制御室）は、取付ボルトによりサポート鋼材に固定する。	アンテナ																	
サポート鋼材は、基礎ボルトにより原子炉建物の屋外壁面に設置する。																		

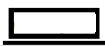

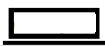

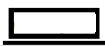

【VI-2-6-7-3-1-6 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考												
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-1-6 R1</p> <p style="text-align: center;">表 1-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> 基礎・支持構造 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（直立形）は、基礎ボルトにて基礎に設置する。 </td> <td style="width: 30%;"> 主体構造 アンテナ </td> <td style="width: 40%; text-align: center;">  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要		概略構造図	基礎・支持構造 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（直立形）は、基礎ボルトにて基礎に設置する。	主体構造 アンテナ	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-1-6 R2</p> <p style="text-align: center;">表 1-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> <th style="text-align: center;">概略構造図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;"> 基礎・支持構造 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（直立形）は、基礎ボルトにて緊急時対策所の屋外基礎に設置する。 </td> <td style="width: 30%;"> 主体構造 アンテナ </td> <td style="width: 40%; text-align: center;">  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要		概略構造図	基礎・支持構造 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（直立形）は、基礎ボルトにて緊急時対策所の屋外基礎に設置する。	主体構造 アンテナ	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	<p>記載の適正化</p>
計画の概要		概略構造図												
基礎・支持構造 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（直立形）は、基礎ボルトにて基礎に設置する。	主体構造 アンテナ	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>												
計画の概要		概略構造図												
基礎・支持構造 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（直立形）は、基礎ボルトにて緊急時対策所の屋外基礎に設置する。	主体構造 アンテナ	 <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>												

【VI-2-6-7-3-1-6 衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考				
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-1-6 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（壁掛形）は、溶接にてアンテナ支持柱（80A）に固定する。アンテナ支持柱（80A）は、取付金具取付ボルトにより取付金具に固定する。取付金具は、基礎ボルトにより壁面に設置する。</p> </td> <td style="width: 70%; vertical-align: top;"> <p>主体構造</p> <p>アンテナ</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">概略構造図</p> <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（壁掛形）は、溶接にてアンテナ支持柱（80A）に固定する。アンテナ支持柱（80A）は、取付金具取付ボルトにより取付金具に固定する。取付金具は、基礎ボルトにより壁面に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>アンテナ</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-1-6 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（壁掛形）は、溶接にてアンテナ支持柱（80A）に固定する。アンテナ支持柱（80A）は、取付金具取付ボルトにより取付金具に固定する。取付金具は、基礎ボルトにより緊急時対策所の屋外壁面に設置する。</p> </td> <td style="width: 70%; vertical-align: top;"> <p>主体構造</p> <p>アンテナ</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">概略構造図</p> <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（壁掛形）は、溶接にてアンテナ支持柱（80A）に固定する。アンテナ支持柱（80A）は、取付金具取付ボルトにより取付金具に固定する。取付金具は、基礎ボルトにより緊急時対策所の屋外壁面に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>アンテナ</p>	<p>記載の適正化</p>
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（壁掛形）は、溶接にてアンテナ支持柱（80A）に固定する。アンテナ支持柱（80A）は、取付金具取付ボルトにより取付金具に固定する。取付金具は、基礎ボルトにより壁面に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>アンテナ</p>					
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>衛星電話設備用アンテナ（緊急時対策所）（壁掛形）は、溶接にてアンテナ支持柱（80A）に固定する。アンテナ支持柱（80A）は、取付金具取付ボルトにより取付金具に固定する。取付金具は、基礎ボルトにより緊急時対策所の屋外壁面に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>アンテナ</p>					

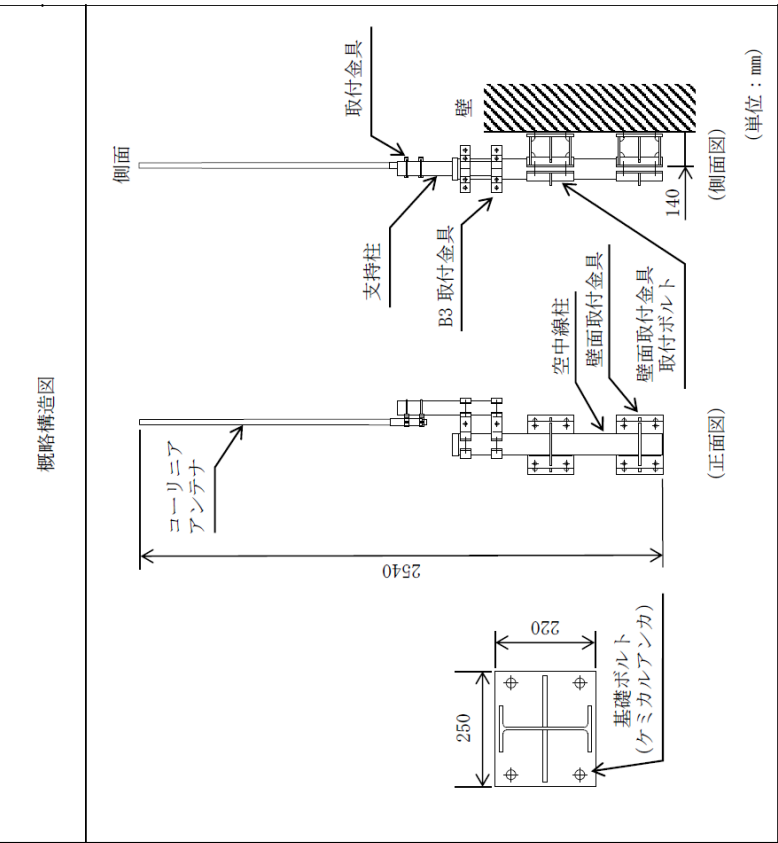
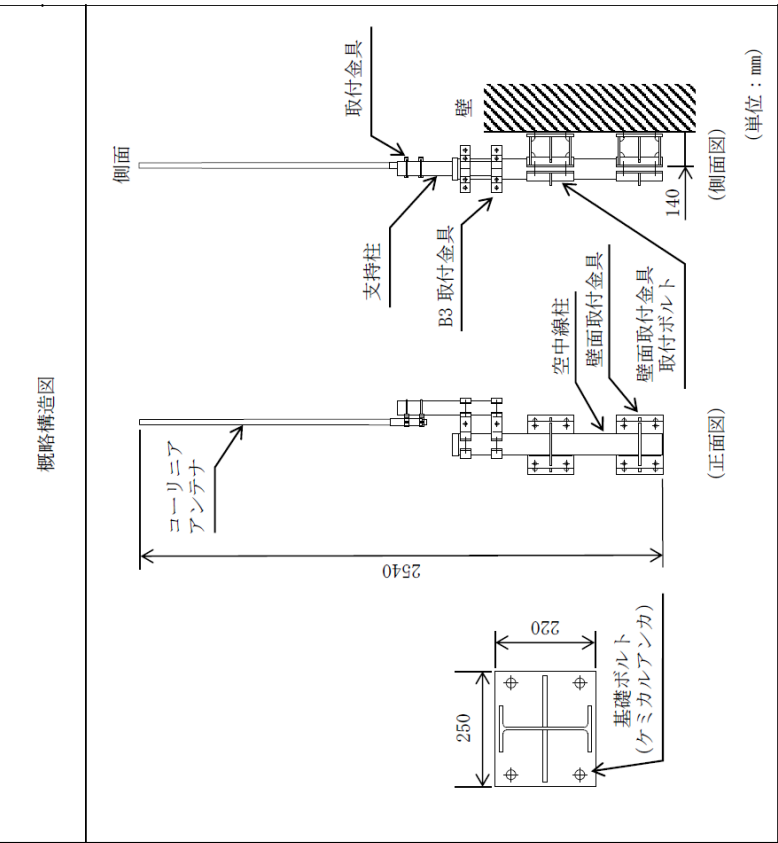
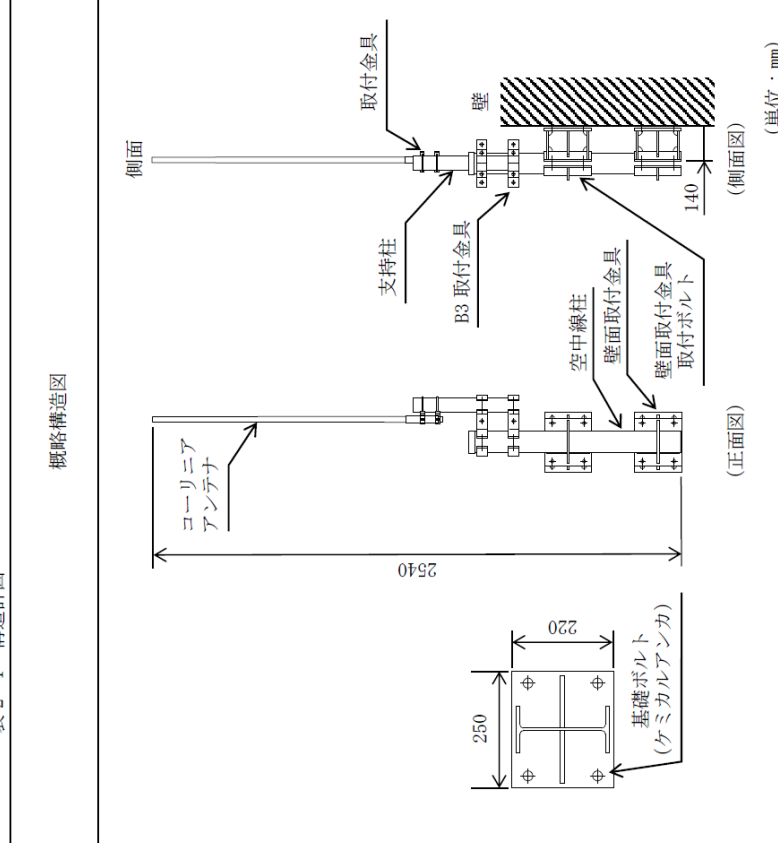
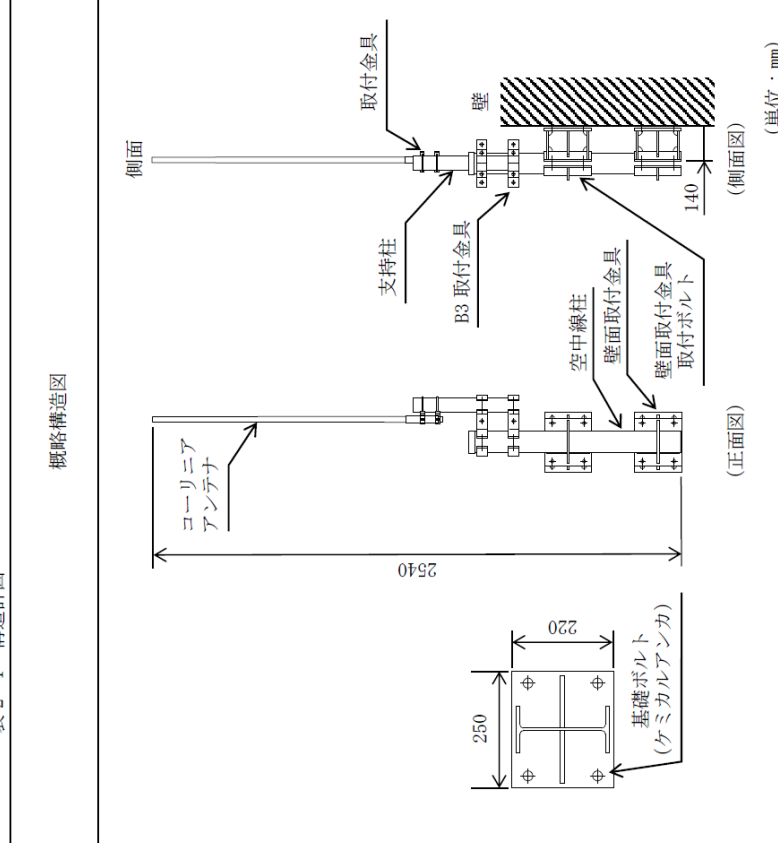
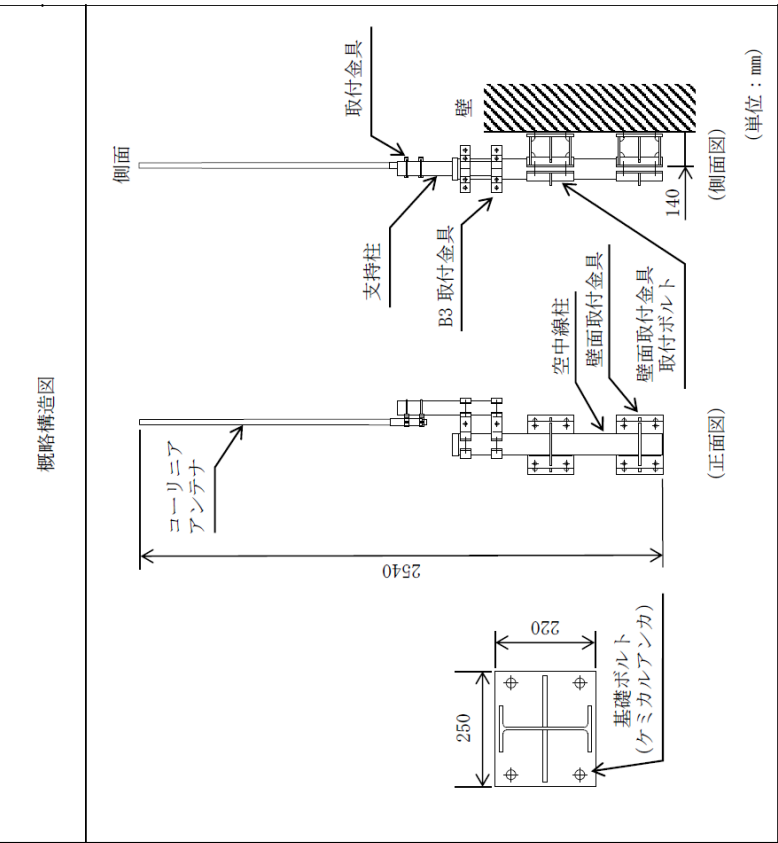
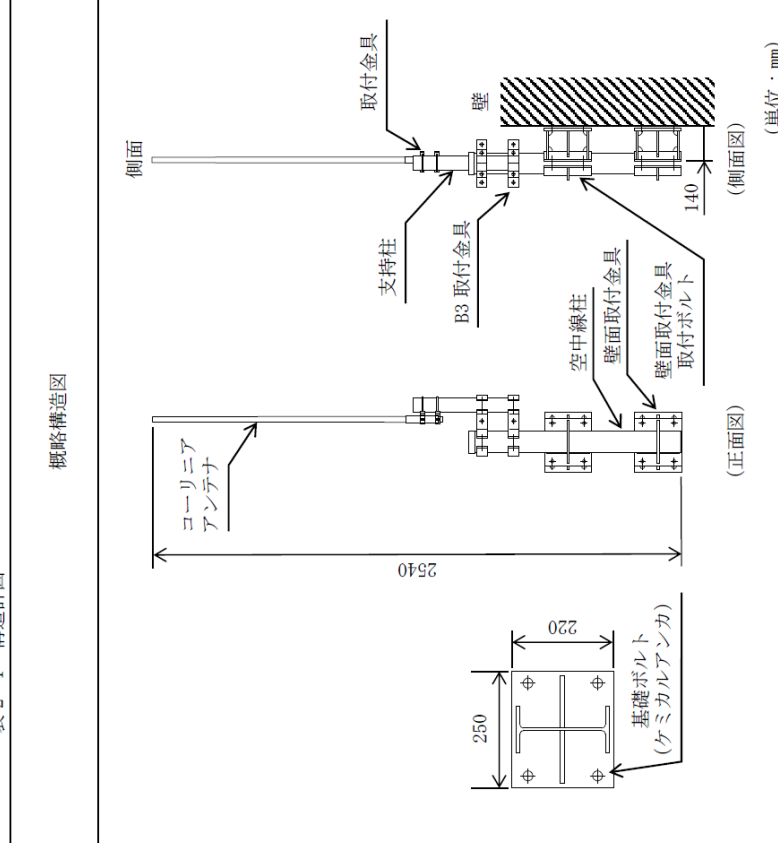
【VI-2-6-7-3-2-1 無線通信設備（固定型）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考										
<p>3. 固有周期</p> <p>3.1 固有周期の確認</p> <p>無線通信設備（固定型）（中央制御室）の固有周期は、正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-1 固有周期 (単位：s)</p> <table border="1" data-bbox="546 724 1187 821"> <tr> <td rowspan="2">無線通信設備（固定型） （中央制御室）</td> <td>水平</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); position: absolute; left: 120px; top: 460px;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-1 R1</p>	無線通信設備（固定型） （中央制御室）	水平		鉛直		<p>3. 固有周期</p> <p>3.1 固有周期の確認</p> <p>無線通信設備（固定型）（中央制御室）の固有周期は、正弦波掃引試験により確認する。試験の結果、固有周期は0.05秒以下であり、剛構造であることを確認した。固有周期の確認結果を表3-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表3-1 固有周期 (単位：s)</p> <table border="1" data-bbox="1745 724 2386 821"> <tr> <td rowspan="2">無線通信設備（固定型） （中央制御室）</td> <td>水平</td> <td><u>0.05 以下</u></td> </tr> <tr> <td>鉛直</td> <td><u>0.05 以下</u></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">3</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); position: absolute; left: 525px; top: 460px;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-1 R2</p>	無線通信設備（固定型） （中央制御室）	水平	<u>0.05 以下</u>	鉛直	<u>0.05 以下</u>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
無線通信設備（固定型） （中央制御室）		水平										
	鉛直											
無線通信設備（固定型） （中央制御室）	水平	<u>0.05 以下</u>										
	鉛直	<u>0.05 以下</u>										

【VI-2-6-7-3-2-1 無線通信設備（固定型）の耐震性についての計算書】

補正前		補正後		備考
S2 補 VI-2-6-7-3-2-1 R1				
【無線通信設備（固定型）（中央制御室）の耐震性についての計算結果】				
1. 重大事故等対処設備				
1.1 設計条件				
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s) 水平方向 鉛直方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度 水平方向 鉛直方向 設計震度
無線通信設備（固定型） （中央制御室）	常設/防止 常設/緩和	制御室建物 EL. 16.9*1	□ □	— — C _H =3.41*2 C _V =1.58*2
注記*1：基準床レベルを示す。 *2：設計用震度Ⅱ（基準地震動 S _s ）				
1.2 機器要目				
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	S _{y i} (MPa)
基礎ボルト (I=1)	□	358	10 (M10)	200
部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)
基礎ボルト (I=1)	222 205	226 295	3 2	— 240
注記*：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。				
S2 補 VI-2-6-7-3-2-1 R2				
【無線通信設備（固定型）（中央制御室）の耐震性についての計算結果】				
1. 重大事故等対処設備				
1.1 設計条件				
機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期(s) 水平方向 鉛直方向	弾性設計用地震動 S _d 又は静的震度 水平方向 鉛直方向 設計震度
無線通信設備（固定型） （中央制御室）	常設/防止 常設/緩和	制御室建物 EL. 16.9*1	□ □	— — C _H =3.41*2 C _V =1.58*2
注記*1：基準床レベルを示す。 *2：設計用震度Ⅱ（基準地震動 S _s ）				
1.2 機器要目				
部材	m _i (kg)	h _i (mm)	A _{b i} (mm ²)	S _{y i} (MPa)
基礎ボルト (I=1)	□	358	10 (M10)	200
部材	ℓ _{1 i} * (mm)	ℓ _{2 i} * (mm)	n _{f i} *	F _i (MPa)
基礎ボルト (I=1)	222 205	226 295	3 2	— 240
注記*：各ボルトの機器要目における上段は短辺方向転倒に対する評価時の要目を示し、下段は長辺方向転倒に対する評価時の要目を示す。				
記載の適正化				

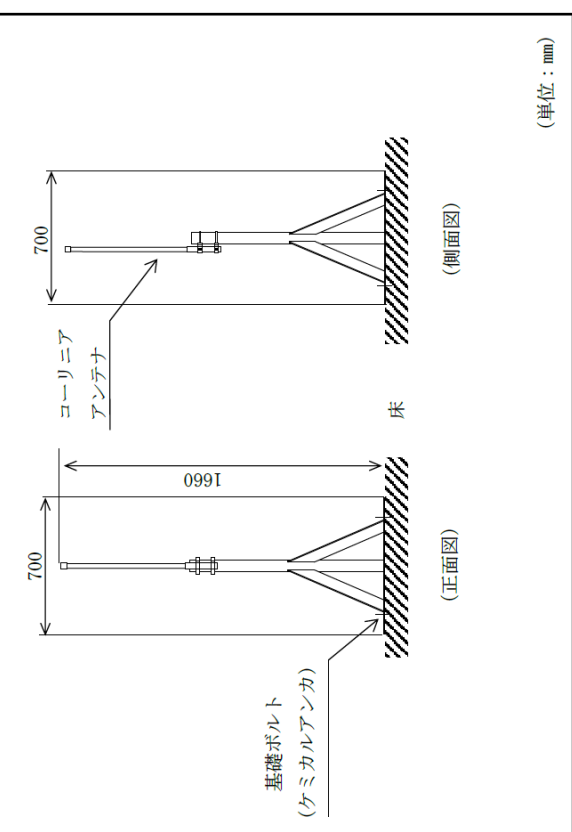
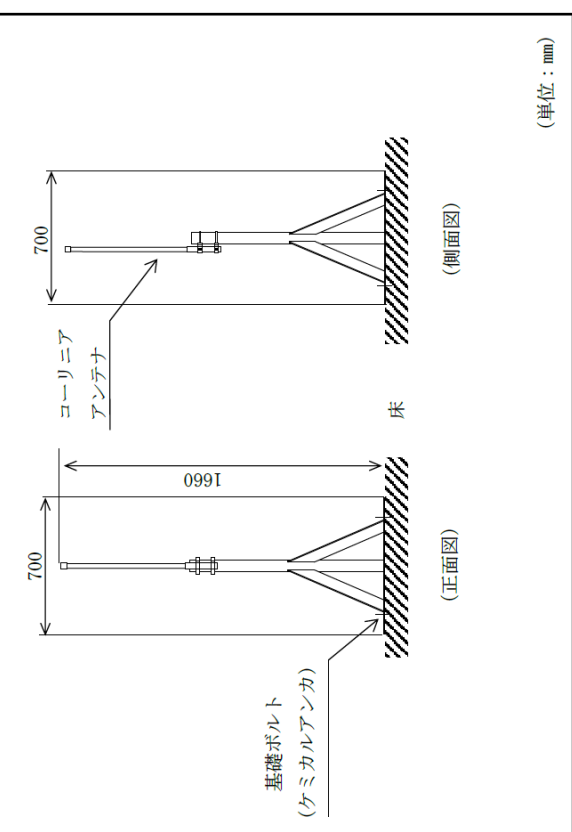
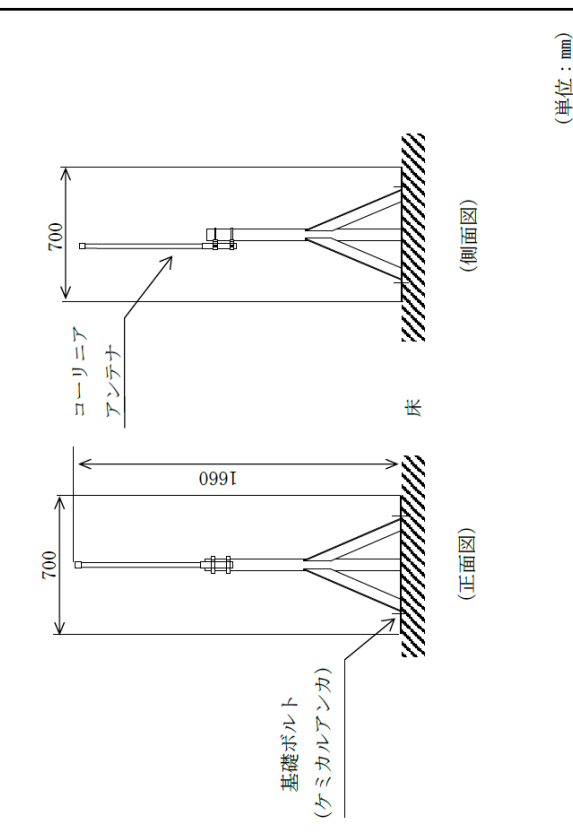
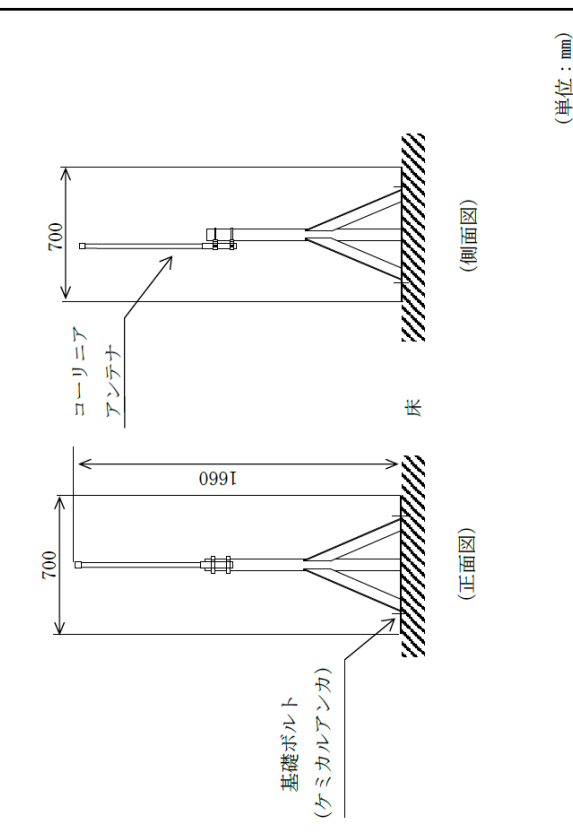
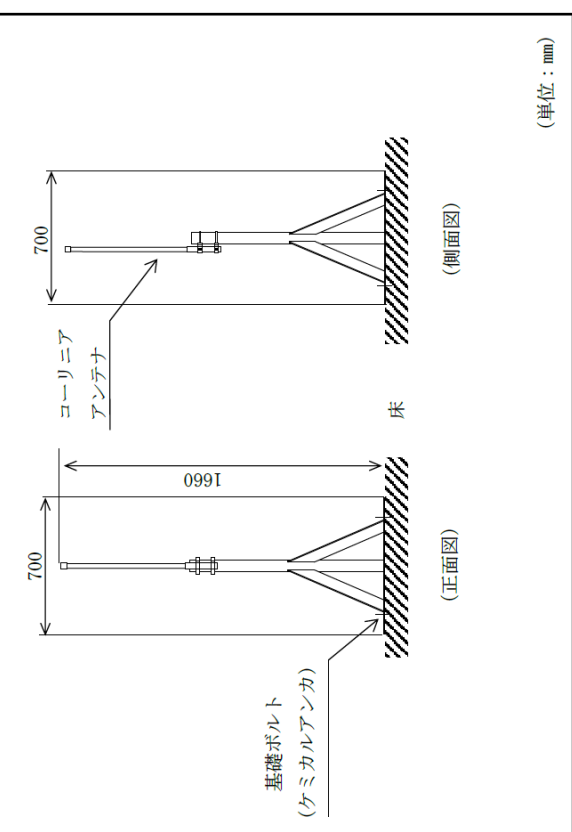
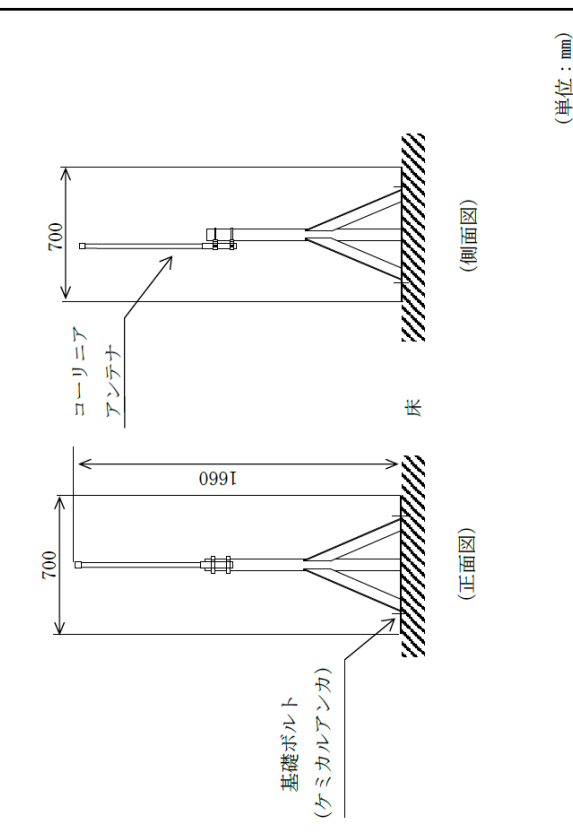
【VI-2-6-7-3-2-3 無線通信設備用アンテナ（中央制御室）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考				
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-3 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>コーリニアアンテナは、取付金具により支持柱に固定する。 支持柱は、B3 取付金具により空中線柱に固定する。 空中線柱は、壁面取付金具取付ボルトにより壁面に固定する。 壁面取付金具は、基礎ボルトにより壁面に設置する。</p> </td> <td style="width: 70%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">概略構造図</p>  </td> </tr> </table>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>コーリニアアンテナは、取付金具により支持柱に固定する。 支持柱は、B3 取付金具により空中線柱に固定する。 空中線柱は、壁面取付金具取付ボルトにより壁面に固定する。 壁面取付金具は、基礎ボルトにより壁面に設置する。</p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> 	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-3 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>コーリニアアンテナは、取付金具により支持柱に固定する。 支持柱は、B3 取付金具により空中線柱に固定する。 空中線柱は、壁面取付金具取付ボルトにより壁面に固定する。 壁面取付金具は、<u>基礎ボルトにより原子炉建物の屋外壁面に設置する。</u></p> </td> <td style="width: 70%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">概略構造図</p>  </td> </tr> </table>	<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>コーリニアアンテナは、取付金具により支持柱に固定する。 支持柱は、B3 取付金具により空中線柱に固定する。 空中線柱は、壁面取付金具取付ボルトにより壁面に固定する。 壁面取付金具は、<u>基礎ボルトにより原子炉建物の屋外壁面に設置する。</u></p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> 	<p>記載の適正化</p>
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>コーリニアアンテナは、取付金具により支持柱に固定する。 支持柱は、B3 取付金具により空中線柱に固定する。 空中線柱は、壁面取付金具取付ボルトにより壁面に固定する。 壁面取付金具は、基礎ボルトにより壁面に設置する。</p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> 					
<p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>コーリニアアンテナは、取付金具により支持柱に固定する。 支持柱は、B3 取付金具により空中線柱に固定する。 空中線柱は、壁面取付金具取付ボルトにより壁面に固定する。 壁面取付金具は、<u>基礎ボルトにより原子炉建物の屋外壁面に設置する。</u></p>	<p style="text-align: center;">概略構造図</p> 					

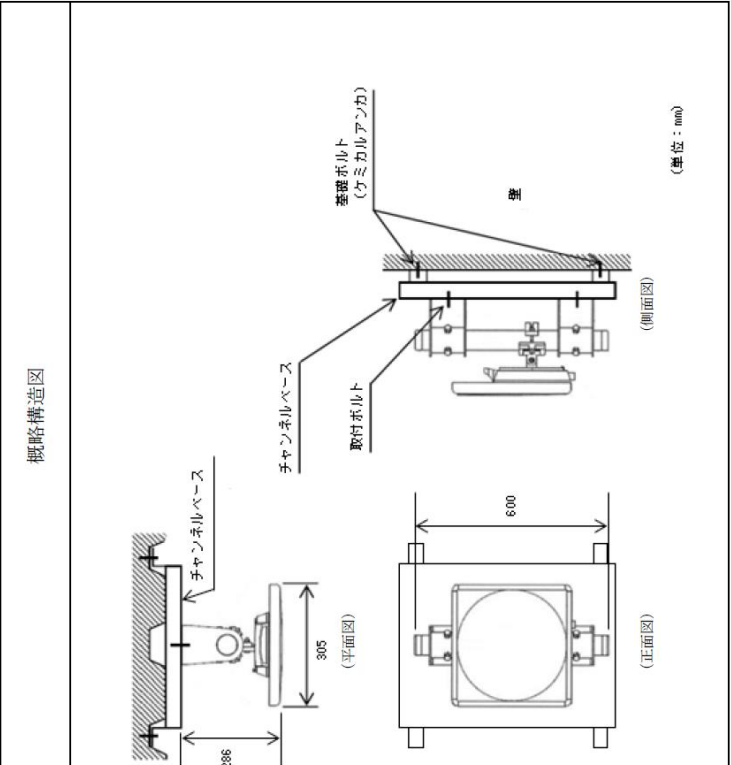
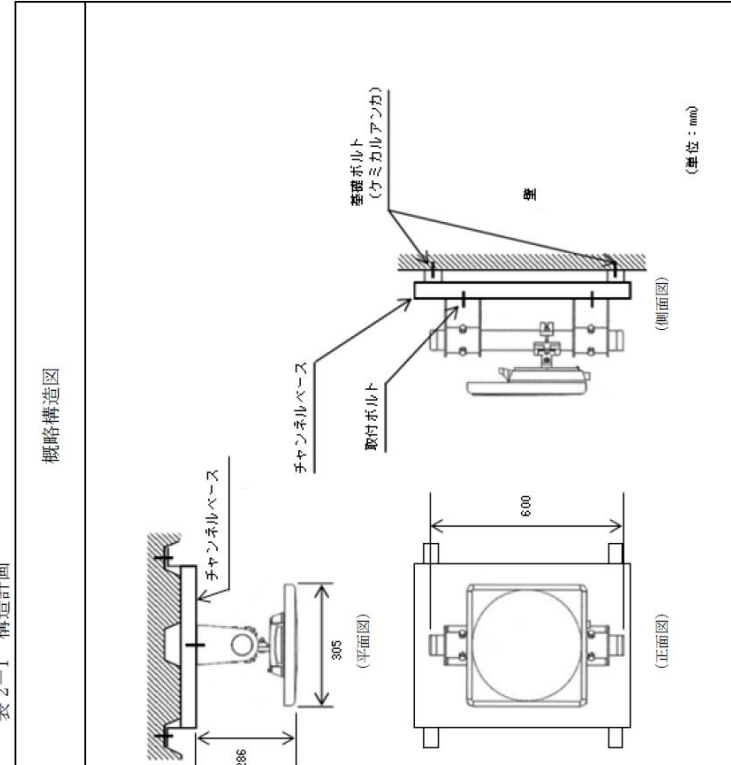
【VI-2-6-7-3-2-5 緊急時対策所 無線通信設備用ラックの耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-5 R1E</p> <p style="text-align: center;">25</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-5 R2E</p> <p style="text-align: center;">25</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-6-7-3-2-6 無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考								
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-6 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">計画の概要</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">概略構造図</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>基礎・支持構造</p> <p>無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所）は、基礎ボルトにて基礎に設置する。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>主体構造</p> <p>コーリニアアンテナ</p>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要	概略構造図	<p>基礎・支持構造</p> <p>無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所）は、基礎ボルトにて基礎に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>コーリニアアンテナ</p>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-2-6 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">計画の概要</td> <td style="width: 70%; text-align: center;">概略構造図</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>基礎・支持構造</p> <p>無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所）は、基礎ボルトにて緊急時対策所の屋外基礎に設置する。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>主体構造</p> <p>コーリニアアンテナ</p>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">2</p>	計画の概要	概略構造図	<p>基礎・支持構造</p> <p>無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所）は、基礎ボルトにて緊急時対策所の屋外基礎に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>コーリニアアンテナ</p>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>	<p>記載の適正化</p>
計画の概要	概略構造図									
<p>基礎・支持構造</p> <p>無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所）は、基礎ボルトにて基礎に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>コーリニアアンテナ</p>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>									
計画の概要	概略構造図									
<p>基礎・支持構造</p> <p>無線通信設備用アンテナ（緊急時対策所）は、基礎ボルトにて緊急時対策所の屋外基礎に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>コーリニアアンテナ</p>  <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p>									

【VI-2-6-7-3-4-5 発信用アンテナ（1・2号）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考								
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-4-5 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> </tr> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>基礎・支持構造</p> <p>発信用アンテナ（1・2号）は、取付ボルトにてチャンネルベースに設置する。</p> <p>チャンネルベースは、基礎ボルトで壁に設置する。</p> </td> <td style="width: 70%; vertical-align: top;"> <p>主体構造</p> <p>壁掛形（鋼材及び鋼板を組み合わせた壁掛形のアンテナ）</p> </td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div>	計画の概要		<p>基礎・支持構造</p> <p>発信用アンテナ（1・2号）は、取付ボルトにてチャンネルベースに設置する。</p> <p>チャンネルベースは、基礎ボルトで壁に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>壁掛形（鋼材及び鋼板を組み合わせた壁掛形のアンテナ）</p>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-6-7-3-4-5 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">計画の概要</th> </tr> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> <p>基礎・支持構造</p> <p>発信用アンテナ（1・2号）は、取付ボルトにてチャンネルベースに設置する。</p> <p>チャンネルベースは、<u>基礎ボルトで原子炉建物の屋外壁に設置する。</u></p> </td> <td style="width: 70%; vertical-align: top;"> <p>主体構造</p> <p>壁掛形（鋼材及び鋼板を組み合わせた壁掛形のアンテナ）</p> </td> </tr> </table> <div style="text-align: center;">  </div>	計画の概要		<p>基礎・支持構造</p> <p>発信用アンテナ（1・2号）は、取付ボルトにてチャンネルベースに設置する。</p> <p>チャンネルベースは、<u>基礎ボルトで原子炉建物の屋外壁に設置する。</u></p>	<p>主体構造</p> <p>壁掛形（鋼材及び鋼板を組み合わせた壁掛形のアンテナ）</p>	<p>記載の適正化</p>
計画の概要										
<p>基礎・支持構造</p> <p>発信用アンテナ（1・2号）は、取付ボルトにてチャンネルベースに設置する。</p> <p>チャンネルベースは、基礎ボルトで壁に設置する。</p>	<p>主体構造</p> <p>壁掛形（鋼材及び鋼板を組み合わせた壁掛形のアンテナ）</p>									
計画の概要										
<p>基礎・支持構造</p> <p>発信用アンテナ（1・2号）は、取付ボルトにてチャンネルベースに設置する。</p> <p>チャンネルベースは、<u>基礎ボルトで原子炉建物の屋外壁に設置する。</u></p>	<p>主体構造</p> <p>壁掛形（鋼材及び鋼板を組み合わせた壁掛形のアンテナ）</p>									


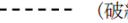


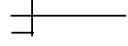

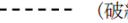


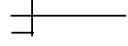

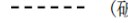


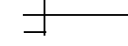

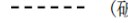


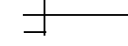

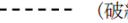


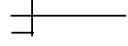

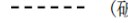


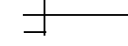
【VI-2-7-3-1-1 管の耐震性に関する説明書（サイトバンカ設備）(1) 基本方針】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">2. 耐震支持設計方針</p> <p>管及び管に取り付く支持構造物を含む配管系の設計は、管経路の設計、支持構造物配置の設計、支持構造物構造の設計の手順で実施する。各設計項目における設計方法を以下に示す。</p> <p style="text-align: center;">2.1 管経路の設計</p> <p>管経路は建物形状、機器配置や系統設計条件を考慮するとともに、保守点検性の確保を考慮して決定する。この際、管内部にドレン溜りやエアポケットが生じることのないようにする。なお、次項の支持構造物配置の設計において、管経路の変更が必要であると判断された場合は、管経路の再検討を実施する。</p> <p style="text-align: center;">2.2 支持構造物配置の設計</p> <p>支持構造物配置の検討に当たっては、三次元多質点系はモデルによる解析を実施する。解析においては、原則として、固定点から固定点までを独立した1つのブロックとして配管系をモデル化し、配管系の固有値、並びに自重や地震等により管及び支持点に作用する荷重を算定する。なお、支持構造物の配置は、建物との共振のおそれがない配置となるよう決定する。支持構造物配置の成立性確認として、以下に示す項目を確認する。</p> <p>(1) 配管系の固有値を確認し、配管系が建物との共振のおそれがないことを確認する。 (2) 解析により算定した管に作用する荷重に基づき計算した管の応力が、許容応力以下となることを確認する。 (3) 解析により算定した支持点荷重が過大でないことを確認する。 (4) 建物や他構造物の配置を考慮した上で、解析上の支持点に支持構造物が設置可能であることを確認する。</p> <p>確認の結果、上述の条件を満たさない場合は、支持構造物配置の再検討を実施する。支持構造物配置の再検討で成立性確認が困難と判断される場合は、必要に応じて管経路の再検討を実施する。</p> <p>なお、解析は計算機コード「H I S A P」により実施する。また、配管系の解析モデル作成に当たっては、以下を考慮する。</p> <p>(1) 配管系は三次元多質点系はモデルとし、曲げ、せん断、ねじり及び軸力に対する剛性を考慮する。 (2) 弁等の偏心質量がある場合には、その影響を評価できるモデル化を行う。また、弁の剛性を考慮したモデル化を行う。 (3) 同一モデルに含める範囲は、原則として固定点から固定点までとする。 (4) 分岐管がある場合には、その影響を考慮できるモデル化を行う。ただし、母管に対して分岐管の径が十分に小さく、分岐管の振動が母管に与える影響が小さい場合にはこの限りではない。 (5) 質点は応力が高くなると考えられる点に設定するとともに、代表的な振動モードを十分に</p> <p style="text-align: center;">2</p>	<p style="text-align: center;">2. 耐震支持設計方針</p> <p>管及び管に取り付く支持構造物を含む配管系の設計は、管経路の設計、支持構造物配置の設計、支持構造物構造の設計の手順で実施する。各設計項目における設計方法を以下に示す。</p> <p style="text-align: center;">2.1 管経路の設計</p> <p>管経路は建物形状、機器配置や系統設計条件を考慮するとともに、保守点検性の確保を考慮して決定する。この際、管内部にドレン溜りやエアポケットが生じることのないようにする。なお、次項の支持構造物配置の設計において、管経路の変更が必要であると判断された場合は、管経路の再検討を実施する。</p> <p style="text-align: center;">2.2 支持構造物配置の設計</p> <p>支持構造物配置の検討に当たっては、三次元多質点系はモデルによる解析を実施する。解析においては、原則として、固定点から固定点までを独立した1つのブロックとして配管系をモデル化し、配管系の固有値、並びに自重や地震等により管及び支持点に作用する荷重を算定する。なお、支持構造物の配置は、建物との共振のおそれがない配置となるよう決定する。支持構造物配置の成立性確認として、以下に示す項目を確認する。</p> <p>(1) 配管系の固有値を確認し、配管系が建物との共振のおそれがないことを確認する。 (2) 解析により算定した管に作用する荷重に基づき計算した管の応力が、許容応力以下となることを確認する。 (3) 解析により算定した支持点荷重が過大でないことを確認する。 (4) 建物や他構造物の配置を考慮した上で、解析上の支持点に支持構造物が設置可能であることを確認する。</p> <p>確認の結果、上述の条件を満たさない場合は、支持構造物配置の再検討を実施する。支持構造物配置の再検討で成立性確認が困難と判断される場合は、必要に応じて管経路の再検討を実施する。</p> <p>なお、解析は解析コード「H I S A P」により実施する。また、配管系の解析モデル作成に当たっては、以下を考慮する。</p> <p>(1) 配管系は三次元多質点系はモデルとし、曲げ、せん断、ねじり及び軸力に対する剛性を考慮する。 (2) 弁等の偏心質量がある場合には、その影響を評価できるモデル化を行う。また、弁の剛性を考慮したモデル化を行う。 (3) 同一モデルに含める範囲は、原則として固定点から固定点までとする。 (4) 分岐管がある場合には、その影響を考慮できるモデル化を行う。ただし、母管に対して分岐管の径が十分に小さく、分岐管の振動が母管に与える影響が小さい場合にはこの限りではない。 (5) 質点は応力が高くなると考えられる点に設定するとともに、代表的な振動モードを十分に</p> <p style="text-align: center;">2</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

S2 補 VI-2-7-3-1-1(1) R1

S2 補 VI-2-7-3-1-1(1) R2

【VI-2-7-3-1-1 管の耐震性に関する説明書（サイトバンカ設備）（2）計算書】

補正前	補正後	備考																								
<p style="text-align: center;">2.2 鳥瞰図</p> <p style="text-align: center;">鳥瞰図記号凡例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">  (太線) </td> <td>工事計画記載範囲の管</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  (破線) </td> <td>工事計画記載範囲外の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td>質点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td>アンカ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td>レストレイント <u>(本図は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。)</u></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注：鳥瞰図中の寸法の単位はmmである。</p> <p style="text-align: center;">4</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 115px; top: 470px;">S2 補 VI-2-7-3-1-1(2) R1</p>	記号	内容	 (太線)	工事計画記載範囲の管	 (破線)	工事計画記載範囲外の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管		質点		アンカ		レストレイント <u>(本図は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。)</u>	<p style="text-align: center;">2.2 鳥瞰図</p> <p style="text-align: center;">鳥瞰図記号凡例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">記号</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">  (太線) </td> <td>工事計画記載範囲の管</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  (破線) </td> <td>工事計画記載範囲外の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td>質点</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td>アンカ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">  </td> <td>レストレイント</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注：鳥瞰図中の寸法の単位はmmである。</p> <p style="text-align: center;">4</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: 520px; top: 470px;">S2 補 VI-2-7-3-1-1(2) R2</p>	記号	内容	 (太線)	工事計画記載範囲の管	 (破線)	工事計画記載範囲外の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管		質点		アンカ		レストレイント	<p>記載の適正化</p>
記号	内容																									
 (太線)	工事計画記載範囲の管																									
 (破線)	工事計画記載範囲外の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管																									
	質点																									
	アンカ																									
	レストレイント <u>(本図は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。)</u>																									
記号	内容																									
 (太線)	工事計画記載範囲の管																									
 (破線)	工事計画記載範囲外の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管																									
	質点																									
	アンカ																									
	レストレイント																									

【VI-2-8-1 放射線管理施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考		
S2 補 VI-2-8-1 R1						
表 2-1-1 耐震評価条件整理一覧表 (1/3)						
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		
	耐震重要度分類	新規制基準 施行前に認 可された実 績との差異	耐震計算の 記載箇所	設備分類*1	設計基準対象 施設との評価 条件の差異	耐震計算の 記載箇所
放射線管理施設 放射線管理用計測装置	S	無	VI-2-8-2-1	—	—	—
	S	無	VI-2-8-2-2	常設耐震/防止 常設/緩和	有	VI-2-8-2-2
	S	無	VI-2-8-2-3	常設耐震/防止 常設/緩和	有	VI-2-8-2-3
	S	無	VI-2-8-2-4	—	—	—
	S	無	VI-2-8-2-5	—	—	—
	S	無	VI-2-8-2-6	—	—	—
	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-7
	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-8
	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-9
	—	—*2	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-10
	S2 補 VI-2-8-1 R2					
	表 2-1-1 耐震評価条件整理一覧表 (1/3)					
	評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備	
耐震重要度分類		新規制基準 施行前に認 可された実 績との差異	耐震計算の 記載箇所	設備分類*1	設計基準対象 施設との評価 条件の差異	耐震計算の 記載箇所
放射線管理施設 放射線管理用計測装置	S	無	VI-2-8-2-1	—	—	—
	S	無	VI-2-8-2-2	常設耐震/防止 常設/緩和	有	VI-2-8-2-2
	S	無	VI-2-8-2-3	常設耐震/防止 常設/緩和	有	VI-2-8-2-3
	S	無	VI-2-8-2-4	—	—	—
	S	無	VI-2-8-2-5	—	—	—
	S	無	VI-2-8-2-6	—	—	—
	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-7
	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-8
	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-9
	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-2-10
	記載の適正化					

【VI-2-8-1 放射線管理施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考		
S2 補 VI-2-8-1 R1						
表 2-1 耐震評価条件整理一覧表 (2/3)						
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		
	耐震重要度分類	新規制基準 施行前に認 可された実 績との差異	耐震計算の 記載箇所	設備分類*1	設計基準対象 施設との評価 条件の差異	耐震計算の 記載箇所
放射線管理施設 換気設備 (中央制御室空調換気系)	—	—*1	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-3-1-1
	S	—*2	VI-2-8-3-1-1	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-1
	S	無	VI-2-8-3-1-2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-2
	S	無	VI-2-8-3-1-3	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-3
	S	無	VI-2-8-3-1-4	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-4
	—	—*2	—	常設/緩和	—	VI-2-8-3-2-1
S2 補 VI-2-8-1 R2						
表 2-1 耐震評価条件整理一覧表 (2/3)						
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備		
	耐震重要度分類	新規制基準 施行前に認 可された実 績との差異	耐震計算の 記載箇所	設備分類*1	設計基準対象 施設との評価 条件の差異	耐震計算の 記載箇所
放射線管理施設 換気設備 (中央制御室空調換気系)	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	VI-2-8-3-1-1
	S	—*2	VI-2-8-3-1-1	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-1
	S	無	VI-2-8-3-1-2	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-2
	S	無	VI-2-8-3-1-3	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-3
	S	無	VI-2-8-3-1-4	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-3-1-4
	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-8-3-2-1
記載の適正化						

【VI-2-8-1 放射線管理施設の耐震計算結果】

補正前		補正後		備考				
S2 補 VI-2-8-1 R1E								
表 2-1-1 耐震評価条件整理一覧表 (3/3)								
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備				
	耐震重要度分類	新規制基準 施行前に認 可された実 績との差異	耐震計算の 記載箇所	設備分類*1	設計基準対象 施設との評価 条件の差異			
放射線管理施設	換気設備 (緊急時対策用換気空調系)	主配管	—	—	—	VI-2-8-3-3-1		
		差圧計	—	—	—	—	VI-2-8-3-3-2	
生体遮蔽装置	—	原子炉二次遮蔽	B	有	VI-2-8-4-1	常設/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-4-1
		補助遮蔽	B	有	VI-2-8-4-2	常設/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-4-2
		中央制御室遮蔽(1号機 設備, 1, 2号機共用)	S	有	VI-2-8-4-3	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-4-3
		中央制御室待避室遮蔽	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-8-4-4
		緊急時対策所遮蔽	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-8-4-5
注記*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備, 「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備, 「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備, 「常設/その他」は常設重大事故緩和設備以外の常設重大事故等対処設備を示す。 *2: 本工事計画で新規に申請する設備であることから, 差異比較の対象外を示す。								
S2 補 VI-2-8-1 R2E								
表 2-1-1 耐震評価条件整理一覧表 (3/3)								
評価対象設備	設計基準対象施設			重大事故等対処設備				
	耐震重要度分類	新規制基準 施行前に認 可された実 績との差異	耐震計算の 記載箇所	設備分類*1	設計基準対象 施設との評価 条件の差異			
放射線管理施設	換気設備 (緊急時対策用換気空調系)	主配管	—	—	—	—	VI-2-8-3-3-1	
		差圧計	—	—	—	—	—	VI-2-8-3-3-2
生体遮蔽装置	—	原子炉二次遮蔽	B	有	VI-2-8-4-1	常設/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-4-1
		補助遮蔽	B	有	VI-2-8-4-2	常設/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-4-2
		中央制御室遮蔽(1号機 設備, 1, 2号機共用)	S	有	VI-2-8-4-3	常設耐震/防止 常設/緩和	無	VI-2-8-4-3
		中央制御室待避室遮蔽	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-8-4-4
		緊急時対策所遮蔽	—	—	—	常設/緩和	—	VI-2-8-4-5
注記*1: 「常設耐震/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備, 「常設/防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備, 「常設/緩和」は常設重大事故緩和設備, 「常設/その他」は常設重大事故緩和設備以外の常設重大事故等対処設備を示す。 *2: 本工事計画で新規に申請する設備であることから, 差異比較の対象外を示す。								
記載の適正化								

【VI-2-8-2-7 第1ベントフィルタ出口放射線モニタ（低レンジ）の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-8-2-7 R1</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>電離箱</p> <p>検出器は、計器取付ボルトにより検出器用架台に固定され、検出器用架台は架台取付ボルトにより検出器収納箱に固定される。</p> <p>検出器収納箱は、取納箱取付ボルトにてチャンネルベース取付ボルトにて基礎架台上に設置され、基礎架台は基礎ボルトにて基礎に設置する。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>概略構造図</p> <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-8-2-7 R2</p> <p style="text-align: center;">表 2-1 構造計画</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>計画の概要</p> <p>基礎・支持構造</p> <p>電離箱</p> <p>検出器は、計器取付ボルトにより検出器用架台に固定され、検出器用架台は架台取付ボルトにより検出器収納箱に固定される。</p> <p>検出器収納箱は、取納箱取付ボルトにてチャンネルベース取付ボルトにて基礎架台上に設置され、基礎架台は基礎ボルトにて基礎に設置する。</p> <p>第1ベントフィルタ格納槽の屋外基礎に設置する。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>概略構造図</p> <p style="text-align: right;">(単位：mm)</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【VI-2-8-4-4 中央制御室待避室遮蔽の耐震性についての計算書】

補正前	補正後	備考																																																																																
<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-8-4-4 R1</p> <p style="text-align: center;">表 4-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">許容応力状態</th> <th colspan="3">許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)</th> <th colspan="3">許容限界*2 (ボルト等)</th> </tr> <tr> <th colspan="3">一次応力</th> <th colspan="3">一次応力</th> </tr> <tr> <th>引張</th> <th>せん断</th> <th>圧縮</th> <th>引張</th> <th>せん断</th> <th>曲げ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ⅢAS</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>$1.5 \cdot f_s$</td> <td>$1.5 \cdot f_c$</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>$1.5 \cdot f_c$</td> <td>$1.5 \cdot f_b$</td> </tr> <tr> <td>ⅣAS</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>$1.5 \cdot f_c$</td> <td>$1.5 \cdot f_b$</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注記*1：鋼構造設計規程 (日本建築学会 2005 改定) 等の幅厚比の制限を満足させる。 *2：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。 *3：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。</p> <p style="text-align: center;">16</p>	許容応力状態	許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)			許容限界*2 (ボルト等)			一次応力			一次応力			引張	せん断	圧縮	引張	せん断	曲げ	ⅢAS	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	ⅣAS	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	—	—	VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	<p style="text-align: center;">S2 補 VI-2-8-4-4 R2</p> <p style="text-align: center;">表 4-2 許容応力 (重大事故等その他の支持構造物)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">許容応力状態</th> <th colspan="3">許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)</th> <th colspan="3">許容限界*2 (ボルト等)</th> </tr> <tr> <th colspan="3">一次応力</th> <th colspan="3">一次応力</th> </tr> <tr> <th>引張</th> <th>せん断</th> <th>圧縮</th> <th>引張</th> <th>せん断</th> <th>曲げ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ⅢAS</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>$1.5 \cdot f_s$</td> <td>$1.5 \cdot f_c$</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>$1.5 \cdot f_c$</td> <td>$1.5 \cdot f_b$</td> </tr> <tr> <td>ⅣAS</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>$1.5 \cdot f_t$</td> <td>$1.5 \cdot f_c$</td> <td>$1.5 \cdot f_b$</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注記*1：鋼構造設計規程 (日本建築学会 2005 改定) 等の幅厚比の制限を満足させる。 *2：応力の組合せが考えられる場合には、組合せ応力に対しても評価を行う。 *3：当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。</p> <p style="text-align: center;">16</p>	許容応力状態	許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)			許容限界*2 (ボルト等)			一次応力			一次応力			引張	せん断	圧縮	引張	せん断	曲げ	ⅢAS	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	ⅣAS	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	—	—	VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
許容応力状態		許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)			許容限界*2 (ボルト等)																																																																													
		一次応力			一次応力																																																																													
	引張	せん断	圧縮	引張	せん断	曲げ																																																																												
ⅢAS	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$																																																																												
ⅣAS	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	—	—																																																																												
VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$																																																																												
許容応力状態	許容限界*1, *2, *3 (ボルト等以外)			許容限界*2 (ボルト等)																																																																														
	一次応力			一次応力																																																																														
	引張	せん断	圧縮	引張	せん断	曲げ																																																																												
ⅢAS	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$																																																																												
ⅣAS	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	—	—																																																																												
VAS (VASとしてⅣASの許容限界を用いる。)	—	—	—	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_c$	$1.5 \cdot f_b$																																																																												